
熊谷市

北島遺跡Ⅹ

熊谷スポーツ文化公園建設事業関係
埋蔵文化財発掘調査報告書

—Ⅴ—

〈第1分冊〉

2005

埼玉 県

財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団



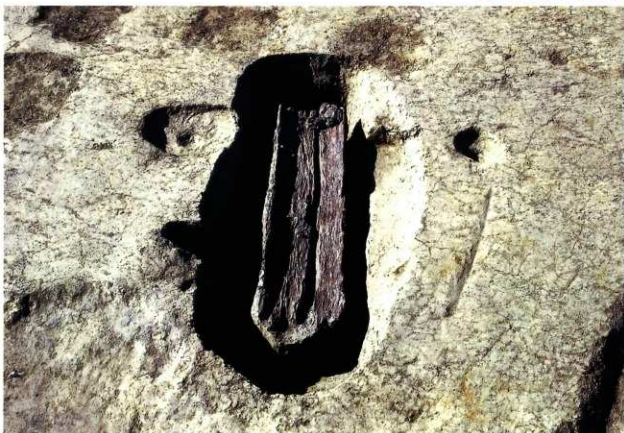
方形環濠と第1・2群の住居跡



方形環濠と第1群の住居跡



周溝が巡る第279号住居跡



第1号木棺墓

序

平成16年10月から11月にかけて、「とどけ この夢 この歓声」をメインテーマとして掲げた、21世紀のモデルとなる第59回国民体育大会「彩の国まごころ国体」と、第4回全国障害者スポーツ大会「彩の国まごころ大会」が熊谷スポーツ文化公園をメイン会場として開催されました。

熊谷スポーツ文化公園は、平成3年4月にオープンした広域都市公園で、県民の文化・スポーツ・レクリエーションの拠点として、また「親しみをもたれる緑豊かで魅力ある公園」へと整備が進められてまいりました。

埼玉県埋蔵文化財調査事業団は、昭和61年以来、公園の整備工事に伴う埋蔵文化財の発掘調査を行い、これまでに縄文時代から中世にわたる竪穴住居跡や建物跡、土器や石器などを発見するなど多くの成果を挙げてまいりました。

国体開催にあたり、この公園内に屋内競技場や陸上競技場、調節池などの建設が予定され、予定地内に存在する埋蔵文化財の取り扱いについて、関係機関が慎重に協議を重ねてまいりました。

その結果、埼玉県教育局生涯学習部文化財保護課の調整により、やむを得ず現状で保存が困難となる範囲について、当事業団が埼玉県県土整備部の委託を受け、発掘調査を行うこととなりました。

調査の結果、弥生時代から平安時代にわたる「ムラ」の姿が明らかになり、多くの土器や石器、木製品などが出土しました。なかでも、弥生時代の水田、埴輪を並べた古墳、古代の豪族館などは、大変貴重な発見となりました。

本書はこれらの調査成果のうち、古墳時代前期の集落跡についてまとめたものです。埋蔵文化財の保護、学術研究の基礎資料として、また埋蔵文化財の普及・啓発や学校教育、生涯学習の参考資料として、広く活用いただければ幸いです。

本書の刊行にあたり、発掘調査に関する諸調整に御尽力いただきました埼玉県教育局生涯学習部文化財保護課をはじめ、埼玉県県土整備部都市公園課、埼玉県熊谷スポーツ文化公園建設事務所、熊谷市教育委員会並びに地元の関係者各位に深く感謝申し上げます。

平成17年3月

財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団
理事長 福田陽充

例言

1. 本書は、埼玉県熊谷市に所在する北島遺跡の発掘調査報告書である。
本編では北島遺跡第19地点の古墳時代前期集落跡にかかる遺構・遺物について掲載した。
2. 遺跡のコード番号と、各年度の発掘調査届に記載した代表地番及びこれに対する埼玉県教育委員会教育長の指示通知は、以下のとおりである。
平成11年度
北島遺跡 第12次 (No59-058)
熊谷市大字上川上字町田364他
平成11年4月16日付け 教文第2-5号
平成12年度
北島遺跡 第15次 (No59-058)
熊谷市大字上川上字323・192他
平成12年4月19日付け 教文第2-3号
3. 発掘調査は、彩の国まごころ国体2004（第59回国民体育大会・第4回全国身体障害者スポーツ大会）開催に伴う熊谷スポーツ文化公園拡張整備事業（彩の国くまがやドーム建設）に先立つ記録保存のための事前調査であり、埼玉県教育局生涯学習部文化財保護課が調整し、埼玉県熊谷県土整備事務所の委託を受け、財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団が実施した。
4. 熊谷スポーツ文化公園建設事業関係埋蔵文化財の既刊発掘調査報告書は以下の通りである。
【北島遺跡】第81集（1989）
【北島遺跡Ⅱ】第88集（1989）
【北島遺跡Ⅲ】第103集（1991）
【北島遺跡Ⅴ】第278集（2002）
【北島遺跡Ⅵ】第286集（2003）
【北島遺跡Ⅶ】第291集（2004）
【北島Ⅷ／田谷】第292集（2004）
【北島遺跡Ⅸ】第293集（2004）
【北島遺跡Ⅺ】第303集（2005）
【北島遺跡Ⅻ】第304集（2005）
【北島遺跡Ⅼ】第305集（2005）
5. 本事業は、I-3に示す組織により実施した。発掘事業は、平成11年4月8日から平成12年3月24日及び平成12年4月10日から平成12年12月28日まで実施し、今井宏・小野美代子・利根川章彦・若松良一・細田勝・富田和夫・鈴木孝之・石井伸明・黒坂慎二・吉田稔・村田章人・田中広明・岩田明広・福田聖・渡辺清志・宮井英一・赤熊浩一・大谷徹・君島勝秀・山本靖が担当した。
整理報告書作成事業は山本が担当し、平成15年4月8日から平成17年3月10日まで実施した。
6. 遺跡の基準点測量及び空中写真撮影は株式会社シン技術コンサルに、出土した骨及び樹種の同定はパリオ・サーヴェイ株式会社に委託した。
7. 発掘における遺構写真は発掘担当者が、遺物写真は大屋道則の協力を得て、山本が撮影した。
8. 出土品の整理および図版の作成は山本が行い、桜井元子・岡本千里の協力を得た。
9. 本書の執筆は、I-1を埼玉県教育局生涯学習部文化財保護課が、ほかを山本が行った。
10. 本書の編集は、山本が行った。
11. 本書にかかる資料は、平成17年度以降、埼玉県立埋蔵文化財センターが管理・保管する。
12. 発掘調査から本書の刊行にあたり、下記の方々から御教示、御協力を賜った。記して謝意を表します（敬称略）。
金子正之 寺社下博 田口一郎 松田 哲
山川守男 吉野 健 熊谷市教育委員会

例則

本書における挿図・遺物観察表等の指示は、以下のとおりである。

1. 遺構番号は、既報告「北島遺跡V」・「北島遺跡IX」で変更した報告番号（新番号）に続けて改番し、遺構番号対照表を付した。但し、遺物の注記には発掘番号を記してある。また、発掘番号で報告した「北島遺跡VI」との重複を回避するため、本書では番号の前にYを付した（例：SJY306）。

2. 全体図・遺構挿図

①X・Yによる座標表示は、国家標準直角座標第IX系に基づく座標値を示し、方位は全て座標北を表す。

②グリッドは、国家標準直角座標第IX系に基づき、10m×10m方眼を設定した。各グリッドの呼称は北西隅の枕番号である。A0グリッドの座標値はX=18.320m、Y=-38.050mである。

③遺構の表記記号は、以下のとおりである。

SJ…住居跡 SD…溝跡 SK…土塋
SR…方形周溝墓 SS…古墳跡
SB…掘立柱建物跡 P…ピット

④挿図の縮尺は、次のとおりである。例外的なものについては、個別に示した。

調査区全測図…1/200 住居跡…1/60
方形周溝墓…1/120 土塋…1/60
溝跡平面…1/120 溝跡断面…1/80
溝跡遺物出土状況図…1/60

⑤住居跡の主軸は、炉跡が寄る壁と直交する軸線とし、主軸方位は座標北を基点に、東西に偏する角度を示した。溝跡の走向方位は、溝底標高の高一低への方向を示した。

⑥土層図に示したレベル数値は、すべて標高(m)を表す。

⑦遺構図中に示したドットは、遺物の出土位置及び接合関係を示し、番号は遺物実測図のそれと一致する。

⑧遺構図中のスクリーントーンは、以下のことを示す。



3. 遺物挿図

①遺物挿図の縮尺は、次のとおりである。例外的なものについては個別に示した。

土器…1/4 石製模造品…1/2
拓影図・砥石・大型石製品…1/3
銅鏃・ガラス玉…1/1

②土器実測図の網かけは次のとおりである。

10%…付着物等の範囲
20%…赤色塗彩の範囲

4. 遺物観察表

①口径・器高・底径の計測値の単位はcmである。
()内の数値は、口径・底径が推定値、器高は残存高を示す。

②胎土は肉眼で観察できる物質について、以下のよう示した。

A…赤色粒 B…石英 C…長石
D…角閃石 E…白色粒 F…白色針状物質
G…雲母 H…片岩 I…黒色粒

③焼成は3段階に分けた。

A…良好 B…普通 C…不良・脆弱

④色調は、『新版標準土色帖 1997年版』に照らし、最も近い色相を記した。

⑤残存率は5%単位で表した。あくまで目安としての大まかな目測である。

⑥備考のNoは発掘調査時にとりあげた番号で、遺物に直接注記したものである。

4. 掲載した地形図は、国土地理院発行1/50,000地形図（熊谷・深谷）を使用した。

目次

口絵

序

例言

例則

〈第1分冊〉

I 発掘調査の概要	1
1. 調査に至るまでの経過	1
2. 発掘・整理報告書作成の経過	2
3. 発掘調査・整理・報告書刊行の組織	4
II 遺跡の立地と環境	6
III 遺跡の概要	11
IV 遺構と遺物	67
1. 住居跡	67
(1) 方形環濠と第1群の住居跡	67
(2) 第2群の住居跡	182
(3) 第3群の住居跡	219
(4) 第4群の住居跡	243
(5) 第5群の住居跡	245
(6) 第6群の住居跡	253

〈第2分冊〉

2. 方形周溝墓	271
3. 木棺墓	310
4. 土壙	314
5. 溝跡	363
6. その他の遺物	394
(1) グリッドピット出土遺物	394
(2) グリッド遺物	396
(3) その他の時期の遺構への混入遺物	406
(4) 表採遺物	414
V 発掘調査の成果と課題	415

写真図版

挿図目次

〈第1分冊〉

第1図	埼玉県の地形	6	第35図	遺構全体図 (27)	46
第2図	周辺の遺跡	7	第36図	遺構全体図 (28)	47
第3図	北島遺跡の発掘調査地点分布図	12	第37図	遺構全体図 (29)	48
第4図	北島遺跡第19地点全体図区割	15	第38図	遺構全体図 (30)	49
第5図	北島遺跡第19地点全体図〈1〉	16	第39図	遺構全体図 (31)	50
第6図	北島遺跡第19地点全体図〈2〉	17	第40図	遺構全体図 (32)	51
第7図	北島遺跡第19地点全体図〈3〉	18	第41図	遺構全体図 (33)	52
第8図	北島遺跡第19地点全体図〈4〉	19	第42図	遺構全体図 (34)	53
第9図	遺構全体図 (1)	20	第43図	遺構全体図 (35)	54
第10図	遺構全体図 (2)	21	第44図	遺構全体図 (36)	55
第11図	遺構全体図 (3)	22	第45図	遺構全体図 (37)	56
第12図	遺構全体図 (4)	23	第46図	遺構全体図 (38)	57
第13図	遺構全体図 (5)	24	第47図	遺構全体図 (39)	58
第14図	遺構全体図 (6)	25	第48図	遺構全体図 (40)	59
第15図	遺構全体図 (7)	26	第49図	第1群の住居跡分布図	68
第16図	遺構全体図 (8)	27	第50図	第464号溝跡 (1)	69
第17図	遺構全体図 (9)	28	第51図	第464号溝跡 (2)	70
第18図	遺構全体図 (10)	29	第52図	第464号溝跡 (3)	71
第19図	遺構全体図 (11)	30	第53図	第464号溝跡 (4)	72
第20図	遺構全体図 (12)	31	第54図	第464号溝跡 (5)	73
第21図	遺構全体図 (13)	32	第55図	第464号溝跡 (6)	74
第22図	遺構全体図 (14)	33	第56図	第464号溝跡 (7)	75
第23図	遺構全体図 (15)	34	第57図	第464号溝跡 (8)	76
第24図	遺構全体図 (16)	35	第58図	第464号溝跡遺物出土状況 (1)	77
第25図	遺構全体図 (17)	36	第59図	第464号溝跡遺物出土状況 (2)	78
第26図	遺構全体図 (18)	37	第60図	第464号溝跡遺物出土状況 (3)	79
第27図	遺構全体図 (19)	38	第61図	第464号溝跡遺物出土状況 (4)	80
第28図	遺構全体図 (20)	39	第62図	第464号溝跡遺物出土状況 (5)	81
第29図	遺構全体図 (21)	40	第63図	第464号溝跡遺物出土状況 (6)	82
第30図	遺構全体図 (22)	41	第64図	第464号溝跡遺物出土状況 (7)	83
第31図	遺構全体図 (23)	42	第65図	第464号溝跡遺物出土状況 (8)	84
第32図	遺構全体図 (24)	43	第66図	第464号溝跡出土遺物 (1)	85
第33図	遺構全体図 (25)	44	第67図	第464号溝跡出土遺物 (2)	86
第34図	遺構全体図 (26)	45	第68図	第464号溝跡出土遺物 (3)	87
			第69図	第464号溝跡出土遺物 (4)	89

第70图	第464号溝跡出土遺物(5)	89	第106图	第218号住居跡·出土遺物	124
第71图	第464号溝跡出土遺物(6)	90	第107图	第219号住居跡	125
第72图	第464号溝跡出土遺物(7)	91	第108图	第220号住居跡	125
第73图	第464号溝跡出土遺物(8)	92	第109图	第220号住居跡出土遺物	126
第74图	第193号住居跡	97	第110图	第221号住居跡·出土遺物	128
第75图	第194号住居跡	97	第111图	第223号住居跡	129
第76图	第195号住居跡	98	第112图	第223号住居跡出土遺物	130
第77图	第195号住居跡出土遺物	99	第113图	第224号住居跡	130
第78图	第196号住居跡	99	第114图	第225号住居跡	130
第79图	第196号住居跡出土遺物	100	第115图	第226号住居跡	131
第80图	第197号住居跡	100	第116图	第227号住居跡·出土遺物	132
第81图	第198号住居跡·出土遺物	101	第117图	第228号住居跡	133
第82图	第199号住居跡	102	第118图	第229号住居跡·出土遺物	134
第83图	第199号住居跡出土遺物	103	第119图	第231号住居跡出土遺物	135
第84图	第200号住居跡·出土遺物	104	第120图	第230·231号住居跡	136
第85图	第201号住居跡	105	第121图	第232号住居跡	138
第86图	第201号住居跡出土遺物	106	第122图	第232号住居跡出土遺物	139
第87图	第204号住居跡出土遺物	106	第123图	第233号住居跡出土遺物	139
第88图	第202·204号住居跡	107	第124图	第233号住居跡	140
第89图	第203号住居跡	108	第125图	第234号住居跡	141
第90图	第203号住居跡出土遺物	109	第126图	第235号住居跡	142
第91图	第205号住居跡	109	第127图	第235号住居跡出土遺物	143
第92图	第206号住居跡·出土遺物	110	第128图	第236·237号住居跡	144
第93图	第207号住居跡	111	第129图	第238号住居跡·出土遺物	146
第94图	第208号住居跡·出土遺物	112	第130图	第239号住居跡·出土遺物	147
第95图	第209号住居跡	113	第131图	第240号住居跡·出土遺物	148
第96图	第209号住居跡出土遺物	114	第132图	第241号住居跡	150
第97图	第210号住居跡	114	第133图	第241号住居跡出土遺物	151
第98图	第211·222号住居跡 ·第211号住居跡出土遺物	115	第134图	第242号住居跡	151
第99图	第212号住居跡	116	第135图	第243号住居跡	152
第100图	第213号住居跡	117	第136图	第244号住居跡	153
第101图	第214号住居跡·出土遺物	118	第137图	第244号住居跡出土遺物	154
第102图	第215号住居跡	120	第138图	第245号住居跡·出土遺物	155
第103图	第215号住居跡出土遺物	121	第139图	第246号住居跡	156
第104图	第216号住居跡	121	第140图	第246号住居跡出土遺物	157
第105图	第217号住居跡·出土遺物	122	第141图	第247号住居跡出土遺物	158
			第142图	第247号住居跡	159

第143図	第248号住居跡	160	第180図	第279号住居跡(1)	196
第144図	第249号住居跡・出土遺物	161	第181図	第279号住居跡(2)	197
第145図	第250号住居跡・出土遺物	162	第182図	第279号住居跡出土遺物	198
第146図	第251号住居跡	163	第183図	第280号住居跡	199
第147図	第251号住居跡出土遺物	164	第184図	第281号住居跡	200
第148図	第252号住居跡・出土遺物	165	第185図	第282号住居跡	201
第149図	第253号住居跡・出土遺物	166	第186図	第284号住居跡・出土遺物	202
第150図	第254号住居跡	167	第187図	第285号住居跡・出土遺物	203
第151図	第255・263号住居跡	167	第188図	第286号住居跡・出土遺物	204
第152図	第256号住居跡	168	第189図	第283号住居跡	205
第153図	第257号住居跡	169	第190図	第287号住居跡・出土遺物	205
第154図	第258号住居跡・出土遺物	170	第191図	第288号住居跡・出土遺物	206
第155図	第259号住居跡	172	第192図	第289号住居跡	207
第156図	第259号住居跡出土遺物	173	第193図	第290号住居跡	208
第157図	第260号住居跡	174	第194図	第291号住居跡・出土遺物	208
第158図	第262号住居跡	174	第195図	第292号住居跡	209
第159図	第261号住居跡・出土遺物	174	第196図	第292号住居跡出土遺物	210
第160図	第264号住居跡	175	第197図	第293号住居跡	211
第161図	第265号住居跡・出土遺物	176	第198図	第293号住居跡出土遺物	212
第162図	第266号住居跡	177	第199図	第294号住居跡	213
第163図	第267号住居跡・出土遺物	178	第200図	第295号住居跡・出土遺物	214
第164図	第268号住居跡・出土遺物	179	第201図	第296号住居跡・出土遺物	216
第165図	第269号住居跡・出土遺物	180	第202図	第297号住居跡・出土遺物	217
第166図	第2群の住居跡分布図	182・183	第203図	第298号住居跡・出土遺物	218
第167図	第270号住居跡	184	第204図	第3群の住居跡分布図	219
第168図	第270号住居跡出土遺物	185	第205図	第299号住居跡・出土遺物	220
第169図	第271号住居跡・出土遺物	186	第206図	第329号住居跡	221
第170図	第272号住居跡	186	第207図	第330号住居跡	222
第171図	第273号住居跡	187	第208図	第330号住居跡出土遺物	223
第172図	第273号住居跡出土遺物	188	第209図	第331号住居跡・出土遺物	225
第173図	第274号住居跡・出土遺物	189	第210図	第332・333号住居跡	226
第174図	第275号住居跡・出土遺物	189	第211図	第332号住居跡出土遺物	227
第175図	第276号住居跡・出土遺物	190	第212図	第334号住居跡	228
第176図	第277号住居跡・出土遺物	191	第213図	第335号住居跡・出土遺物	229
第177図	第278号住居跡	193	第214図	第336号住居跡	230
第178図	第278号住居跡出土遺物(1)	194	第215図	第336号住居跡出土遺物	231
第179図	第278号住居跡出土遺物(2)	195	第216図	第337号住居跡・出土遺物	232

第217図	第338号住居跡・出土遺物	233	第254図	第321号住居跡	264
第218図	第339号住居跡	234	第255図	第322・323号住居跡出土遺物	264
第219図	第339号住居跡出土遺物	235	第256図	第322・323号住居跡	265
第220図	第340号住居跡	236	第257図	第324号住居跡・出土遺物	266
第221図	第340号住居跡出土遺物	237	第258図	第325号住居跡	267
第222図	第341号住居跡・出土遺物	237	第259図	第326号住居跡	267
第223図	第342号住居跡	239	第260図	第327号住居跡・出土遺物	268
第224図	第343号住居跡・出土遺物	239	第261図	第328号住居跡	269
第225図	第344号住居跡	240	〈第2分冊〉		
第226図	第344号住居跡出土遺物	241	第262図	北群の方形周溝墓分布図	271
第227図	第345号住居跡	241	第263図	南群の方形周溝墓分布図	272
第228図	第4群の住居跡分布図	243	第264図	第1号方形周溝墓	273
第229図	第300・301号住居跡	243	第265図	第1号方形周溝墓出土遺物	274
第230図	第302号住居跡	244	第266図	第2号方形周溝墓出土遺物	275
第231図	第303号住居跡	244	第267図	第2号方形周溝墓	276
第232図	第5群の住居跡分布図	245	第268図	第3号方形周溝墓	277
第233図	第304・305号住居跡	246	第269図	第4号方形周溝墓・出土遺物	278
第234図	第306号住居跡	247	第270図	第5号方形周溝墓	279
第235図	第307号住居跡・出土遺物	248	第271図	第6号方形周溝墓・出土遺物	280・281
第236図	第308号住居跡出土遺物	248	第272図	第7号方形周溝墓・出土遺物	283
第237図	第308号住居跡	249	第273図	第8号方形周溝墓・出土遺物	284
第238図	第309号住居跡	250	第274図	第10号方形周溝墓	285
第239図	第310号住居跡出土遺物	250	第275図	第9号方形周溝墓・出土遺物	286
第240図	第310号住居跡	251	第276図	第11号方形周溝墓	287
第241図	第311号住居跡	252	第277図	第11号方形周溝墓出土遺物	288
第242図	第6群の住居跡分布図	253	第278図	第12号方形周溝墓・出土遺物	289
第243図	第312号住居跡	254	第279図	第13号方形周溝墓・出土遺物	291
第244図	第313号住居跡	254	第280図	第14号方形周溝墓	292
第245図	第314号住居跡・出土遺物	255	第281図	第15号方形周溝墓	293
第246図	第315号住居跡	256	第282図	第16号方形周溝墓	294
第247図	第316号住居跡・出土遺物	257	第283図	第17号方形周溝墓	295
第248図	第317号住居跡	258	第284図	第18号方形周溝墓・出土遺物	296
第249図	第318号住居跡	258	第285図	第19号方形周溝墓	297
第250図	第318号住居跡出土遺物	259	第286図	第20号方形周溝墓出土遺物	298
第251図	第319号住居跡・出土遺物	261	第287図	第20号方形周溝墓	299
第252図	第320号住居跡	262	第288図	第21号方形周溝墓	300
第253図	第320号住居跡出土遺物	263	第289図	第21号方形周溝墓出土遺物	301

第290図	第22号方形周溝墓	302	第327図	溝跡(2)	365
第291図	第23号方形周溝墓	304	第328図	溝跡(3)	366
第292図	第24号方形周溝墓	305	第329図	溝跡(4)	369
第293図	第25号方形周溝墓・出土遺物	306	第330図	溝跡(5)	372
第294図	第26号方形周溝墓出土遺物	307	第331図	溝跡(6)	378
第295図	第26号方形周溝墓	308	第332図	溝跡出土遺物	380
第296図	第27号方形周溝墓	309	第333図	第423・530・531・532号溝跡(1)	382
第297図	第1号木棺墓	311	第334図	第423・530・531・532号溝跡(2)	383
第298図	第1号木棺墓木棺	312	第335図	第423・530・531・532号溝跡(3)	384
第299図	第1号木棺墓木口材・出土木製品	313	第336図	第423・530・531・532号溝跡(4)	385
第300図	土塋(1)	314	第337図	第423・530・531・532号溝跡(5)	386
第301図	土塋(2)	316	第338図	第423号溝跡出土遺物	387
第302図	土塋(3)	318	第339図	第530号溝跡遺物出土状況	389
第303図	土塋(4)	320	第340図	第530号溝跡出土遺物(1)	390
第304図	土塋(5)	322	第341図	第530号溝跡出土遺物(2)	391
第305図	土塋(6)	324	第342図	第530号溝跡出土遺物(3)	392
第306図	土塋(7)	326	第343図	グリッドピット出土遺物	394
第307図	土塋(8)	328	第344図	グリッド遺物(1)	396
第308図	土塋(9)	330	第345図	グリッド遺物(2)	397
第309図	土塋(10)	332	第346図	グリッド遺物(3)	399
第310図	土塋(11)	334	第347図	グリッド遺物(4)	400
第311図	土塋(12)	336	第348図	グリッド遺物(5)	402
第312図	土塋(13)	338	第349図	グリッド遺物(6)	403
第313図	土塋(14)	340	第350図	他の時期の遺構への混入遺物(1)	406
第314図	土塋(15)	342	第351図	他の時期の遺構への混入遺物(2)	407
第315図	土塋(16)	344	第352図	他の時期の遺構への混入遺物(3)	409
第316図	土塋(17)	346	第353図	他の時期の遺構への混入遺物(4)	410
第317図	土塋(18)	348	第354図	他の時期の遺構への混入遺物(5)	411
第318図	土塋(19)	350	第355図	衣採遺物	414
第319図	土塋(20)	352	第356図	第1群の住居跡の規模と南北軸方位	418
第320図	土塋(21)	354	第357図	第2群の住居跡の規模と南北軸方位	421
第321図	土塋(22)	356	第358図	第3群の住居跡の規模と南北軸方位	424
第322図	土塋(23)	358	第359図	第4群の住居跡の規模と南北軸方位	426
第323図	土塋(24)	360	第360図	第5群の住居跡の規模と南北軸方位	428
第324図	土塋出土遺物(1)	361	第361図	第6群の住居跡の規模と南北軸方位	430
第325図	土塋出土遺物(2)	362	第362図	北群北半の方形周溝墓の規模と 南北軸方位	434
第326図	溝跡(1)	363			

第363図	北群南半の方形周溝墓の規模と 南北軸方位	435	第366図	古墳時代前期の時期区分 (2)	443
第364図	南群の方形周溝墓の規模と 南北軸方位	437	第367図	古墳時代前期の時期区分 (3)	444
第365図	古墳時代前期の時期区分 (1)	442	第368図	古墳時代前期の時期区分 (4)	445
			第369図	方形環濠 関連遺跡 (1)	447
			第370図	方形環濠 関連遺跡 (2)	448

表目次

〈第1分冊〉

第1表	北島遺跡第19地点遺構番号対照表 … 63~66	第35表	第247号住居跡出土遺物観察表 … 158
第2表	第464号溝跡出土遺物観察表 … 93~96	第36表	第249号住居跡出土遺物観察表 … 161
第3表	第195号住居跡出土遺物観察表 … 99	第37表	第250号住居跡出土遺物観察表 … 161
第4表	第196号住居跡出土遺物観察表 … 99	第38表	第251号住居跡出土遺物観察表 … 165
第5表	第198号住居跡出土遺物観察表 … 101	第39表	第252号住居跡出土遺物観察表 … 166
第6表	第199号住居跡出土遺物観察表 … 103	第40表	第253号住居跡出土遺物観察表 … 166
第7表	第200号住居跡出土遺物観察表 … 104	第41表	第258号住居跡出土遺物観察表 … 170
第8表	第201号住居跡出土遺物観察表 … 106	第42表	第259号住居跡出土遺物観察表 … 171
第9表	第204号住居跡出土遺物観察表 … 106	第43表	第261号住居跡出土遺物観察表 … 175
第10表	第203号住居跡出土遺物観察表 … 109	第44表	第265号住居跡出土遺物観察表 … 176
第11表	第206号住居跡出土遺物観察表 … 111	第45表	第267号住居跡出土遺物観察表 … 178
第12表	第208号住居跡出土遺物観察表 … 112	第46表	第268号住居跡出土遺物観察表 … 179
第13表	第209号住居跡出土遺物観察表 … 114	第47表	第269号住居跡出土遺物観察表 … 180
第14表	第211号住居跡出土遺物観察表 … 115	第48表	第270号住居跡出土遺物観察表 … 185
第15表	第214号住居跡出土遺物観察表 … 119	第49表	第271号住居跡出土遺物観察表 … 186
第16表	第215号住居跡出土遺物観察表 … 119	第50表	第273号住居跡出土遺物観察表 … 188
第17表	第217号住居跡出土遺物観察表 … 123	第51表	第274号住居跡出土遺物観察表 … 190
第18表	第218号住居跡出土遺物観察表 … 123	第52表	第275号住居跡出土遺物観察表 … 190
第19表	第220号住居跡出土遺物観察表 … 127	第53表	第276号住居跡出土遺物観察表 … 191
第20表	第221号住居跡出土遺物観察表 … 127	第54表	第277号住居跡出土遺物観察表 … 191
第21表	第223号住居跡出土遺物観察表 … 130	第55表	第278号住居跡出土遺物観察表 … 195
第22表	第227号住居跡出土遺物観察表 … 133	第56表	第279号住居跡出土遺物観察表 … 198
第23表	第229号住居跡出土遺物観察表 … 134	第57表	第284号住居跡出土遺物観察表 … 202
第24表	第231号住居跡出土遺物観察表 … 137	第58表	第285号住居跡出土遺物観察表 … 203
第25表	第232号住居跡出土遺物観察表 … 137	第59表	第286号住居跡出土遺物観察表 … 204
第26表	第233号住居跡出土遺物観察表 … 140	第60表	第287号住居跡出土遺物観察表 … 205
第27表	第235号住居跡出土遺物観察表 … 143	第61表	第288号住居跡出土遺物観察表 … 206
第28表	第238号住居跡出土遺物観察表 … 145	第62表	第291号住居跡出土遺物観察表 … 208
第29表	第239号住居跡出土遺物観察表 … 147	第63表	第292号住居跡出土遺物観察表 … 210
第30表	第240号住居跡出土遺物観察表 … 149	第64表	第293号住居跡出土遺物観察表 … 212
第31表	第241号住居跡出土遺物観察表 … 151	第65表	第295号住居跡出土遺物観察表 … 215
第32表	第244号住居跡出土遺物観察表 … 152	第66表	第296号住居跡出土遺物観察表 … 216
第33表	第245号住居跡出土遺物観察表 … 155	第67表	第297号住居跡出土遺物観察表 … 217
第34表	第246号住居跡出土遺物観察表 … 157	第68表	第298号住居跡出土遺物観察表 … 218
		第69表	第299号住居跡出土遺物観察表 … 221

第70表	第330号住居跡出土遺物観察表	・ ・ ・ 224	第100表	第11号方形周溝墓出土遺物観察表	・ ・ 288
第71表	第331号住居跡出土遺物観察表	・ ・ ・ 225	第101表	第12号方形周溝墓出土遺物観察表	・ ・ 290
第72表	第332号住居跡出土遺物観察表	・ ・ ・ 225	第102表	第13号方形周溝墓出土遺物観察表	・ ・ 290
第73表	第335号住居跡出土遺物観察表	・ ・ ・ 229	第103表	第18号方形周溝墓出土遺物観察表	・ ・ 296
第74表	第336号住居跡出土遺物観察表	・ ・ ・ 231	第104表	第20号方形周溝墓出土遺物観察表	・ ・ 298
第75表	第337号住居跡出土遺物観察表	・ ・ ・ 232	第105表	第21号方形周溝墓出土遺物観察表	・ ・ 301
第76表	第338号住居跡出土遺物観察表	・ ・ ・ 233	第106表	第25号方形周溝墓出土遺物観察表	・ ・ 306
第77表	第339号住居跡出土遺物観察表	・ ・ ・ 235	第107表	第26号方形周溝墓出土遺物観察表	・ ・ 307
第78表	第340号住居跡出土遺物観察表	・ ・ ・ 237	第108表	土壇出土遺物観察表	・ ・ ・ ・ ・ 362
第79表	第341号住居跡出土遺物観察表	・ ・ ・ 238	第109表	溝跡出土遺物観察表	・ ・ ・ ・ ・ 381
第80表	第343号住居跡出土遺物観察表	・ ・ ・ 240	第110表	第423号溝跡出土遺物観察表	・ ・ ・ 392
第81表	第344号住居跡出土遺物観察表	・ ・ ・ 241	第111表	第530号溝跡出土遺物観察表	・ ・ 392・393
第82表	第307号住居跡出土遺物観察表	・ ・ ・ 247	第112表	グリッドピット出土遺物観察表	・ ・ 394
第83表	第308号住居跡出土遺物観察表	・ ・ ・ 249	第113表	グリッド遺物観察表	・ ・ ・ ・ 404・405
第84表	第310号住居跡出土遺物観察表	・ ・ ・ 250	第114表	その他の時期の遺構への 混入遺物観察表	・ ・ ・ ・ ・ 412・413
第85表	第314号住居跡出土遺物観察表	・ ・ ・ 255	第115表	表採遺物観察表	・ ・ ・ ・ ・ 414
第86表	第316号住居跡出土遺物観察表	・ ・ ・ 257	第116表	北島遺跡第19地点古墳時代前期 第1群の住居跡一覧	・ ・ ・ ・ ・ 416・417
第87表	第318号住居跡出土遺物観察表	・ ・ ・ 260	第117表	北島遺跡第19地点古墳時代前期 第2群の住居跡一覧	・ ・ ・ ・ ・ 420
第88表	第319号住居跡出土遺物観察表	・ ・ ・ 260	第118表	北島遺跡第19地点古墳時代前期 第3群の住居跡一覧	・ ・ ・ ・ ・ 423
第89表	第320号住居跡出土遺物観察表	・ ・ ・ 263	第119表	北島遺跡第19地点古墳時代前期 第4群の住居跡一覧	・ ・ ・ ・ ・ 425
第90表	第322・323号住居跡出土遺物観察表	・ ・ 264	第120表	北島遺跡第19地点古墳時代前期 第5群の住居跡一覧	・ ・ ・ ・ ・ 427
第91表	第324号住居跡出土遺物観察表	・ ・ ・ 266	第121表	北島遺跡第19地点古墳時代前期 第6群の住居跡一覧	・ ・ ・ ・ ・ 429
第92表	第327号住居跡出土遺物観察表	・ ・ ・ 269	第122表	北島遺跡第19地点古墳時代前期 方形周溝墓一覧	・ ・ ・ ・ ・ 432・433
〈第2分冊〉					
第93表	第1号方形周溝墓出土遺物観察表	・ ・ 274			
第94表	第2号方形周溝墓出土遺物観察表	・ ・ 275			
第95表	第4号方形周溝墓出土遺物観察表	・ ・ 277			
第96表	第6号方形周溝墓出土遺物観察表	・ ・ 282			
第97表	第7号方形周溝墓出土遺物観察表	・ ・ 283			
第98表	第8号方形周溝墓出土遺物観察表	・ ・ 284			
第99表	第9号方形周溝墓出土遺物観察表	・ ・ 286			

写真図版目次

口絵 1	方形環濠と第1・2群の住居跡 方形環濠と第1群の住居跡		第201号住居跡 第201号住居跡遺物出土状況
口絵 2	周溝が巡る第279号住居跡 第1号木棺墓	図版 6	第202・204号住居跡 第205号住居跡
図版 1	方形環濠と第1群の住居跡（西から） 方形環濠と第1群の住居跡（南東から）		第206号住居跡 第209号住居跡
図版 2	第464号溝跡東辺 第464号溝跡北東隅付近 第464号溝跡南辺 第464号溝跡西辺 第464号溝跡西辺 第464号溝跡覆土堆積状況（J-J'） 第464号溝跡覆土堆積状況（L-L'） 第464号溝跡覆土堆積状況（N-N'）	図版 7	第209号住居跡遺物出土状況 第208号住居跡 第210号住居跡 第211・222号住居跡 第212号住居跡 第214号住居跡 第214号住居跡遺物出土状況
図版 3	第464号溝跡K18グリッド遺物出土状況 第464号溝跡L17グリッド遺物出土状況 第464号溝跡M15グリッド遺物出土状況 第464号溝跡M14グリッド遺物出土状況 第464号溝跡M14グリッド遺物出土状況 第464号溝跡M13グリッド遺物出土状況 第464号溝跡M13グリッド遺物出土状況 第464号溝跡M13グリッド遺物出土状況 第464号溝跡M13グリッド遺物出土状況	図版 8	第216号住居跡 第218号住居跡 第219号住居跡 第220号住居跡 第220号住居跡遺物出土状況 第220号住居跡貯蔵穴 第223号住居跡 第226号住居跡 第227号住居跡
図版 4	第464号溝跡M13グリッド遺物出土状況 第464号溝跡M13グリッド遺物出土状況 第464号溝跡遺物出土状況 第464号溝跡遺物出土状況 第464号溝跡ヒト下顎骨出土状況 第464号溝跡シカ下顎骨出土状況	図版 9	第228号住居跡 第229号住居跡 第231号住居跡 第231号住居跡貯蔵穴 第234号住居跡 第233号住居跡 第233号住居跡 第233号住居跡遺物出土状況
図版 5	第195号住居跡（北半部） 第195号住居跡（南半部） 第195号住居跡貯蔵穴 第199号住居跡 第200号住居跡		第235号住居跡 第235号住居跡遺物出土状況 第235号住居跡遺物出土状況 第235号住居跡遺物出土状況 第235号住居跡遺物出土状況

図版10	第240号住居跡 第241号住居跡 第242・243号住居跡 第245号住居跡 第244号住居跡 第244号住居跡遺物出土状況 第244号住居跡遺物出土状況 第246号住居跡		第273号住居跡遺物出土状況 第275号住居跡 第276号住居跡 第278号住居跡 第278号住居跡柱痕
図版11	第247号住居跡 第247号住居跡 第250号住居跡 第250号住居跡遺物出土状況 第249号住居跡 第251号住居跡 第251号住居跡遺物出土状況 第251号住居跡遺物出土状況 第251号住居跡遺物出土状況	図版16	第278号住居跡遺物出土状況 第278号住居跡遺物出土状況 第278号住居跡遺物出土状況 第278号住居跡遺物出土状況 第279号住居跡 第279号住居跡 第279号住居跡 第279号住居跡 第283号住居跡
図版12	第253号住居跡 第255・263号住居跡 第256号住居跡 第257号住居跡 第259号住居跡炭化物検出状況 第259号住居跡貯蔵穴 第259号住居跡遺物出土状況 第264号住居跡	図版17	第284号住居跡 第285号住居跡 第287号住居跡 第289号住居跡 第288号住居跡 第288号住居跡遺物出土状況 第288号住居跡遺物出土状況 第288号住居跡遺物出土状況
図版13	第265号住居跡 第266号住居跡 第267号住居跡 第268号住居跡 第2群の住居跡(南から)	図版18	第292号住居跡 第292号住居跡遺物出土状況 第292号住居跡遺物出土状況 第292号住居跡遺物出土状況 第291号住居跡 第293号住居跡 第293号住居跡貯蔵穴 第293号住居跡遺物出土状況
図版14	第2群の住居跡(東から) 第270号住居跡 第270号住居跡遺物出土状況 第270号住居跡遺物出土状況 第271号住居跡	図版19	第294号住居跡 第296号住居跡 第297号住居跡 第298号住居跡 第295号住居跡 第295号住居跡 第295号住居跡遺物出土状況 第295号住居跡遺物出土状況
図版15	第273号住居跡 第273号住居跡遺物出土状況 第273号住居跡遺物出土状況		

- 図版20 第299号住居跡
 第329号住居跡
 第330号住居跡
 第330号住居跡遺物出土状況
 第330号住居跡遺物出土状況
 第330号住居跡遺物出土状況
 第330号住居跡遺物出土状況
 第335号住居跡
- 図版21 第331号住居跡
 第331号住居跡貯藏穴
 第331号住居跡遺物出土状況
 第331号住居跡小礫群検出状況
 第332・333号住居跡
 第332号住居跡貯藏穴
 第332号住居跡遺物出土状況
 第336号住居跡
- 図版22 第334号住居跡
 第334号住居跡遺物出土状況
 第337号住居跡
 第338号住居跡
 第339号住居跡
 第339号住居跡遺物出土状況
 第339号住居跡遺物出土状況
 第339号住居跡遺物出土状況
- 図版23 第340号住居跡
 第340号住居跡遺物出土状況
 第340号住居跡環状石器出土状況
 第341号住居跡
 第342号住居跡
 第343号住居跡
 第343号住居跡炭化物検出状況
 第345号住居跡
- 図版24 第344号住居跡
 第344号住居跡炭化材検出状況（焼失住居）
 第304・305号住居跡
 第304号住居跡
 第306号住居跡
- 第307号住居跡
 第308号住居跡
 第310号住居跡
- 図版25 第311号住居跡
 第312号住居跡
 第314号住居跡
 第315号住居跡
 第316号住居跡
 第317号住居跡
 第319号住居跡
 第319号住居跡貯藏穴
- 図版26 第318号住居跡
 第318号住居跡炭化物層検出状況
 第318号住居跡炭化物層検出状況
 第318号住居跡炭化物層検出状況
 第318号住居跡遺物出土状況
 第318号住居跡遺物出土状況
 第318号住居跡遺物出土状況
 第321号住居跡
- 図版27 第320号住居跡
 第320号住居跡遺物出土状況
 第320号住居跡遺物出土状況
 第324号住居跡
 第322・323号住居跡
 第322号住居跡遺物出土状況
 第322号住居跡遺物出土状況
 第326号住居跡
- 図版28 第327号住居跡
 第327号住居跡遺物出土状況
 第327号住居跡遺物出土状況
 第328号住居跡
 第1～9号方形周溝墓群
- 図版29 第1号方形周溝墓
 第1号方形周溝墓遺物出土状況（東溝）
 第2号方形周溝墓
 第2号方形周溝墓
 第2・3号方形周溝墓

	第3号方形周溝墓		第1号木棺墓
	第4号方形周溝墓		第1号木棺墓木口
	第4号方形周溝墓遺物出土状況(東溝)		第1号木棺墓木口
図版30	第6号方形周溝墓(北半部)		第510号土墳
	第6号方形周溝墓(南西部西から)		第510号土墳
	第6号方形周溝墓遺物出土状況(北西隅)	図版36	第557号土墳
	第6号方形周溝墓遺物出土状況(北溝)		第659号土墳
	第7号方形周溝墓		第445号溝跡
	第7号方形周溝墓遺物出土状況(北溝)		第447号溝跡
	第7号方形周溝墓遺物出土状況(北溝)		第423・530号溝跡
	第8号方形周溝墓		第423号溝跡遺物出土状況
図版31	第9号方形周溝墓(北半部)		第530号溝跡遺物出土状況
	第9号方形周溝墓(南半部)		銅鏃(L18グリッド)出土状況
	第9号方形周溝墓遺物出土状況(北溝)	図版37	第464号溝跡出土遺物
	第10号方形周溝墓	図版38	第464号溝跡出土遺物
	第11・13・15号方形周溝墓群	図版39	第464号溝跡出土遺物
図版32	第11号方形周溝墓	図版40	第464号溝跡出土遺物
	第12号方形周溝墓	図版41	第464号溝跡出土遺物
	第13号方形周溝墓	図版42	第464号溝跡出土遺物
	第14号方形周溝墓	図版43	第464号溝跡出土遺物
	第20・21・23・24号方形周溝墓群	図版44	第464号溝跡出土遺物
図版33	第15号方形周溝墓	図版45	第464号溝跡出土遺物
	第16号方形周溝墓	図版46	第464号溝跡出土遺物
	第17号方形周溝墓	図版47	第464号溝跡出土遺物
	第18号方形周溝墓	図版48	第464号溝跡出土遺物
	第20・21・23・24号方形周溝墓群	図版49	第464号溝跡出土遺物
図版34	第20号方形周溝墓		第195号住居跡出土遺物
	第20号方形周溝墓遺物出土状況(北溝)		第199号住居跡出土遺物
	第21号方形周溝墓	図版50	第199号住居跡出土遺物
	第21号方形周溝墓遺物出土状況		第200号住居跡出土遺物
	第25号方形周溝墓		第201号住居跡出土遺物
	第25号方形周溝墓遺物出土状況(北西隅)	図版51	第201号住居跡出土遺物
	第26号方形周溝墓		第203号住居跡出土遺物
	第26号方形周溝墓遺物出土状況(南溝)		第206号住居跡出土遺物
図版35	第27号方形周溝墓		第209号住居跡出土遺物
	第1号木棺墓	図版52	第209号住居跡出土遺物
	第1号木棺墓		第211号住居跡出土遺物

- 第215号住居跡出土遺物
- 図版53 第215号住居跡出土遺物
第218号住居跡出土遺物
- 図版54 第218号住居跡出土遺物
第220号住居跡出土遺物
- 図版55 第220号住居跡出土遺物
第223号住居跡出土遺物
- 図版56 第229号住居跡出土遺物
第231号住居跡出土遺物
第232号住居跡出土遺物
- 図版57 第233号住居跡出土遺物
- 図版58 第233号住居跡出土遺物
第235号住居跡出土遺物
- 図版59 第235号住居跡出土遺物
第238号住居跡出土遺物
第239号住居跡出土遺物
第240号住居跡出土遺物
- 図版60 第240号住居跡出土遺物
第241号住居跡出土遺物
第244号住居跡出土遺物
- 図版61 第244号住居跡出土遺物
- 図版62 第244号住居跡出土遺物
第246号住居跡出土遺物
第247号住居跡出土遺物
- 図版63 第247号住居跡出土遺物
第250号住居跡出土遺物
第251号住居跡出土遺物
- 図版64 第251号住居跡出土遺物
- 図版65 第251号住居跡出土遺物
第259号住居跡出土遺物
第270号住居跡出土遺物
- 図版66 第270号住居跡出土遺物
第273号住居跡出土遺物
- 図版67 第273号住居跡出土遺物
- 図版68 第275号住居跡出土遺物
第278号住居跡出土遺物
- 図版69 第278号住居跡出土遺物
- 図版70 第278号住居跡出土遺物
第279号住居跡出土遺物
第288号住居跡出土遺物
- 図版71 第288号住居跡出土遺物
第292号住居跡出土遺物
第293号住居跡出土遺物
- 図版72 第293号住居跡出土遺物
第295号住居跡出土遺物
- 図版73 第295号住居跡出土遺物
第296号住居跡出土遺物
第297号住居跡出土遺物
- 図版74 第298号住居跡出土遺物
第299号住居跡出土遺物
第330号住居跡出土遺物
- 図版75 第330号住居跡出土遺物
第332号住居跡出土遺物
第335号住居跡出土遺物
第337号住居跡出土遺物
第338号住居跡出土遺物
- 図版76 第339号住居跡出土遺物
- 図版77 第339号住居跡出土遺物
第340号住居跡出土遺物
第344号住居跡出土遺物
- 図版78 第308号住居跡出土遺物
第310号住居跡出土遺物
第314号住居跡出土遺物
第316号住居跡出土遺物
第318号住居跡出土遺物
- 図版79 第318号住居跡出土遺物
第319号住居跡出土遺物
- 図版80 第319号住居跡出土遺物
第320号住居跡出土遺物
第323号住居跡出土遺物
第327号住居跡出土遺物
- 図版81 第1号方形周溝墓出土遺物
第2号方形周溝墓出土遺物
第4号方形周溝墓出土遺物

	第6号方形周溝墓出土遺物	F16グリッド遺物
図版82	第6号方形周溝墓出土遺物	F17グリッド遺物
	第7号方形周溝墓出土遺物	図版97 G16グリッド遺物
図版83	第8号方形周溝墓出土遺物	G20グリッド遺物
	第9号方形周溝墓出土遺物	H13グリッド遺物
	第11号方形周溝墓出土遺物	H14グリッド遺物
	第13号方形周溝墓出土遺物	H22グリッド遺物
	第20号方形周溝墓出土遺物	図版98 I21グリッド遺物
図版84	第20号方形周溝墓出土遺物	I22グリッド遺物
	第21号方形周溝墓出土遺物	J17グリッド遺物
	第25号方形周溝墓出土遺物	J21グリッド遺物
	第26号方形周溝墓出土遺物	L15グリッド遺物
図版85	第510号土壇出土遺物	L18グリッド遺物
	第552号土壇出土遺物	図版99 M27グリッド遺物
	第557号土壇出土遺物	N19グリッド遺物
	第659号土壇出土遺物	N23グリッド遺物
図版86	第701号土壇出土遺物	N24グリッド遺物
	第460号溝跡出土遺物	O19グリッド遺物
	第513号溝跡出土遺物	O24グリッド遺物
	第527号溝跡出土遺物	図版100 P14グリッド遺物
図版87	第527号溝跡出土遺物	P16グリッド遺物
	第423号溝跡出土遺物	P25グリッド遺物
図版88	第423号溝跡出土遺物	Q10グリッド遺物
図版89	第423号溝跡出土遺物	U29グリッド遺物
	第530号溝跡出土遺物	X15グリッド遺物
図版90	第530号溝跡出土遺物	図版101 第27号住居跡混入遺物
図版91	第530号溝跡出土遺物	第95号住居跡混入遺物
図版92	第530号溝跡出土遺物	第139号住居跡混入遺物
図版93	第530号溝跡出土遺物	第Y259号住居跡混入遺物
図版94	第530号溝跡出土遺物	図版102 第Y259号住居跡混入遺物
	I19グリッドピット25出土遺物	第Y303号住居跡混入遺物
	I16グリッドピット17出土遺物	第Y305号住居跡混入遺物
	J18グリッドピット1出土遺物	第Y269号住居跡混入遺物
図版95	A16グリッド遺物	第Y293号住居跡混入遺物
	D15グリッド遺物	図版103 第Y264号住居跡混入遺物
図版96	D15グリッド遺物	第Y417号住居跡混入遺物
	D17グリッド遺物	第Y359号住居跡混入遺物

第6号掘立柱建物跡混入遺物

図版104 第82号土壌混入遺物

第286号土壌混入遺物

第365号土壌混入遺物

第Y790号土壌混入遺物

第40号井戸跡混入遺物

第50号溝跡混入遺物

図版105 第198号溝跡混入遺物

第266号溝跡混入遺物

第282号溝跡混入遺物

第343号溝跡混入遺物

第386号溝跡混入遺物

図版106 第319号溝跡混入遺物

第Y364号溝跡混入遺物

第4号性格不明遺構混入遺物

表探遺物

図版107 第464号溝跡・住居跡出土破片遺物

住居跡・溝跡出土破片遺物

図版108 グリッド破片遺物

その他の時期の遺構への混入破片遺物

図版109 玉類

石製品類

図版110 第1号木棺墓木棺

第1号木棺墓木棺木口材

I 発掘調査の概要

1. 調査に至るまでの経過

埼玉県は、「環境優先・生活重視」、「埼玉の新しいにづくり」を基本理念として、豊かな彩の国づくりを推進するため、種々の施策を講じている。各種大型のスポーツ大会の開催やスポーツ施設の整備を進めてきたのは、本県におけるスポーツの振興を図り、時代を担う人づくりを目標とした施策である。

2004年に開催される第59回国民体育大会、第4回全国障害者スポーツ大会に向け、そのメイン会場となる熊谷スポーツ文化公園の拡張整備事業も、その一環として計画されたものである。

熊谷スポーツ文化公園の拡張整備事業に先立ち、公園課長から平成9年7月18日付公園第277号で、埋蔵文化財の所在の有無およびその取り扱いについて、文化財保護課長あて照会があった。それに対して文化財保護課は、平成9年12月2日～5日に遺跡範囲確認のための試掘調査を実施し、その結果、埋蔵文化財の所在が明確になったことから、平成9年12月22日付教文第1254号で、概ね次のような回答をした。

1 埋蔵文化財の所在

名称	種別	時代	所在地
天神遺跡 (59-101)	集落跡・古墳・墓	弥生・古墳・奈良 平安・中世・近世	熊谷市大字上川上
北島遺跡 (59-058)	集落跡・墓	弥生・古墳・奈良 平安・中世	熊谷市大字今井
田谷遺跡 (59-071)	集落跡	古墳・奈良・平安	熊谷市上中桑
天神東遺跡 (59-078)	集落跡	古墳・奈良・平安	熊谷市大字上川上

2 取扱い

上記の埋蔵文化財包蔵地は現状保存することが望ましいが、事業計画上やむを得ず現状変更する場合は、事前に文化財保護法第57条の3の規定に基づき発掘通知を提出し、記録保存のための発掘調査を実施してください。なお、発掘調査の実施については当該と別途協議してください。

さらに、公園外周道路については、平成11年9月2日付公園第355号で照会があり、平成11年9

月16・17日に遺跡範囲確認調査を行い、平成11年9月22日付教文第622号で次のとおり回答した。

1 埋蔵文化財の所在

名称	種別	時代	所在地
赤城遺跡(59-100)	集落跡	古墳・奈良・平安	熊谷市大字今井
北島遺跡(59-058)	集落跡・墓	弥生・古墳・奈良 平安・室町	熊谷市大字上中桑
田谷遺跡(59-071)	集落跡	古墳・奈良・平安	熊谷市大字上中桑

2 取扱い

文化財保護課は、公園課や北部公園建設事務所と協議を重ねて工事と埋蔵文化財保護との調整を図り、できるだけ盛土による現状保存の措置を講じた。しかし、工事の経過変更が不可能であるメイン陸上競技場、調節池、屋内競技場、外周道路などについては、やむを得ず記録保存の発掘調査を実施することとし、財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団に発掘調査を依頼した。

調査は平成10年7月～平成12年12月まで2年5ヶ月にわたって行われた。

財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団から文化財保護法第57条第1項にもとづき、埼玉県教育委員会教育長あてに埋蔵文化財発掘調査届が、また埼玉県知事から第57条の3にもとづく発掘通知が提出された。それに対する指示通知は以下のとおりである。

発掘調査届:平成10年7月27日付教文第2-77号

平成10年10月5日付教文第2-120号

平成11年1月21日付教文第2-178号

平成11年4月16日付教文第2-5号

平成12年1月24日付教文第2-129号

平成12年1月24日付教文第2-130号

平成12年1月24日付教文第2-131号

平成12年4月19日付教文第2-3号

発掘通知:平成10年7月28日付教文第3-278号

平成10年7月28日付教文第3-279号

(文化財保護課)

2. 発掘・整理報告書作成の経過

発掘事業

熊谷スポーツ文化公園の拡張整備事業に先立つ北鳥遺跡第19地点の発掘作業は、第12次調査を平成11年4月8日から平成12年3月24日まで、第15次調査を平成12年4月10日から平成12年12月28日まで実施した。調査面積は、第12次調査が36,000㎡、第15次調査が37,050㎡の計73,050㎡である。

北鳥遺跡第19地点では時代の異なる4層の文化層(中世～平安時代末、平安・奈良時代、古墳時代、弥生時代)が堆積していた。そのため、上層から各文化層ごとに発掘作業を進めた。

平成11年度

4月初より、現場事務所を設置し、調査区周囲の囲柵工事による安全対策を施した。その後、調査区内の湧水対策のための側溝設置範囲から、重機による表土除去作業に着手した。開始直後に、多量の遺物と広範囲・高密度に遺構群が発見され、急速、本格的な発掘作業に取りかかった。

調査区西側の10,000㎡におよぶ範囲では、遺構群の上層に飛鳥時代から平安時代の遺物を多量に含む包含層が確認された。これらの遺物を採取した後、下層の遺構群の発掘作業を始めた。門が設置された二重の区画溝によって囲まれた施設が確認された。官衙・寺院・豪族居宅等の可能性をもって発掘作業を進め、数多くの堅穴住居跡や掘立柱建物跡・土壇・井戸跡も検出された。また、調査区中央の窪地部分からは、飛鳥時代の遺物が多量に出土した。11月には、「篋」と線刻された椀や良質な緑釉陶器等の出土を報道機関に発表し、併せて現地説明会を開催した。

12月から調査区東側の古墳跡の発掘作業に着手し、人物・馬などの形象埴輪も巡らした埴輪列が発見された。また、古墳跡の下層には、古墳時代前期の遺構群が検出された。1月には、その遺構確認面まで重機掘削し、検出された堅穴住居跡・方形周溝墓の発掘作業に着手した。さらに、飛鳥時代の遺物

を多量に出土した、調査区中央の南北に広がる窪地部分を掘削し、大型の溝跡であることを確認した。

2月には、調査区西側でも飛鳥～平安時代の遺構群の下層に古墳時代前期の遺構群の存在が確認され、重機掘削の後、堅穴住居跡や土壇などの発掘作業に着手した。

3月には、調査区北側で河川跡と大溝跡に取り付く塚跡が発見された。また調査区西側では、古墳時代前期の区画溝が検出された。さらに、調査区東側の古墳時代前期集落跡の下層から、弥生時代の集落跡も確認され、直ちに遺構確認面まで掘削し、順次、発掘作業に着手した。

平成12年度

4月初から、調査区西端のスロープ用地部分と現道北側の調査区北端部の重機による表土掘削に着手し、遺構確認の後、発掘作業を進めた。また、調査区西側の弥生時代の集落跡の発掘作業も、引き続き行った。

5月には、調査区北側の河川跡と大溝跡に取り付く塚跡が、弥生時代まで遡ることが判明した。他の調査地点も含めた弥生時代の遺構群との関係も明らかとなり、報道機関に発表した。またスロープ用地の調査区では飛鳥時代から平安時代にかけての遺構が激しく重複し、多量の遺物も出土したため、発掘作業に困難を極めた。

現道北側の調査区北端部では、中世、古代、古墳時代の堅穴住居跡・土壇・溝跡・古墳跡・方形周溝墓等の遺構群の発掘作業を順次進めた。古墳跡からは、多量の埴輪が出土した。

8月には、現道部分も着手可能となり、中世、奈良・平安時代、古墳時代の遺構群の発掘作業を進めた。終了後、調査区北端部と一括して、古墳時代前期の遺構確認面まで重機掘削を行い、検出された方形周溝墓やたけ跡の発掘作業に着手した。また、スロープ用地の調査区は奈良・平安時代の遺構群の調査が終了し、古墳時代前期の遺構確認面まで重機

掘削を行い、検出された遺構群の発掘作業を始めた。前年度検出された区画溝も現れ、全体を知ることができた。さらに弥生時代の遺構確認面まで重機掘削を行い、検出された遺構群の発掘作業を行った。

10月以降は調査区北西の擁壁用地部分と現道下に検出された弥生時代の埋跡の発掘作業を中心に行った。12月には全ての遺構の発掘作業を終了し、出土した遺物や写真・図面等の記録類の搬出、機材の撤収、現場事務所の撤去を行った。

整理・報告書作成事業

北鳥遺跡第19地点古墳前期集落跡の整理・報告書作成作業は、平成15年4月8日から平成17年3月10日まで実施した。

平成15年度

4月当初に、出土遺物および図面・写真等の各種記録類を搬入した。遺物は表面に付着した土を水洗し、出土した遺跡名・遺構名・出土位置等のデータを直接記入（注記）する作業に着手した。注記作業が終了した遺物から、各遺構ごとに接合・復元作業を実施した。また、遺構図面・写真の整理作業は、北鳥遺跡第19地点の他の報告書で報告する遺構との分離作業の後、遺構平面図・遺構断面図・遺物出土状況図等を照合・修正し、これを基に、遺構図の第二原因の作成作業を進めた。

5月下旬には、遺物の水洗・注記作業を終え、接合・復元作業を重点的に行った。また、実測可能な状態に復元された遺物から、遺物実測図作成作業も始めた。実測方法は、三次元空間実測システム（スリースペース）と人的実測を併用し、スリースペースを活用した場合には、作成された素図に加筆・修正を加えて遺物実測図に編集した。また、拓本を要する遺物については、併行して断面実測も行った。

遺構図は、第二原因の作成と併行して、7月から第二原因が作成された順に仮版組し、報告書挿入の素図を作成した。この素図は、スキャナを使用して

デジタル画像データとしてパソコンに読み込み、画像編集ソフトを用いてトレース・加工を始めた。

8月以降は、遺物の接合・復元・実測図の作成、遺構図の第二原因作成・挿入用仮版組・画像編集ソフトによるトレース等、諸作業が軌道に乗り、年度内はこれらの作業を重点的に行った。1月には、作成された遺構の第二原因を基に、発掘調査区の全体図の作成にも着手した。3月には、遺物のデータ処理も開始した。

平成16年度

4月には、遺物の接合・復元・実測図の作成、遺構図の第二原因作成・挿入用仮版組・画像編集ソフトによるトレース・編集等の諸作業を継続して行った。また、作成された遺物実測図のトレース作業にも着手した。

4月末までに、遺物の接合・復元作業は終了した。続いて、実測図作成作業が終了した遺物から写真撮影用の遺物を選別し、補修・着色作業および、断面実測が終了した遺物の拓本作業を行った。また、遺物の実測図作成作業も5月下旬までには終了し、実測した遺物のデータを整理し、報告書掲載用の遺物観察表の作成作業に着手した。

遺構図も4月中に第二原因作成・挿入用仮版組作業が終了し、画像編集ソフトによるトレース・編集作業を重点的に行った。併行して、遺跡全体図・周辺遺跡分布図等の作成を順次行った。また、報告書に掲載する遺構の写真の選択作業も実施した。

7月から、トレース作業が終了した遺構の順に、遺物挿入の版組作業に着手した。10月には、遺物の写真撮影も行った。

9月から作成された遺構図・遺物図や観察表、撮影された写真等から、報告書の原稿の執筆に取りかかり、写真の版組作業も行った。11月上旬から原稿執筆、遺構・遺物の挿入・写真の割付・編集作業に着手した。12月に入札を行い、3回の校正作業を経て、平成17年3月10日に報告書を刊行した。

3. 発掘調査・整理・報告書刊行の組織

主体者 財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団

(1) 発掘事業

平成11年度

理事長 荒井 桂
副理事長 飯塚誠一郎
常務理事兼管理部長 広木 卓

管理部

副部長兼経理課長 関野 栄一
(庶務課)
庶務課長 金子 隆
主 査 田中 裕二
主 任 江田 和美
主 任 長滝美智子
(経理課)
主 任 福田 昭美
主 任 腰塚雄二
主 任 菊池 久

調査部

調査部長 増田 逸朗
調査部副部長 水村 孝行
主席調査員(調査第三担当) 今井 宏
主席調査員(調査第五担当) 小野美代子
統括調査員 利根川章彦
統括調査員 若松良一
統括調査員 細田 勝
統括調査員 富田 和夫
統括調査員 鈴木孝之
統括調査員 石井 伸明
主任調査員 黒坂 禎二
主任調査員 吉田 稔
主任調査員 村田 章人
主任調査員 田中 広明
主任調査員 岩田 明広
主任調査員 福田 聖
主任調査員 渡辺 清志

平成12年度

理事長 中野 健一
副理事長 飯塚誠一郎
常務理事兼管理部長 広木 卓

管理部

管理部副部長 関野 栄一
主席(庶務担当) 阿部 正浩
主席(施設担当) 野中 廣幸
主 任 菊池 久
主席(経理担当) 江田 和美
主 任 長滝美智子
主 任 福田 昭美
主 任 腰塚雄二

調査部

調査部長 高橋 一夫
調査部副部長 石岡 憲雄
主席調査員(調査第三担当) 小野美代子
統括調査員 宮井 英一
統括調査員 鈴木孝之
統括調査員 赤熊 浩一
主任調査員 吉田 稔
主任調査員 大谷 徹
主任調査員 君島 勝秀
主任調査員 山本 靖
主任調査員 福田 聖

(2) 整理・報告書作成事業

平成15年度

理事長
副理事長
常務理事兼管理部長

管理部

管理部副部長
主 席
主 任
主 任
主 任
主 任

調査部

調査部長
調査部副部長
主席調査員(資料整理担当)
統括調査員
統括調査員
統括調査員
主任調査員
主任調査員

桐川卓雄
飯塚誠一郎
中村英樹

村田健二
田中由夫
江田和美
長滝美智子
福田昭美
腰塚雄二
菊池久

宮崎朝雄
坂野和信
磯崎一
富田和夫
吉田稔
大谷徹
田中広明
山本靖

平成16年度

理事長
副理事長
常務理事兼管理部長

管理部

管理部副部長
主 席
主 任(～6月30日)
主 任
主 任
主 任
主 事(6月1日～)
主 事(6月1日～)

調査部

調査部長
調査部副部長
主席調査員(資料整理担当)
統括調査員
主任調査員
調査員

福田陽光
飯塚誠一郎
中村英樹

村田健二
田中由夫
江田和美
長滝美智子
福田昭美
菊池久
海老名健
石原良子

宮崎朝雄
坂野和信
磯崎一
鈴木孝之
山本靖
宅間清公

II 遺跡の立地と環境

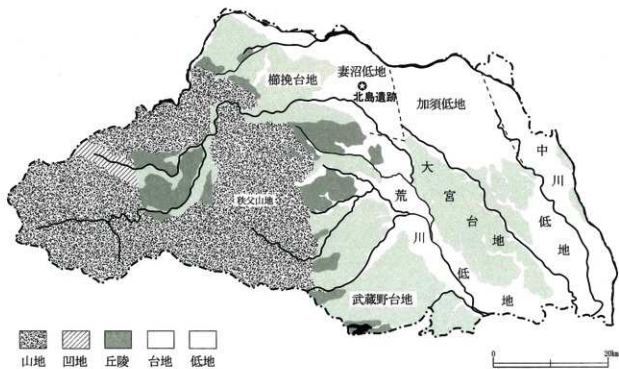
北鳥遺跡は、埼玉県熊谷市大字上川上に所在し、JR高崎線熊谷駅の北北東方約4kmの熊谷市北東部に位置する。この付近は、荒川と利根川が最も接近する地域で、その距離は約8kmほどである。

熊谷市は、西部に櫛挽台地、荒川以南に江南台地、北東縁部に妻沼低地が分布するほかは、大半が市南部を東流する荒川によって左岸域に形成された新荒川扇状地（熊谷扇状地）に立地する。

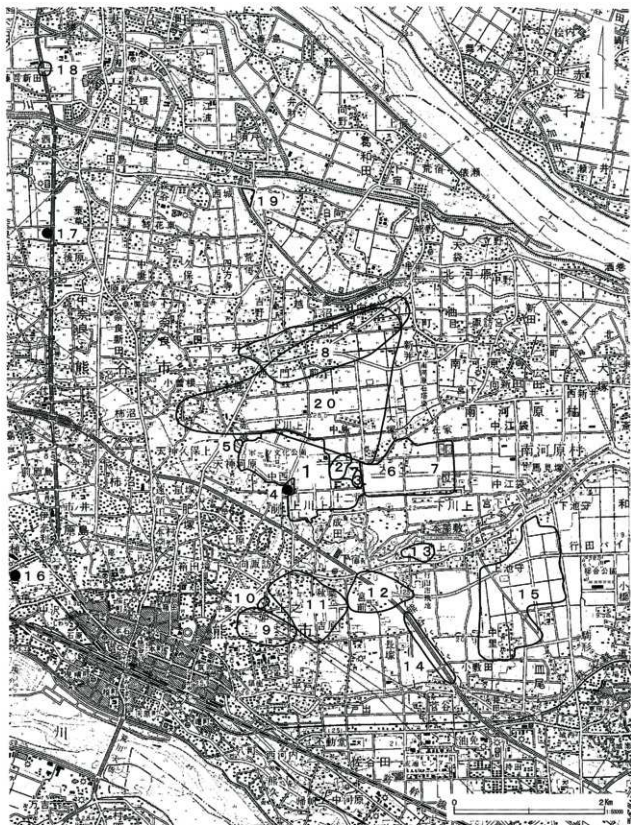
北鳥遺跡は、熊谷扇状地末端と妻沼低地末端が錯綜する地に位置する。この地には、扇状地末端部に特有の湧水点や伏流水が発達した中小河川が流れ、一方では、埋没した河川が幾筋も存在する。また、これらの河川によって形成された自然堤防も点在し、きわめて複雑な地形を示している。北鳥遺跡は、このような自然堤防上に営まれていた。その後、北鳥遺跡の周辺は、荒川や利根川などの度重なる氾濫に見舞われ、現在のような水田地帯が広がる平坦な低地景観となっている。しかし、かつては湧水や伏

流水を源とする河川が流れ、これらの河川に形成された自然堤防が隆起していたとともに、後背湿地が点在していた、起伏に富んだ地形であったと考えられる。

北鳥遺跡は、南北約1.2km、東西約1.6kmにおよぶ広大な範囲を有し、埋没した河川等によって、少なくとも六つ以上の単位に分割される。また、天神遺跡・田谷遺跡・天神東遺跡・中条条里遺跡・上川上東遺跡等が隣接している。このほかに、上中条・大塚・今井一帯には同様の遺跡が数多く所在し、北鳥遺跡およびこれら諸遺跡によって中条遺跡群が構成されている。中条遺跡群の諸遺跡の多くは、扇状地末端部付近に特有の中小河川によって形成された自然堤防上に立地する。また、上中条・今井・大塚・小曾根の4支群に区分される中条古墳群が、中条遺跡群の分布範囲とも錯綜しながら、東西約3km、南北約2kmの広範囲に広がっている。このように、北鳥遺跡の周辺は、自然堤防上に展開する集落、眼下



第1図 埼玉県の地形



- 1 北島遺跡 2 田谷遺跡 3 天神東遺跡 4 上川上遺跡 5 天神遺跡 6 中桑条里遺跡 7 東沢遺跡
 8 中余遺跡 9 前中西遺跡 10 藤之宮遺跡 11 諏訪木遺跡 12 池上遺跡 13 古宮遺跡 14 小敷田遺跡
 15 池守遺跡 16 天神前遺跡 17 横塚山古墳 18 弥藤吾新田遺跡 19 鶴森遺跡 20 中桑古墳群

第2図 周辺の遺跡

に広がる耕作地、それを潤す豊富な湧水点や伏流水を源とする河川が流れ、そこに古墳の小さい丘も含めた歴史的景観が復元できる。

北島遺跡(1)は、熊谷スポーツ文化公園・上之調節池建設や市道拡幅工事に先だって、22地点の発掘調査が実施されている。このなかで、古墳時代前期の遺構が発見されたのは、第5・12・17・20地点、熊谷市教育委員会発掘調査地点および本報告が対象とする第19地点である(第3図参照)。

第5地点および熊谷市教育委員会発掘調査地点は、北島遺跡の北西部に位置する。それぞれの調査区から、住居跡が1軒ずつ検出されているに留まり、古墳時代前期集落の大きな展開はみられない。

第12・17・19・20地点は、北島遺跡の東半部に位置する。

第12地点は、第19地点西辺に沿った調査区である。第19地点に展開する集落の西側の部分と、第19地点の南西に広がる集落が発掘されている。

第17地点は、第19地点の南東に所在する。集落のほかにはたけ跡や水田も検出されている。

第20地点は、第19地点の北側に位置する。幅約4m強の調査区のため、集落の広がりを把握することはできない。しかし、第19地点の集落との直接的な繋がりは想定できない。また、集落城の東側には、上面に浅間A火山灰層が散見されるはたけ跡も発見されている。

中条遺跡群のなかでは、北島遺跡と隣接する天神遺跡・田谷遺跡・天神東遺跡・中条条里遺跡・上川上東遺跡や、東沢遺跡・雷電遺跡等が、古墳時代前期の遺跡として知られている。

天神遺跡(5)は、北島遺跡の西側に隣接する。集落や墓域は発見されていないが、堅穴状遺構から古墳時代前期～中期の土器が一括出土している。

田谷遺跡(2)は、北島遺跡の北東に隣接する。各時代ごとに生活面の高さが異なる4層の文化層が確認されている。このうち、下3層から弥生時代末～古墳時代前期の住居跡31軒や堅穴状遺構・溝跡・土

坑が発見され、多量の遺物も出土している。第三遺構面と第二遺構面は、層厚0.2m程度の洪水砂層によって区切られているが、このような災害を被りながらも連続と住居の構築が続けられている。

天神東遺跡(3)は、北島遺跡の東側に隣接する。古墳時代前期の住居跡5軒・掘立柱建物跡1棟が発見されている。住居跡からは多量の炭化物が検出され、火災に見舞われた集落跡と推定されている。

中条条里遺跡(6)は、北島遺跡の東側に南北約1.3km、東西約0.8kmの範囲に広がる。北島遺跡・天神東遺跡と隣接する遺跡西端部際から、住居跡17軒・方形周溝墓2基・土壇6基・溝跡7条・土器集中1カ所が検出されている。

上川上東遺跡(4)は、北島遺跡第7地点南半に検出された埋没河川跡の対岸に位置する。住居跡を始めとする遺構は発見されていないが、古墳時代前期の土器が出土している。

東沢遺跡(7)は、北島遺跡の東方約1kmに位置する。埋没した河川跡から、古墳時代前期～中期の土器とともに、各種の木製農具類が投棄された状態で出土している。

雷電遺跡は、東沢遺跡の北方約1kmに位置する。東沢遺跡と同様の立地を示す。遺構は検出されていないが、甕・土付甕・高坏・器台等が一括出土している。

北島遺跡も含めて、古墳時代前期の遺跡として知られている中条遺跡群の諸遺跡は、遺跡群東半部に集中して分布している。この傾向は、当時の自然地形や歴史的景観の復元のみならず、はたけ跡や水田跡に代表される耕作地の展開を復元する上でも、貴重な情報を提供している。

中条遺跡群の南方には、前中西遺跡・藤之宮遺跡・諏訪木遺跡・池上遺跡・古宮遺跡・小敷田遺跡・池守遺跡等が所在する。いずれも熊谷扇状地末端と妻沼低地末端が錯綜する地に位置し、中条遺跡群と同様な立地条件にある。

前中西遺跡(9)・藤之宮遺跡(10)・諏訪木遺跡(11)は、

熊谷扇状地縁辺部に立地する。前中西遺跡では住居跡とともに古墳時代前期～後期の竪穴状祭祀遺構が、藤之宮遺跡では住居跡8軒と古墳時代前期～中期の河川における水辺祭祀跡が発見されている。

古宮遺跡03では2層の文化層が確認され、主に下層から弥生時代中期～古墳時代中期の遺構が発見されている。古墳時代前期の住居跡は11軒が発見され、前期後半の土器が出土している。

小敷田遺跡04では、住居跡1軒・方形周溝墓7基・掘立柱建物跡2棟等が発見されている。掘立柱建物跡は方形周溝墓の台方部分に軸方向を描いて建立されたもので、掘立柱建物跡と方形周溝墓のセットは周溝が巡る平地式の住居跡と理解される。遺物は、畿内地方や東海地方などの外来系土器群も数多く、1基の方形周溝墓からは多量の木製品も出土している。また河川跡から鍬、鋤などの多量の木製農耕具が出土し注目されている。

池守遺跡05では、住居跡5軒と沼地などから土器や木製品が多量に出土している。

中条遺跡群の北方には、中耕地遺跡や妻沼町の弥藤吾新田遺跡・妻沼小学校敷地内遺跡・鶴森遺跡等が古墳時代前期の遺跡として知られている。

中耕地遺跡は、北島遺跡の西北西方約5kmに位置する。住居跡等の遺構は検出されていないが、土器集中3カ所が発見されている。中耕地遺跡の東方約0.8kmには、墳丘長30mほどの帆立貝形前方後円墳の横塚山古墳07が所在する。古墳が立地する基盤層から出土したパレス壺口縁片によって、付近に古墳時代前期集落の存在が予想されている。

弥藤吾新田遺跡08・妻沼小学校敷地内遺跡は、利根川によって形成された自然堤防上に立地する。弥藤吾新田遺跡では5軒の住居跡が発見され、遺構外遺物ではあるが、鼓形器台も出土している。また、妻沼小学校敷地内遺跡では、住居跡1軒が発見され、古墳時代前期末の良好なセットを示す土器が出土している。

鶴森遺跡09は、利根川の支流である福川左岸の自

然堤防上に立地する。住居跡1軒が発見されている。

中条遺跡群の南西方では、天神前遺跡・万吉下原遺跡・吉岡配水場遺跡等が古墳時代前期の遺跡として知られている。

天神前遺跡06は、石原古墳群の一角に所在する。住居跡は発見されていないが、溝跡から土器が出土している。

荒川の南岸(右岸)の江南台地先端部には、万吉下原遺跡・吉岡配水場遺跡が所在する。万吉下原遺跡では、高さ1mほどの墳丘を残存する方形周溝墓3基が発見されている。方形周溝墓は、周溝が全周するタイプのものである。遺物は壺を中心とし、焼成前に底部を穿孔された壺が1点のみ出土している。方形周溝墓の供献土器に穿孔土器が少ないことは、北島遺跡の方形周溝墓の様相と共通する。吉岡配水場遺跡は、古墳時代前期から中期においては集落が形成され、後期以降には円形周溝墓や古墳が築造された墓域に変容している。

北島遺跡の周辺に位置する古墳時代前期の遺跡の多くは、熊谷扇状地の末端や妻沼低地に分布する自然堤防上に立地する。これらの自然堤防は、荒川や利根川、またそれらを源とする中小河川によって形成されている。そのため、北島遺跡・中条遺跡群も含めた古墳時代前期の遺跡は、荒川や利根川の流れて沿って分布している。しかし、その流路は単一ではなく、幾筋もの流れに沿っている。荒川の流れに沿っては、北島遺跡→田谷遺跡→天神東遺跡→中条条里遺跡ルート、前中西遺跡→藤之宮遺跡→諏訪木遺跡→池上遺跡→古宮遺跡ルート、小敷田遺跡→池守遺跡ルートがあげられる。一方、利根川の流れに沿っては、弥藤吾新田遺跡→妻沼小学校敷地内遺跡ルート、中耕地遺跡→鶴森遺跡ルートがあげられる。このように、自然堤防や遺跡の分布から、荒川・利根川の乱流や埋没した中小河川の復元を行うこともできる。

また、荒川北岸に位置する古墳時代前期の遺跡が、

熊谷扇状地中央の高台よりも、扇状地末端から低地部に分布していることは注目される。その一因として、「稲作農耕」という経済的側面があげられる。北島遺跡の周辺では、北島遺跡第19・17地点、小敷田遺跡、池守遺跡など稲作文化の黎明期から集落・水田が営まれてきた。熊谷扇状地末端と妻沼低地末端が錯綜するこの地は、平坦な可耕地が広がり、それを潤す豊富な水源も確保された「稲作農耕」に適した地である。そして、北島遺跡第19地点で発見された弥生時代中期の堰跡に象徴されるように、高い土木技術も有していた。これらの諸条件を背景

にした「水田開発」は、きわめて合理性の高いものであったのであろう。このように、北島遺跡および周辺に分布する古墳時代前期の遺跡は、その黎明期より高い水準にあった「稲作農耕」文化を継承・発展させ、古墳築造に象徴される新たな時代を迎えることとなった。古墳時代には水田経営がさらに発展し、中条古墳群を始めとする古墳群が造営される。と同時に、古墳築造等を背景にした土木技術も進展し、古墳時代前期の遺跡がみられなかった熊谷扇状地上にも古墳群が築かれていくことになる。

Ⅲ 遺跡の概要

北島遺跡は、埼玉県熊谷市大字上川上に所在する。熊谷スポーツ文化公園内のほぼ全域におよび、南北約1,200m、東西約1,650mの広大な範囲に広がっている。北側に女塚遺跡・中条古墳群、東側に田谷遺跡・天神東遺跡・中条条里遺跡、南側に上川上東遺跡、西側に天神遺跡と接する。

北島遺跡では、昭和60年(1985)における第1次調査以降、計22地点におよぶ発掘調査が、断続的に続けられてきている。財団法人埼玉埋蔵文化財調査事業団が、熊谷スポーツ文化公園建設(第1～13・17～21地点)・上之調節池建設(第14～16地点)を調査原因とする15次21地点、熊谷市教育委員会が熊谷市道拡幅工事に伴う発掘調査(1地点8区)を実施している。

第1地点は、遺跡北西部に位置する。調査区の北半部に8～9世紀の集落跡、南半部に浅間B軽石層に覆われた平安時代の水田跡が広がっている。集落跡は9世紀を中心とし、竪穴住居跡と数棟の掘立柱建物跡によって構成されている。

第2地点は、遺跡中央付近に位置する。9世紀代の掘立柱建物跡群を中心とした集落跡である。大型の掘立柱建物跡群や竪穴住居跡から構成され、北島遺跡の西半の中心的な建物群である。

第3地点は、遺跡中央の南よりに位置する。7～9世紀の集落跡と、中世館跡と推定される掘跡の一部が確認されている。発見された遺構は発掘区全体に分布し、井戸跡の形態にはバリエーションがみられる。

第4地点は、遺跡西南部に位置する。調査区の東半部に第3地点から広がる7～9世紀を中心とする集落跡、西半部に第1地点から続く浅間B軽石層に覆われた水田跡が発見されている。11世紀代の住居跡や、中世後半の館跡と推測される堀跡、石組の井戸跡も検出されている。

第5地点は、遺跡西半部中央付近に位置する。7

～9世紀を主体とする集落跡である。住居跡が高い密集度で重複し、古墳時代前期(4世紀)の住居跡1軒も発見されている。

第6地点は、遺跡西端部に位置する。西側に天神遺跡が隣接し、その境界には河川跡の存在を推測させる礫を主体とする地質が広がっている。7～9世紀を主体とする集落が形成されている。

第7地点は、遺跡中央の南端部に位置する。調査区の地形が、北半部の自然堤防と南半部の埋没した河川跡に分割される。自然堤防上には、掘立柱建物跡が主体となる7～8世紀の集落が展開し、小規模な住居跡も併存する。埋没した河川跡からは、廃棄された土器と木製品が多量に出土している。また埋没河川を挟み、上川上東遺跡と対峙する。

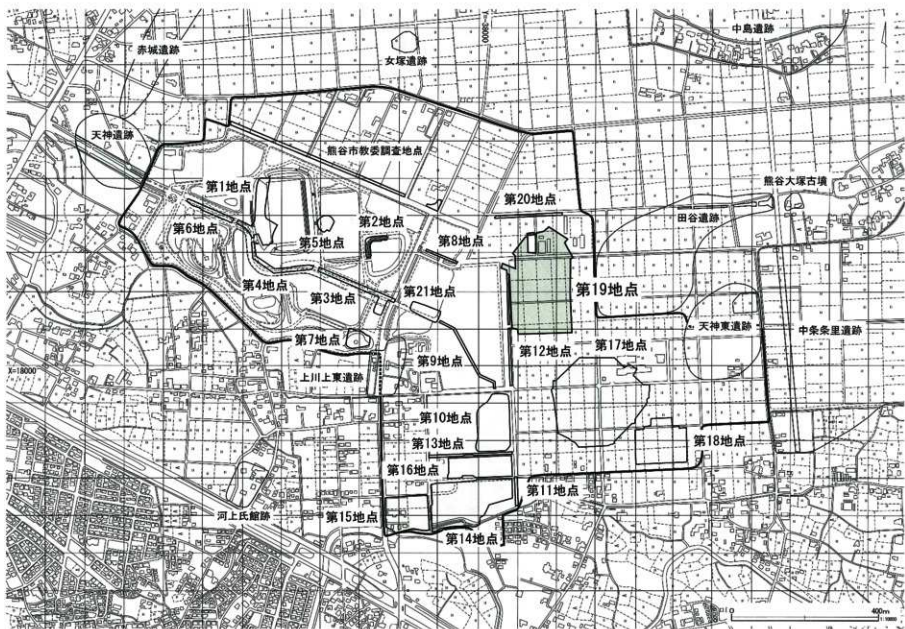
第8地点は、遺跡中央付近に位置する。第7地点から北東方向に繋がる埋没した河川跡の北西に所在し、調査区の東半部は河川跡に向かう傾斜をもつ。発見された遺構数は少なく、9世紀代の住居跡・掘立柱建物跡・小穴群が疎らに配置されている。

第9地点は、遺跡中央付近南よりに位置する。調査区の北西端には、第7地点から続く河川跡が確認されている。河川跡は、浅間B軽石層に覆われていた。この河川の縁辺部には、疎らながらも、8～9世紀の住居跡・掘立柱建物跡が展開している。

第10地点は、遺跡中央南部に位置する。調査区の中央部には、条里地割にかかる溝跡が東西に走る。その南部には、住居跡と「コ」の字状に配置された掘立柱建物跡が展開している。

第11地点は、遺跡南端部に位置する。調査区の北半部から、土壌・溝跡が発見されている。調査区の南半部は傾斜をもち、南端には砂利層が確認されている。

第12地点は、遺跡北東部に位置し、本書が報告する第19地点西辺に沿った調査区である。発掘当時は、重層する文化層に対する認識が不十分であっ



第3図 北島遺跡の発掘調査地点分布図

たため、層位的な調査を実施していないが、第19地点で確認された弥生時代中期から古代にわたる集落域の広がりや推測できる。発見された住居跡の多くは、古墳時代前期に位置づけられる。第19地点で検出された集落を囲んでいた方形環濠（第464号溝跡）に繋がる溝跡も検出されている。また、調査区の中央部の浅い埋没谷は、第19地点南端の河川跡に相当する。この埋没谷の南部にも集落が展開し、第19地点よりも南側に展開する集落域を窺うことができる。

第13地点は、遺跡中央南部に位置する。北側には第10地点、南側には第16地点が接する。調査区の東半部には、第10地点から広がる8世紀後半～9世紀前半の掘立柱建物跡群が分布する。また、覆土中に多量の骨片や炭化灰・焼土を含む同時期の墓壙群や、10世紀代の須恵器・土師器・灰釉陶器等が多量に出土した溝跡、14世紀代の紀年銘が刻まれた複数の板石塔婆と馬骨が埋設されていた土壌等も検出されている。

第14・15・16地点は、第13地点南側に接するまとまった調査区で、遺跡中央南端に位置する。弥生時代前期末～中期の再葬墓等の遺構や、8世紀後半～9世紀代を中心とする集落跡、9～11世紀を中心とする数多くの溝跡が発見されている。住居跡・掘立柱建物跡は軸方向を揃えて構築され、「コ」字形に配置された掘立柱建物跡群の内側に住居跡群が設けられたセット例も検出されている。このほかに、古墳時代前期の住居跡や、掘立柱建物跡・住居跡を迂回する古代の道路跡も確認されている。

第17地点は、遺跡南東部に位置する。第19地点の南東に設定された調査区である。調査区の北側には、第12地点中央部から第19地点南端を経る旧河川が東流する。第17地点の地形は、旧河川が形成した自然堤防と後背湿地、調査区南東部の微高地に三分される。自然堤防や微高地には、古墳時代前期の集落跡やたけ跡や奈良・平安時代の集落跡が展開する。後背湿地には、弥生時代中期から連続と

して水田が築かれている。

第18地点は、遺跡南東端に位置する。地形的には、後背湿地にあたる。浅間B軽石に覆われた条里水田が発掘調査されている。

第20地点は、遺跡北東部に位置する。第19地点の北側に、東西に長く設定された調査区である。調査区の西側には、第19地点の北西部を掠める埋没河川跡が縦断する。2層の文化層が検出され、上層から奈良・平安時代の集落跡、下層から古墳時代前期の集落跡と上面に浅間A火山灰層が散見されるはたけ跡が発見されている。第19地点とは、古墳時代前期の住居跡の分布に断絶がみられるが、はたけ跡は第19地点北東部に広がるはたけ跡と直接的に繋がる可能性が高い。

第21地点は、遺跡中央付近の第3地点と第9地点の中間に位置する。調査区の中央部には、第7地点から北上する埋没河川跡が縦断する。古墳時代～奈良・平安時代の集落跡およびはたけ跡が発見されている。

熊谷市教育委員会が実施したスポーツ文化公園北側周回道路改修工事に先立つ発掘調査地点は、遺跡北西部に位置する。古墳時代前期、奈良・平安時代の集落跡やはたけ跡等が発見されている。

以上のように、北島遺跡は、弥生時代中期から江戸時代にわたる複合遺跡である。発掘調査の成果から、埋没した河川跡の流路の復元も試みられ、これらの河川跡によって、遺跡内が分割されていたことも解ってきている。現在のところ、少なくとも6単位以上に分割されるものと思われる。その内訳は、①第1・6地点、②第2・3・4・5・7・8地点および第21地点西半部と熊谷市教育委員会調査地点、③第9地点・第10地点北半部・第12地点南半部・第19地点南西端部・第17・18地点、④第10地点南半部および第11・13・14・15・16地点、⑤第12地点北半部・第19地点、⑥第20地点となる。当然のことながら、埋没河川によって分割された個々の単位が、相互に関与しながら集落を営んで

いたことも想像に難くない。このように、北島遺跡は時期の異なる遺構群が重なり合った「複合遺跡」という範疇で捉えることはできない。同時期・異時期の複数の集落単位・生産単位が集合・複合した複雑な様相を備えた遺跡といえる。

本報告が対象とする第19地点の調査は、彩の国まごころ国体2004（第59回国民体育大会・第4回全国障害者スポーツ大会）の熊谷スポーツ文化公園屋内競技場「彩の国くまがやドーム」建設に先立つ発掘調査である。平成11・12年度の2カ年にわたって実施され、調査地点は広大な遺跡範囲の北東部に位置する。

第19地点は、第7地点から第9・21地点を経由して北東に向かって調査区の北西端部を掠める河川跡と、調査区の南西端部を東西に横切る河川跡に挟まれた自然堤防上に立地する。弥生時代中期の大規模集落跡や灌漑施設（堰跡・水路跡等）、古墳時代前期の大規模な集落跡・方形周溝墓群やたけ跡、古墳時代後期の土輪を樹立した古墳群、古代の官衛の施設を伴う集落跡、中・近世の遺構等が連続と高い密度で構築が繰り返され、これらに伴う多量の遺物も出土している。これらの遺構・遺物は各時代ごとに生活面の高さが異なる4層の文化層から発見されている。多重文化層を形成した主原因は洪水土壌の堆積と推定されるが、このような水害を被りながらもこの地点に集落を営み続けていた。これに対し、この地点が居住に最も適していたという自然地的な立地条件だけでは説明することはできず、人為的な意図が想起させられる。遺構・遺物の豊富な内容に加えて、このような様相も加味すると、第19地点が各時代にわたって北島遺跡の中核的な位置を占めていたことを物語っている。

第19地点は、弥生時代中期に掘削された灌漑用水路跡が南北に縦走り、調査区を東西に二分している。この水路跡は古墳時代まで維持されていたが、7世紀後半以降は小川となり、やがて埋没したようである。しかし低地帯として残存し続けたために、

その後も居住施設が構築されていない。この低地帯には、古墳時代後期から奈良時代にかかる大量の土器が集積（廃棄）されている。なかでも、奈良時代の土器には、多くの墨書土器が含まれている。

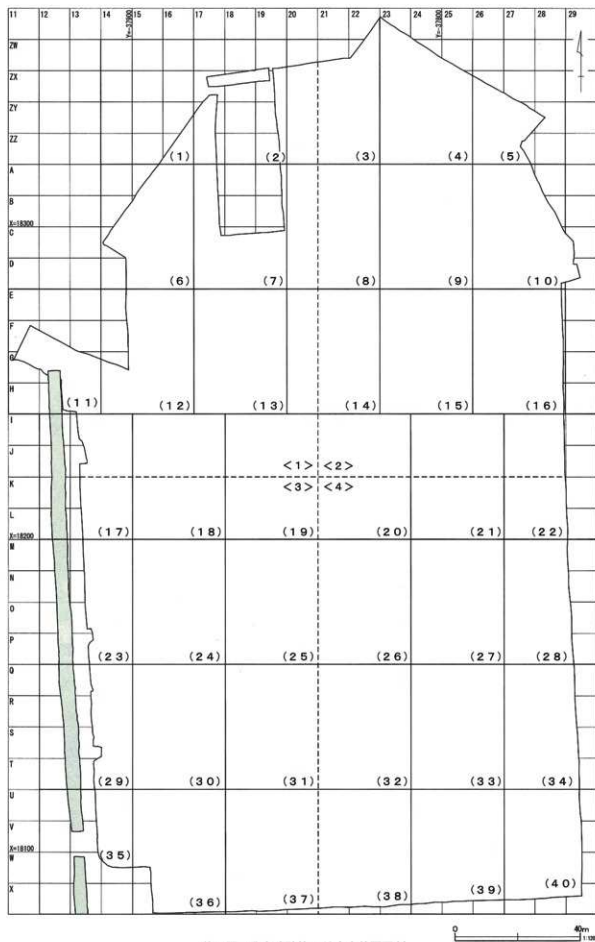
古代から近世の遺構は、竪穴住居跡192軒・掘立柱建物跡78棟・井戸跡95井・土壇497基・溝跡442条・道路跡5条のほか、地鎮跡・集石遺構・土器集中出土地点・灰桶跡等が発見された。これらの多くは、調査区の西側に集中する。調査区の東側には古墳時代後期の古墳群、北側には溝跡群、南側には道路跡と溝跡群が分布している。

奈良・平安時代の建物群は、調査区の西側のみに集中的に建立されている。溝跡によって区画され、奈良時代には、倉庫（総柱建物）と居住施設（三間屋）を中心とした集落が築かれている。平安時代には、二重の区画溝によってやや歪んだ方形に囲まれている。二重の区画溝には、東側に二カ所の開口部が確認されている。北側には冠木門か棟木門、南側には四脚門が設置されている。この様相から、二重の区画溝は築地と想定されている。区画内には五間四面屋が建てられ、緑軸陶器・灰軸陶器が比較的豊富に消費されていたことなどから、居宅跡と推定されている。また調査区の南側には幅6mの東西に走る道路跡も検出され、官衛的な様相を強めている。

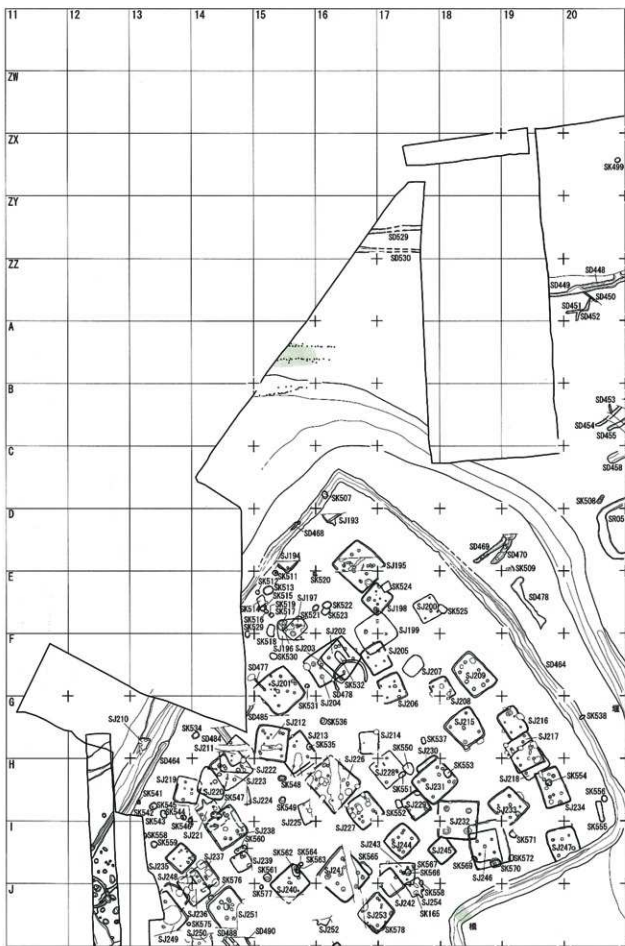
中世にも、調査区の西側に掘立柱建物跡や井戸跡がみられる。特に、竹を立てて壁面とした井戸枠は、この地域の特徴的な工法である。

近世には、遺跡全体が水田となっていたようである。この水田を潤した用水路跡も確認され、調査区の西端には用水路跡の水量を調節した灰桶跡も発見されている。

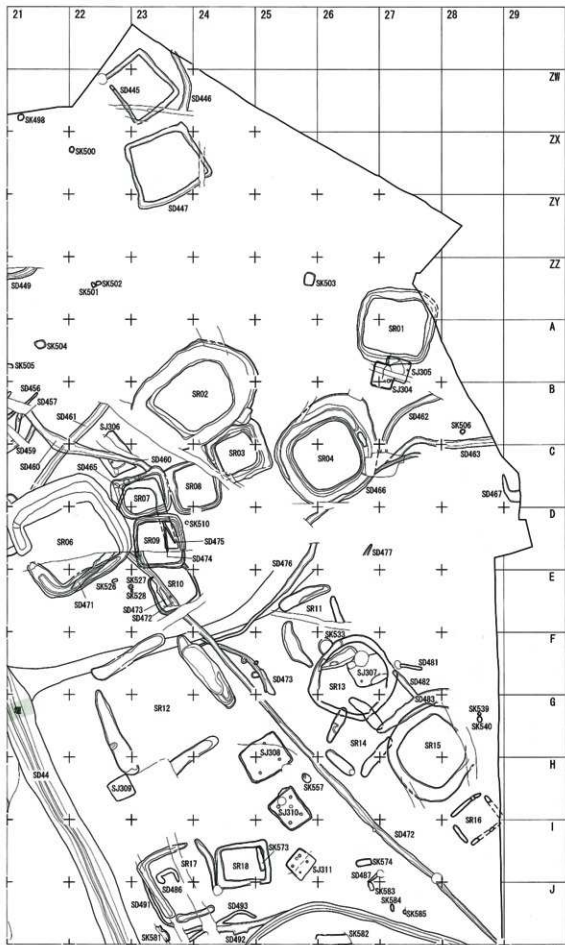
遺物には、古代から近世にかけての土師器・須恵器・灰軸陶器・緑軸陶器・黒色土器・土師質土器・陶器・青磁・白磁・カワラケなどがあり、坏・碗・皿・鉢などの食器、壺・甕・長頸瓶などの貯蔵具、甕・甌などの煮沸具、硯・水滴などの文房具、花瓶・仏鉢を模倣した土器などが出土している。また



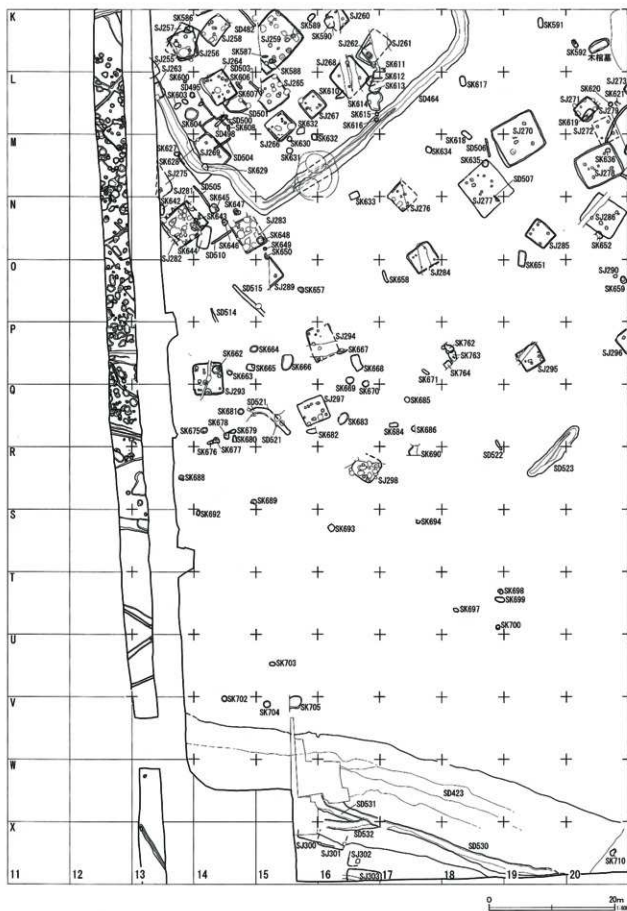
第4图 北島遺跡第19地点全体図区割



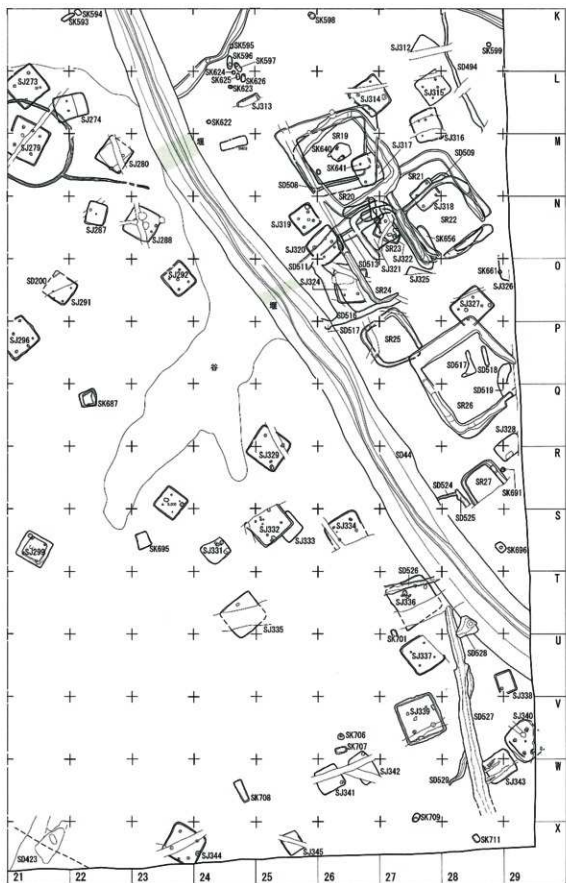
第5図 北島遺跡第19地点全体図〈1〉



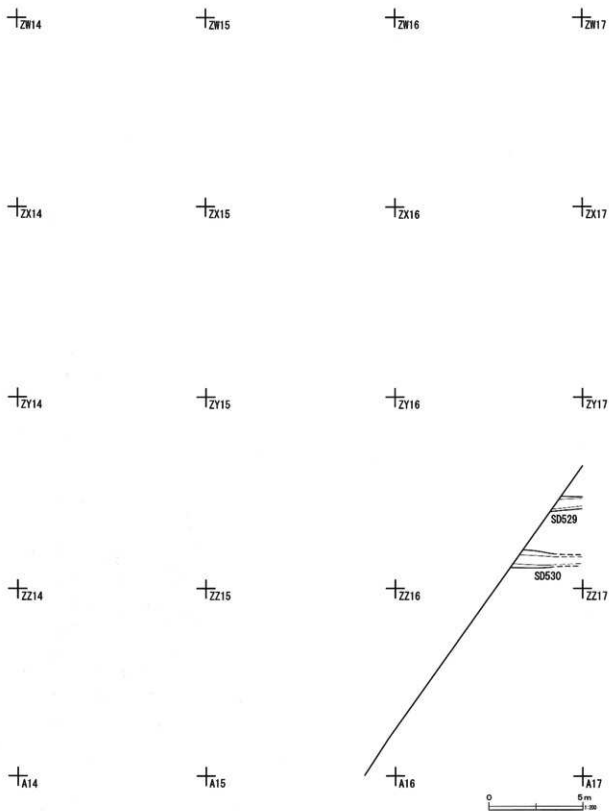
第6図 北島遺跡第19地点全体図(2)



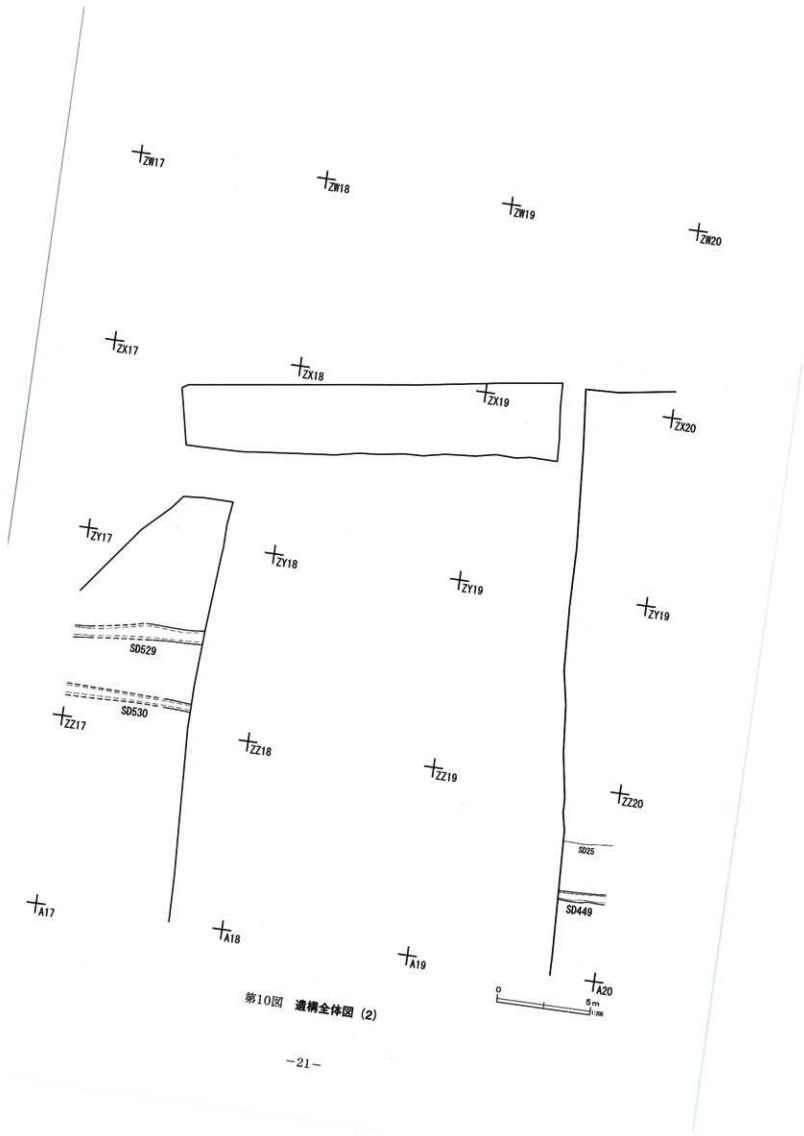
第7図 北島遺跡第19地点全体図〈3〉



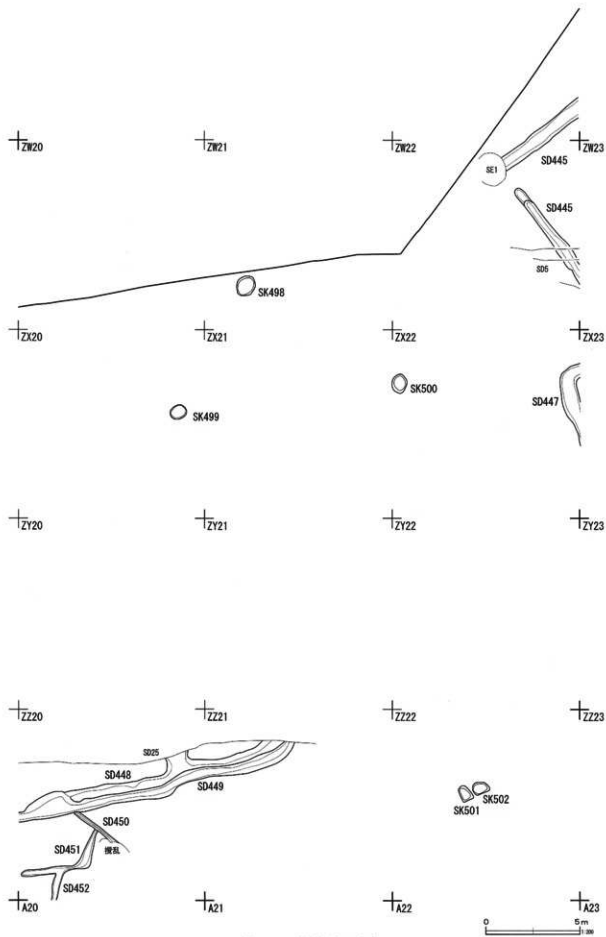
第8圖 北島遺跡第19地点全体図〈4〉



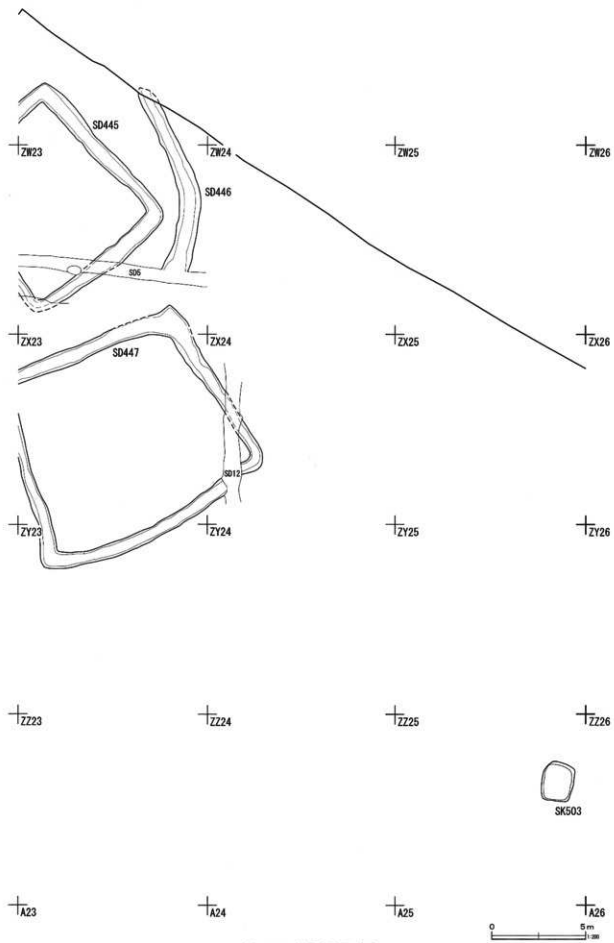
第9図 遺構全体図(1)



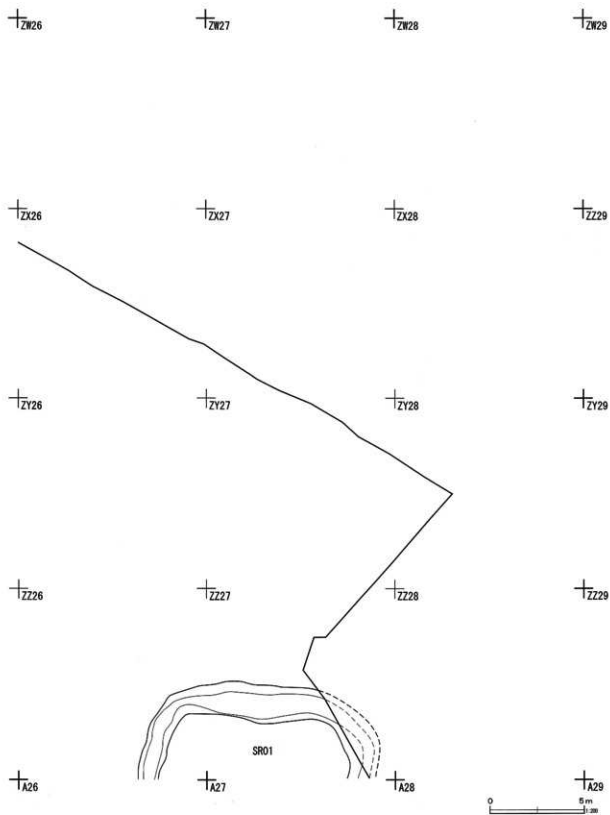
第10图 遺構全体図 (2)



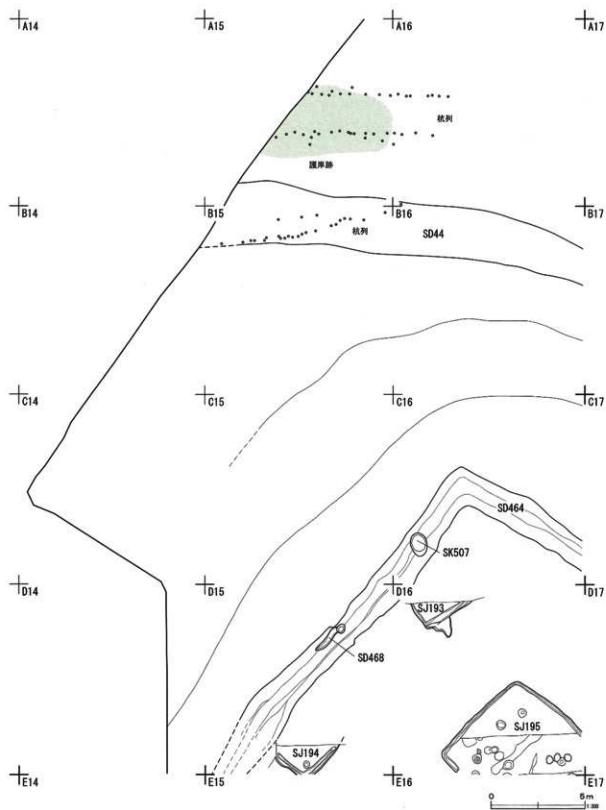
第11图 遺構全体图 (3)



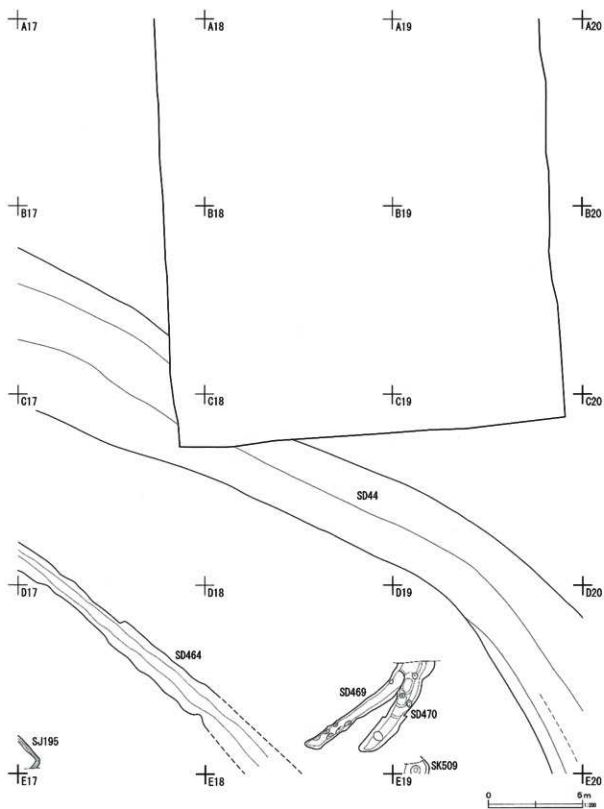
第12図 遺構全体図 (4)



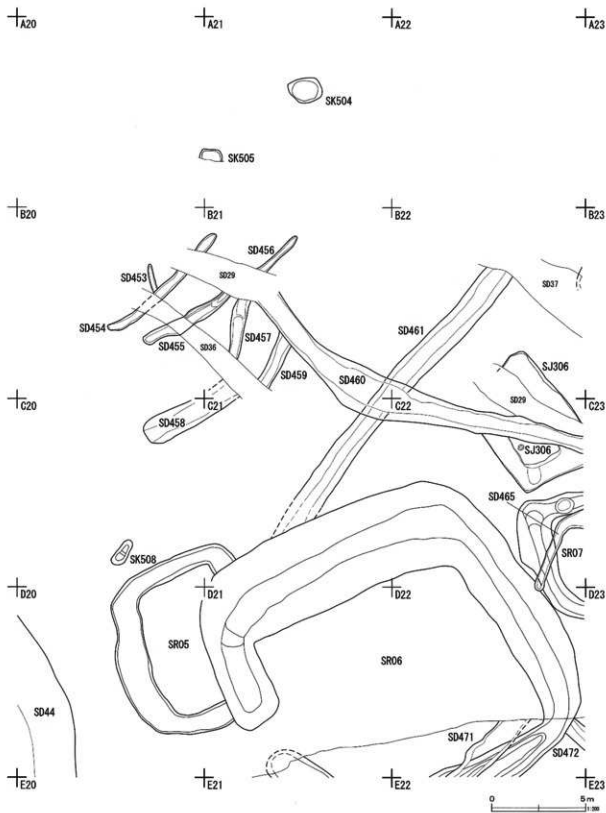
第13図 遺構全体図 (5)



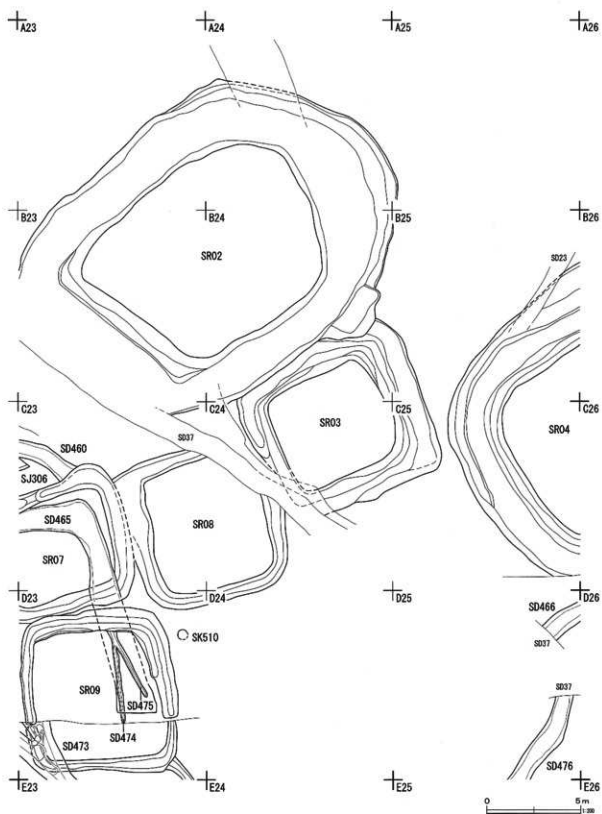
第14図 遺構全体図 (6)



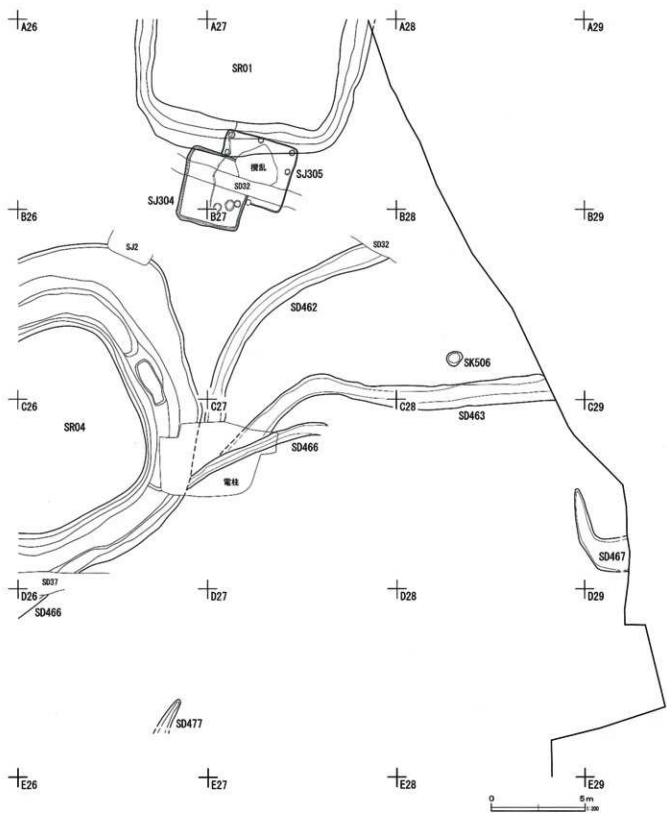
第15図 遺構全体図 (7)



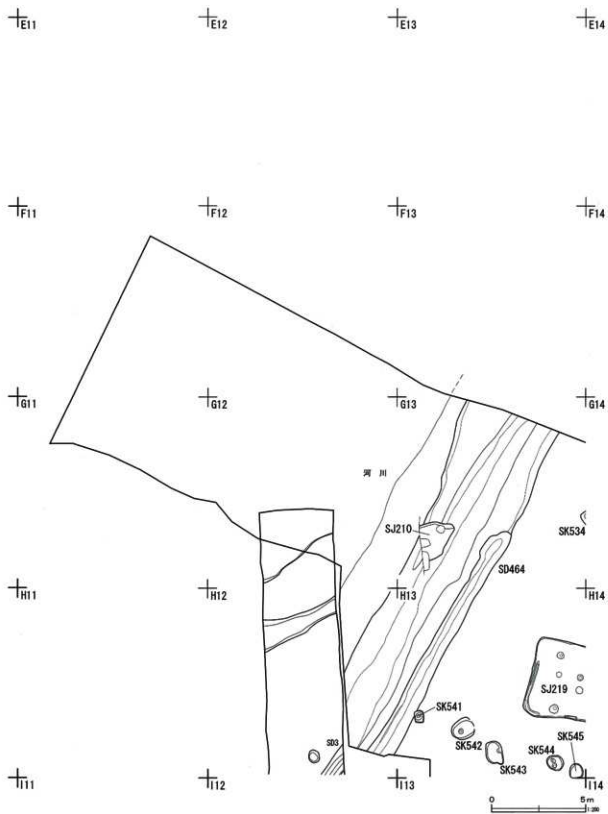
第16図 遺構全体図 (B)



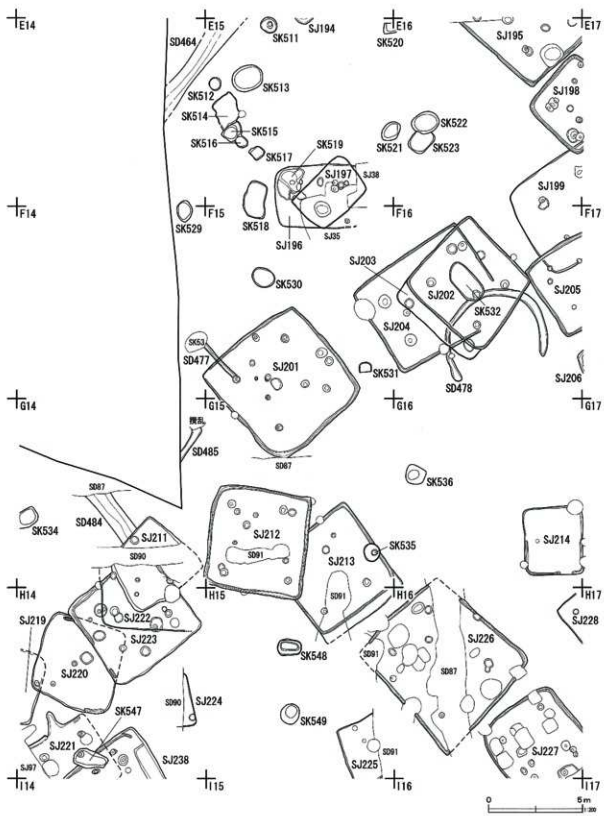
第17図 遺構全体図 (9)



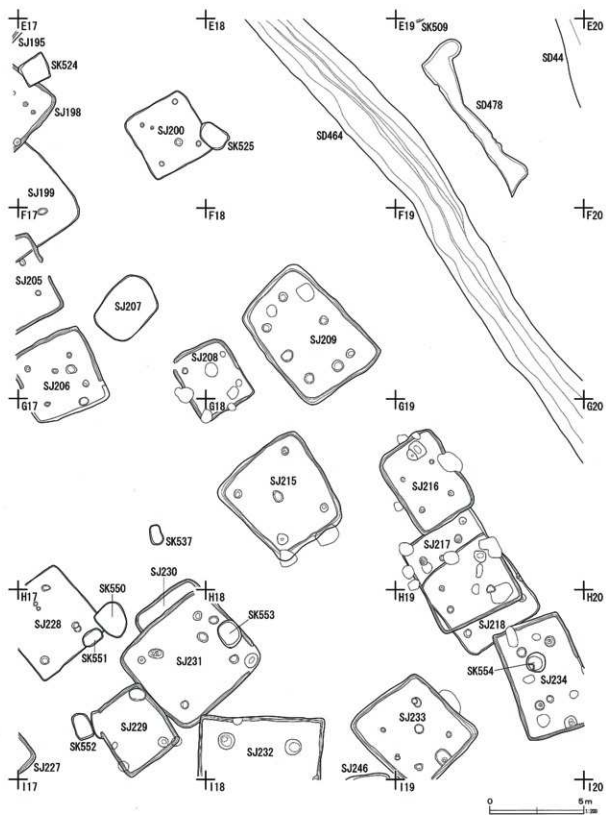
第18圖 遺構全体図 (10)



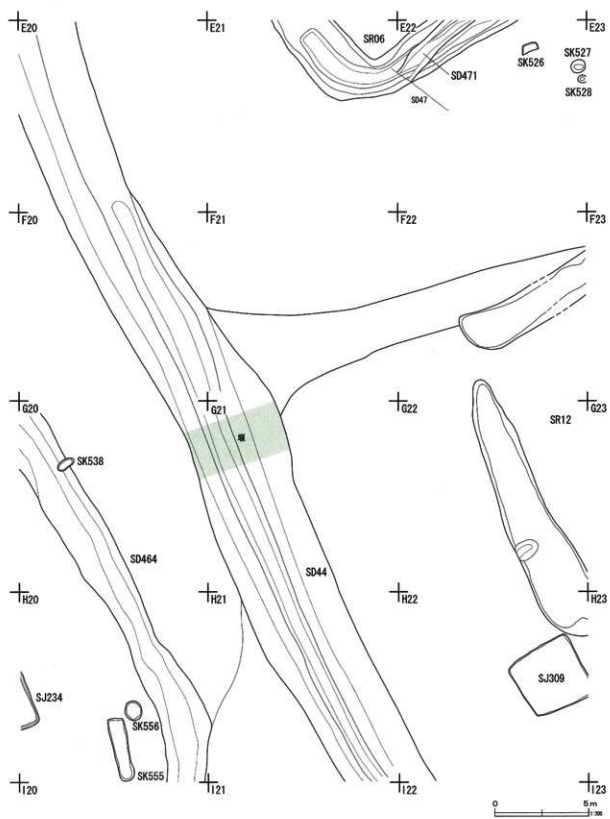
第19図 遺構全体図 (11)



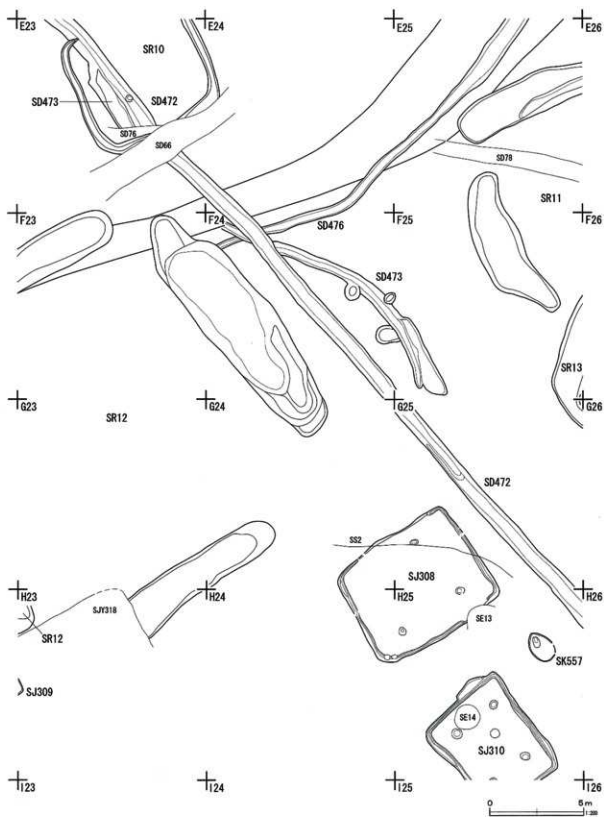
第20图 遺構全体図 (12)



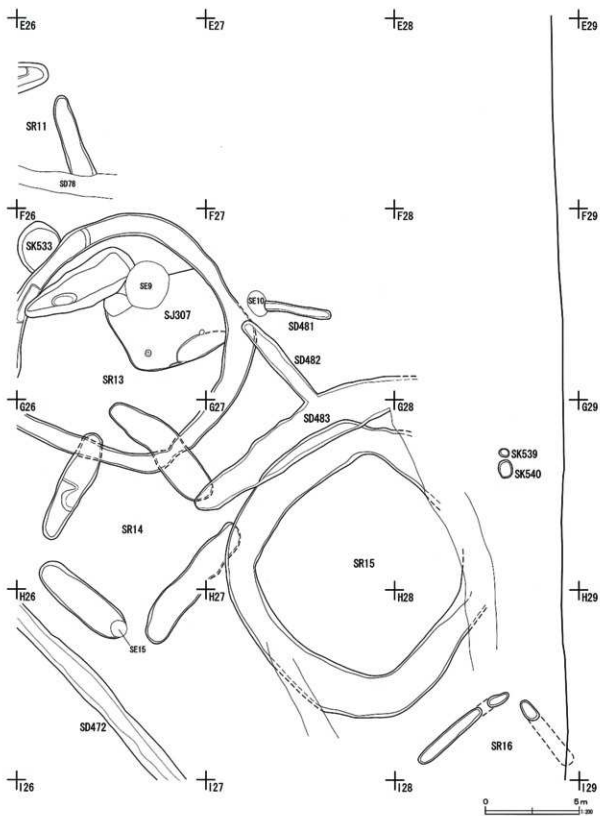
第21图 遺構全体図 (13)



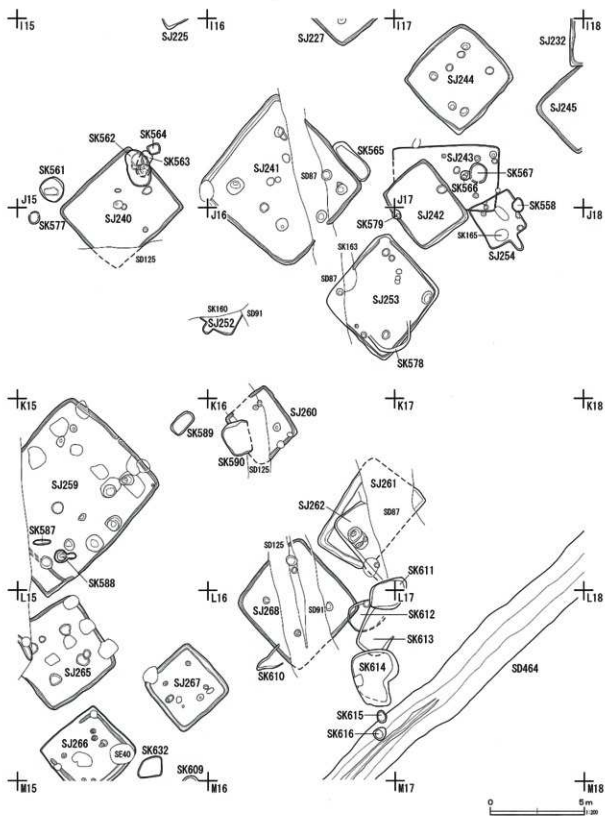
第22図 遺構全体図 (14)



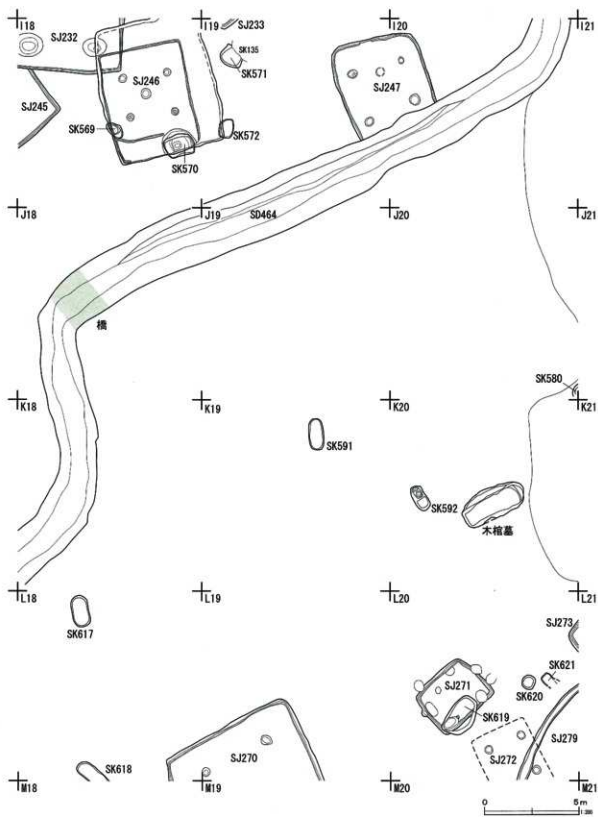
第23図 遺構全体図 (15)



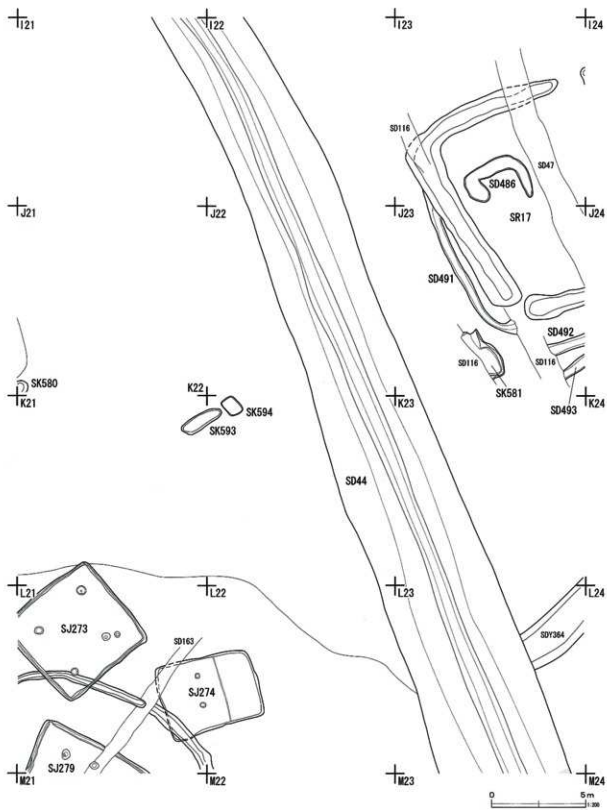
第24図 遺構全体図 (16)



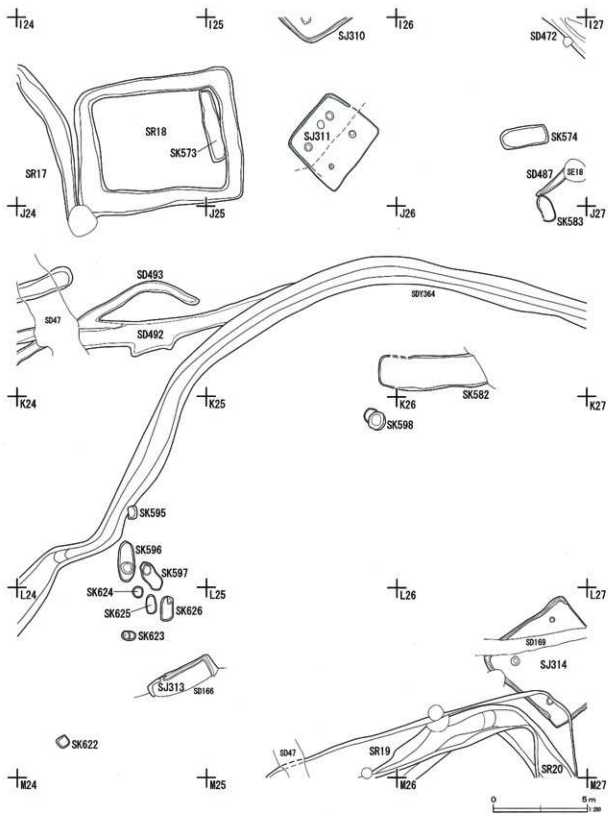
第26図 遺構全体図 (18)



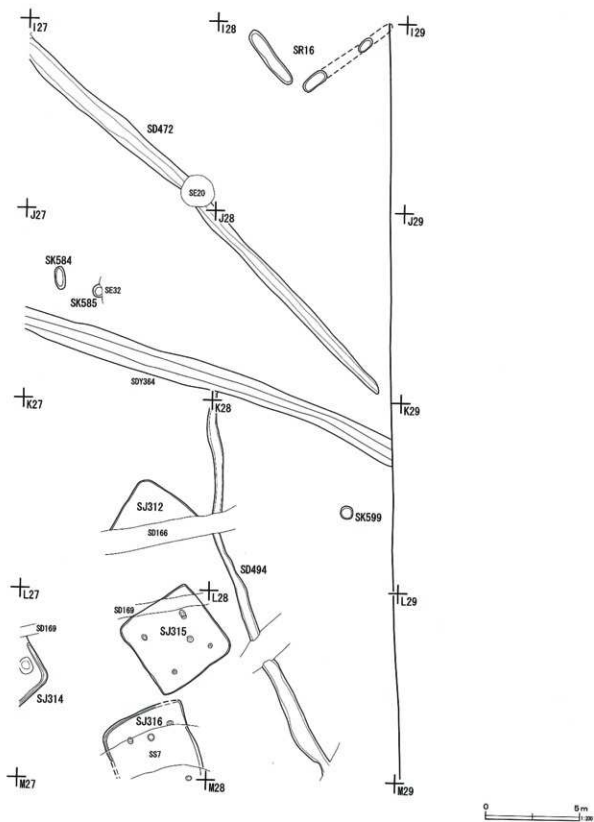
第27図 遺構全体図 (19)



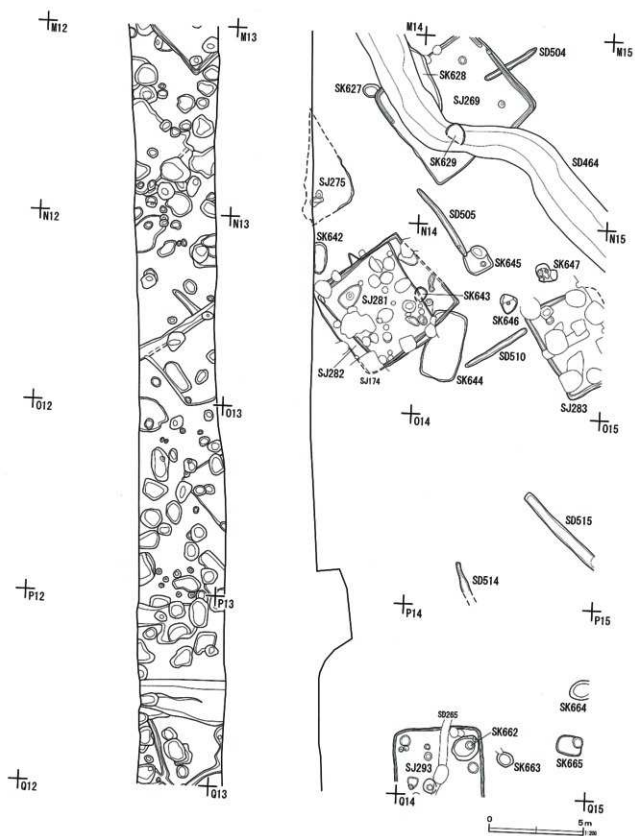
第28図 遺構全体図 (20)



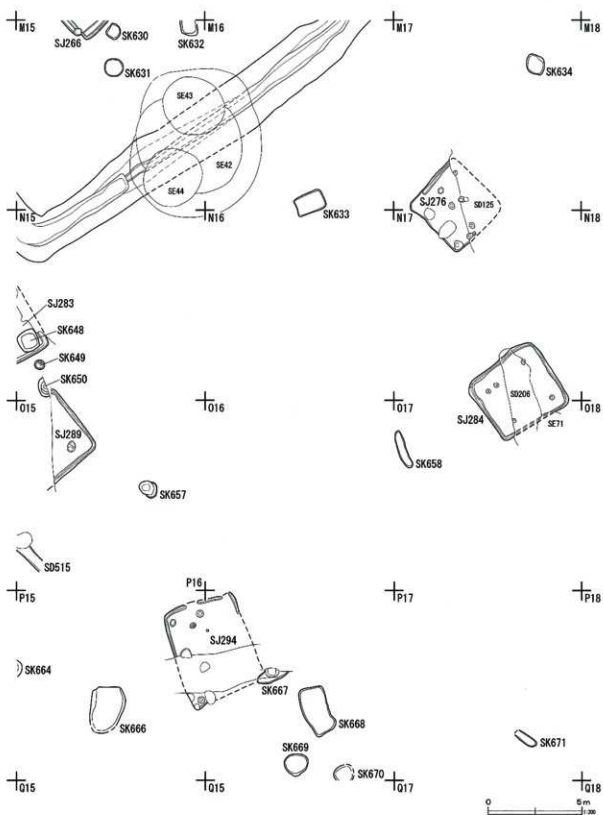
第29図 遺構全体図 (21)



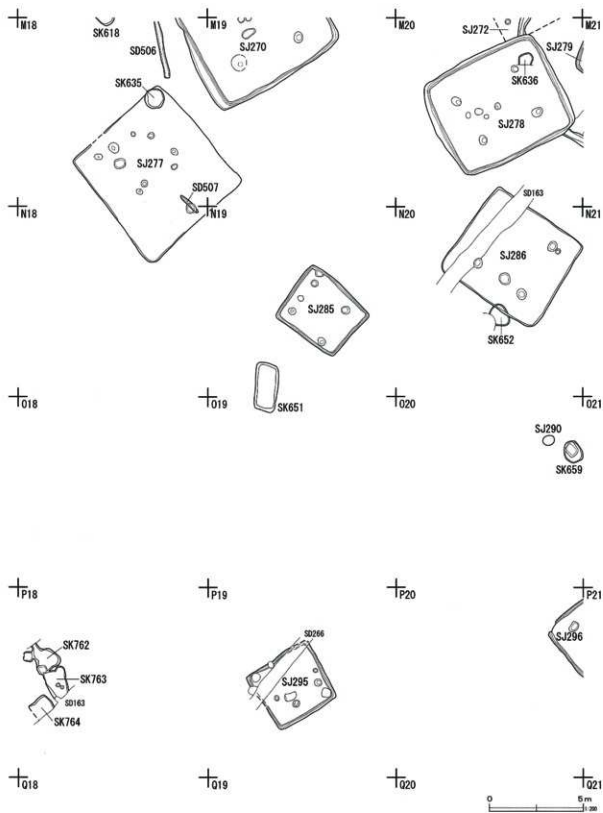
第30图 遺構全体図 (22)



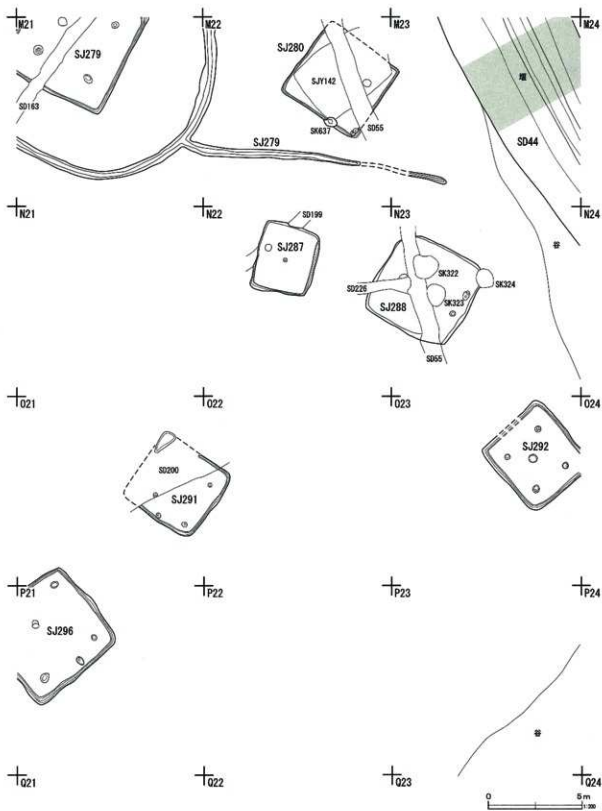
第31图 遺構全体図 (23)



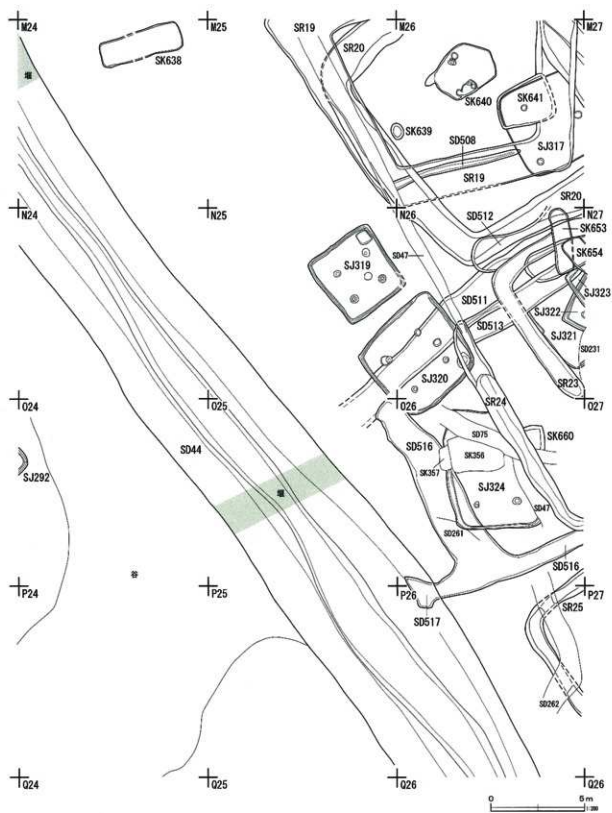
第32图 遺構全体図 (24)



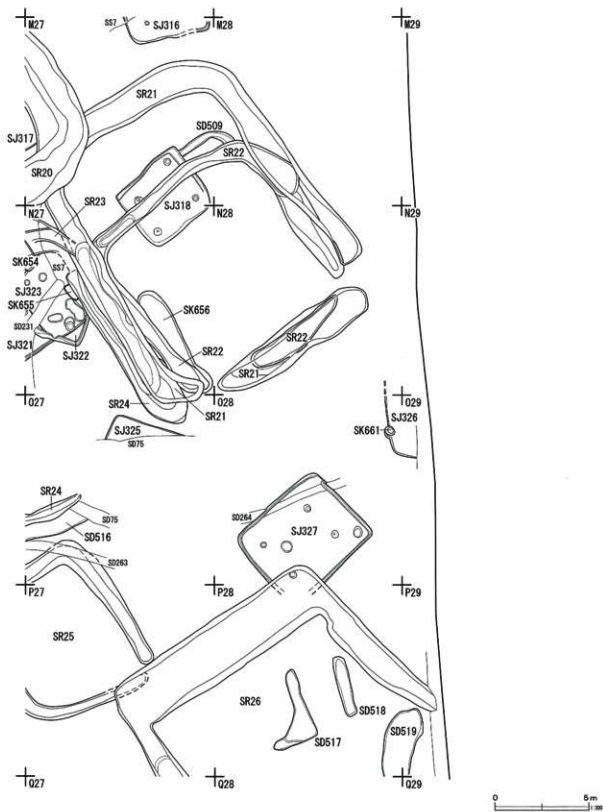
第33図 遺構全体図 (25)



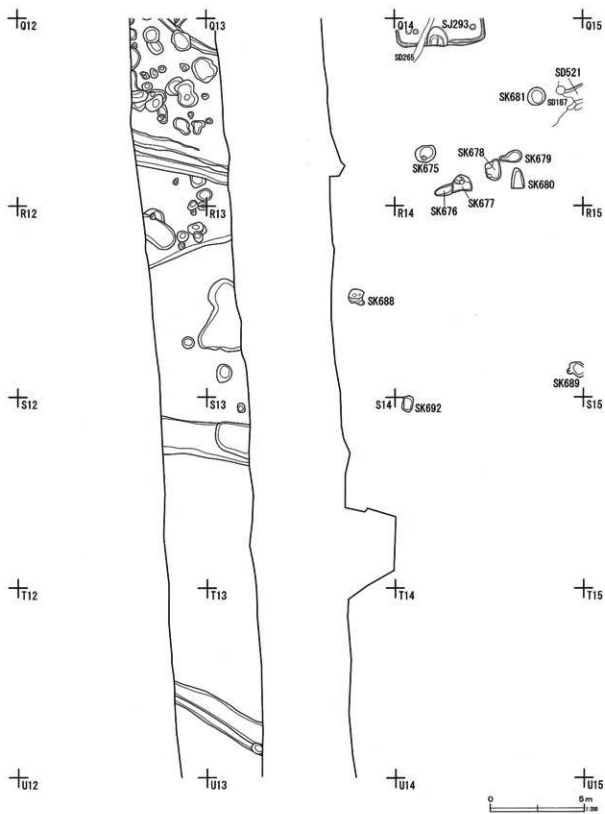
第34图 遺構全体图 (26)



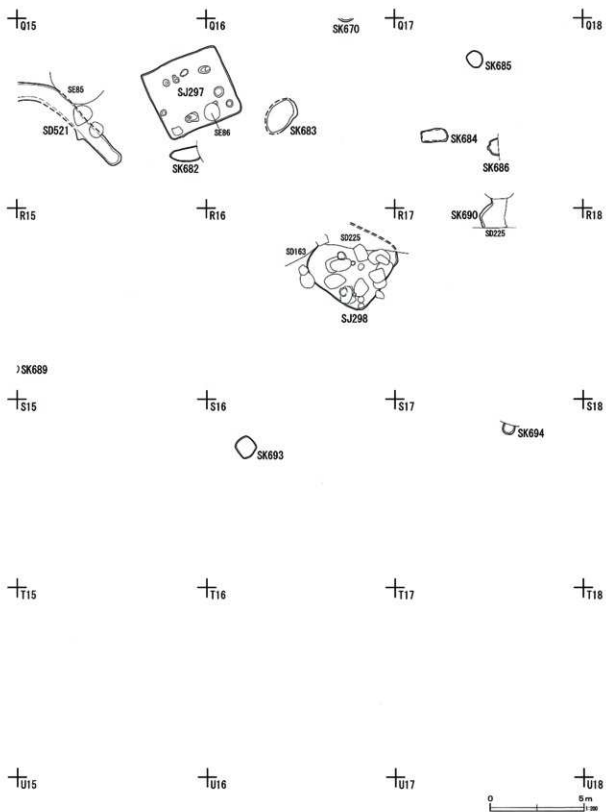
第35図 遺構全体図 (27)



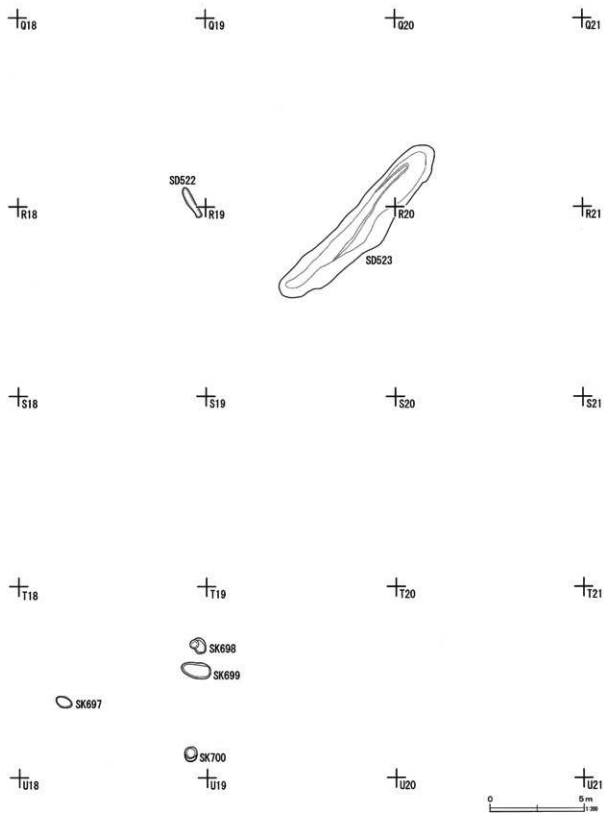
第36図 遺構全体図 (28)



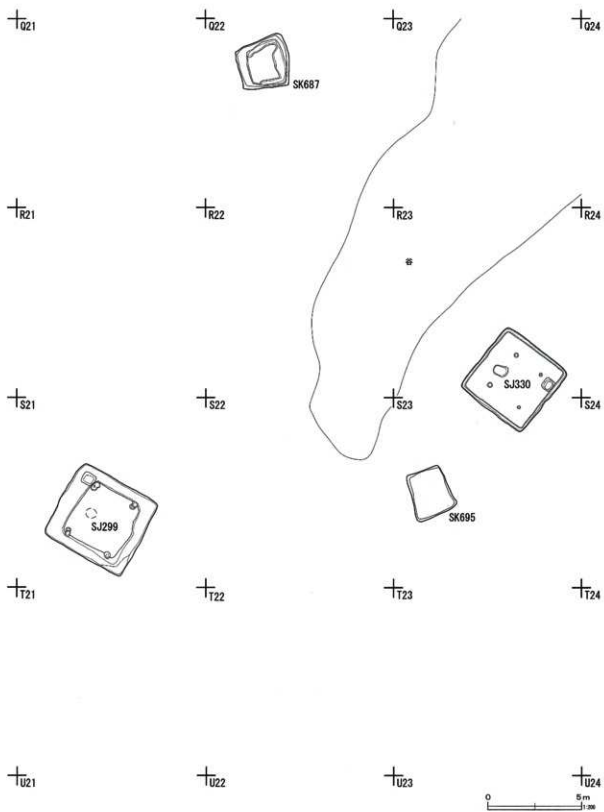
第37图 遺構全体図 (29)



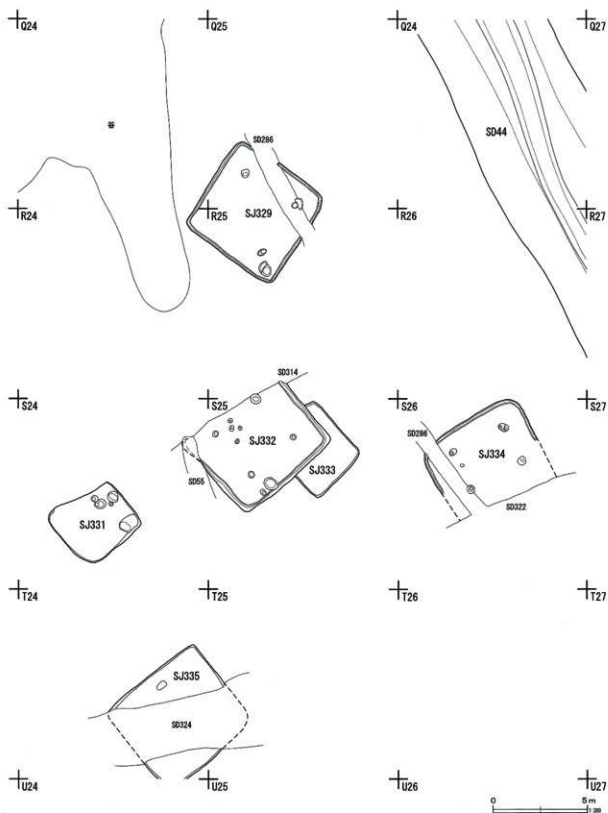
第38图 遺構全体図 (30)



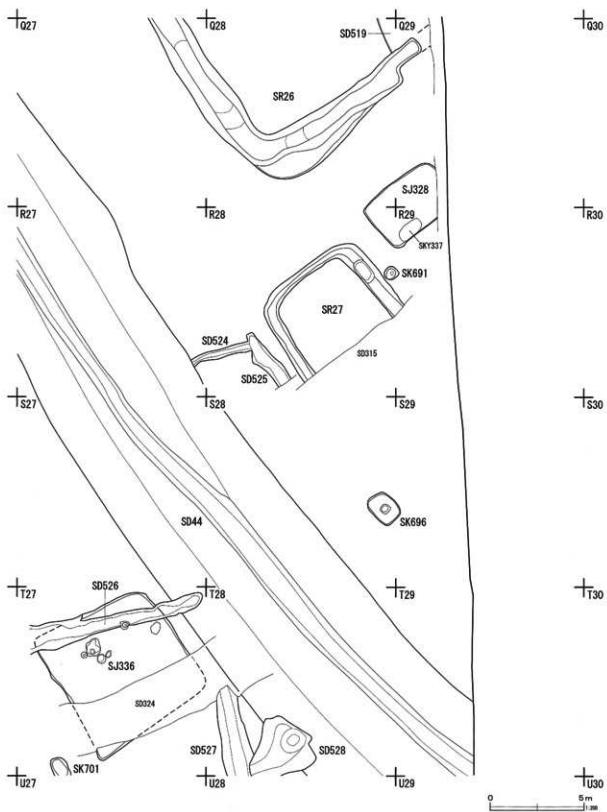
第39図 遺構全体図 (31)



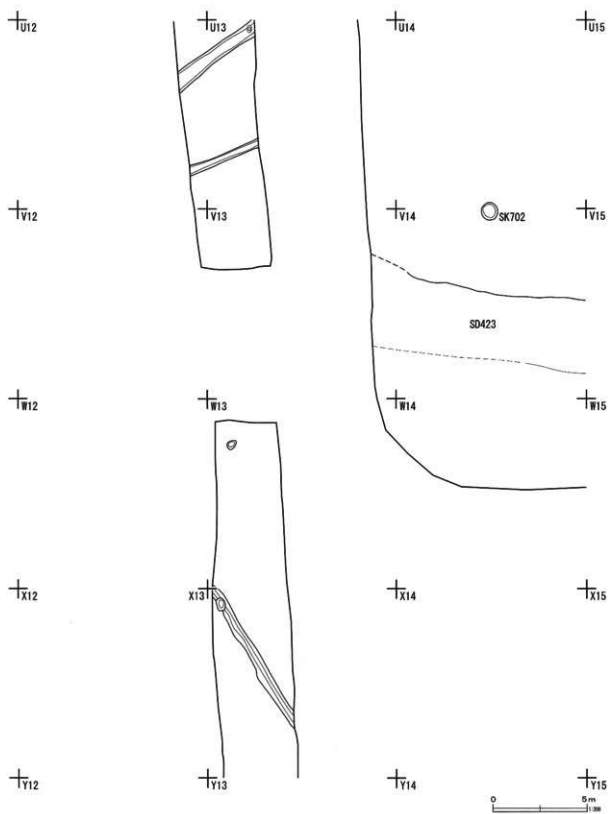
第40图 遺構全体図 (32)



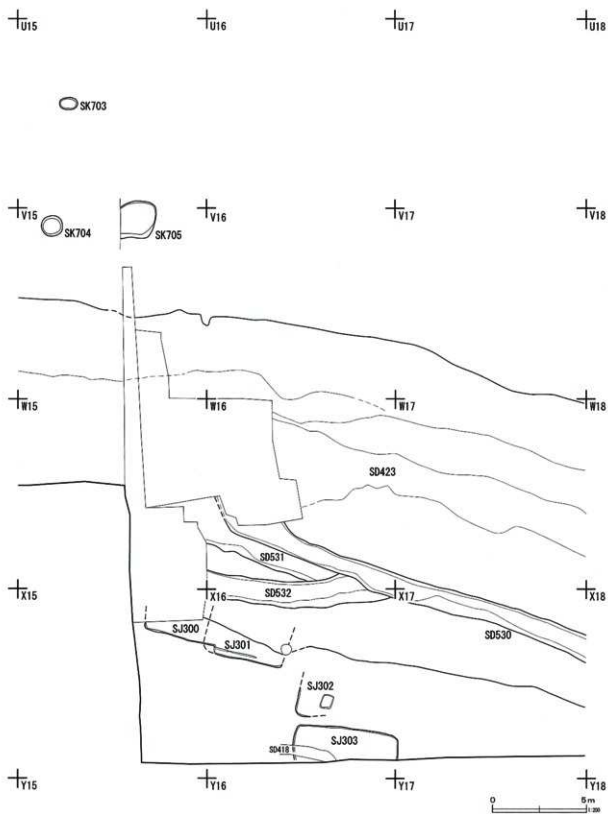
第41图 遺構全体図 (39)



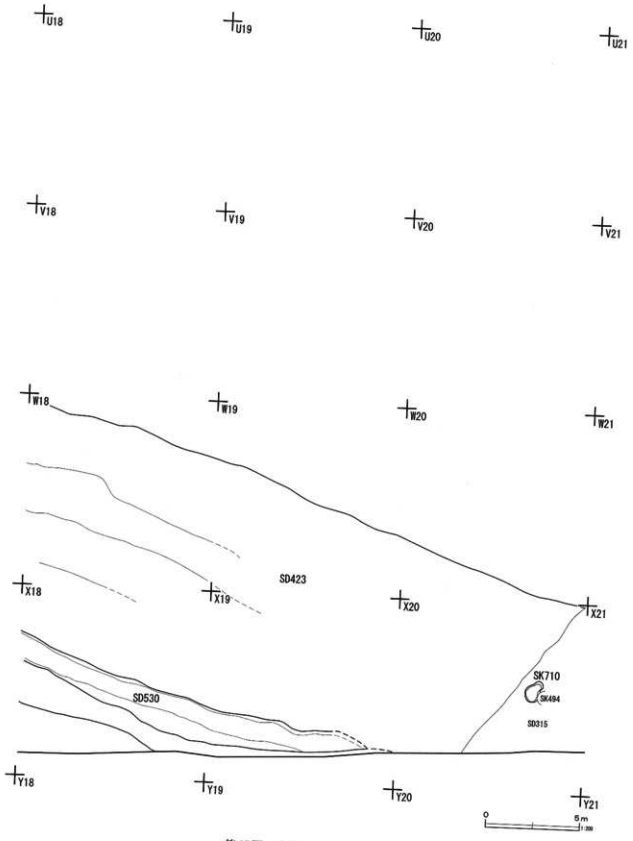
第42図 遺構全体図 (34)



第43图 遺構全体図 (35)



第44図 遺構全体図 (36)

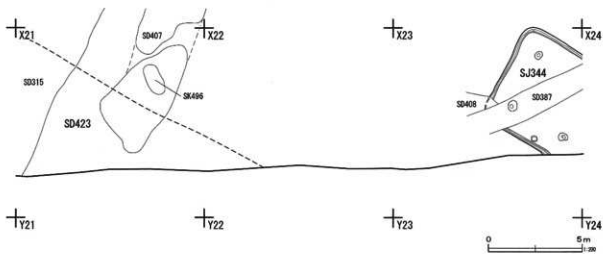


第45図 遺構全体図 (37)

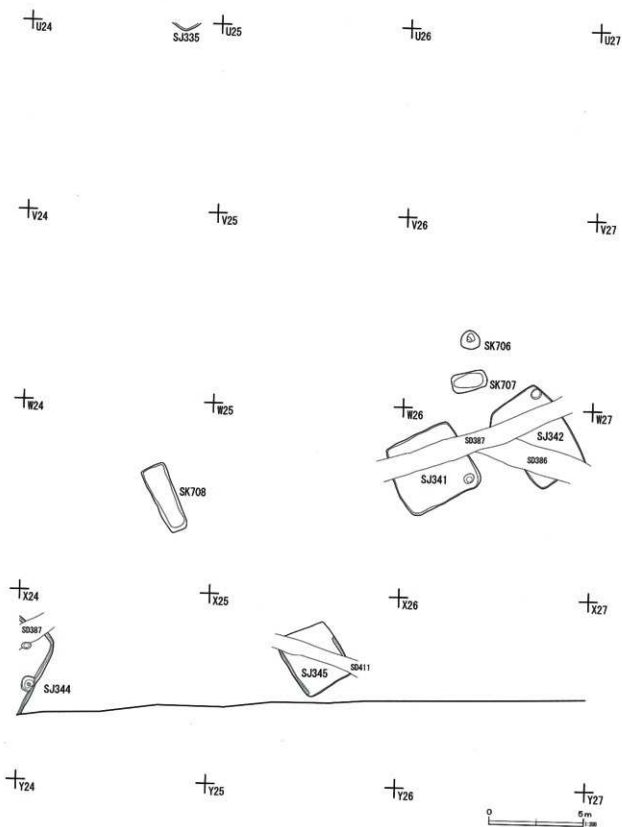
†U21 †U22 †U23 †U24

†V21 †V22 †V23 †V24

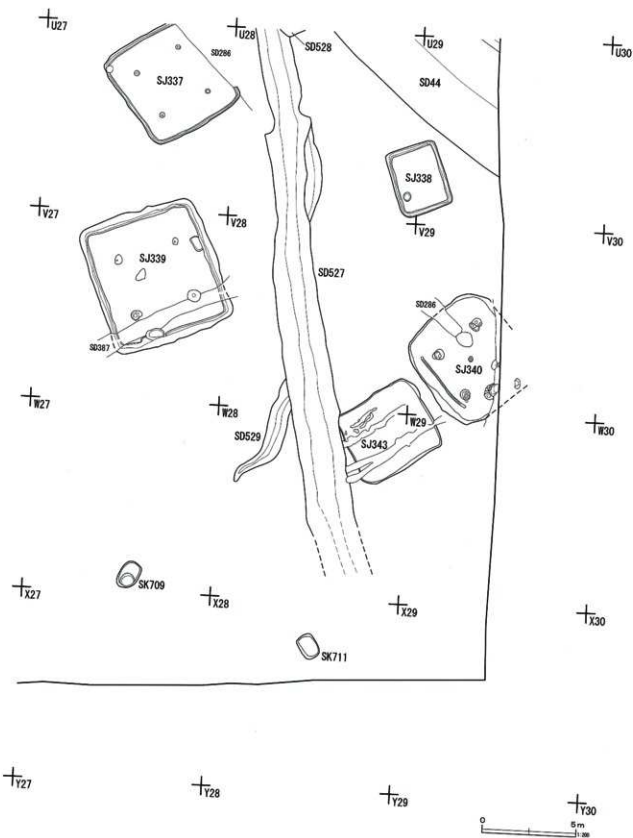
†W21 †W22 †W23 †W24



第46图 遺構全体図 (38)



第47图 遺構全体图 (39)



第48図 遺構全体図 (40)

刀子や鉄鏝などの鉄製品・秤の錘となる石製の權・砥石・鑷の羽口・紡錘車や山吹双鳥鏡・土管・瓦・古銭・板碑のほかには多量の木製遺物や動物遺体なども発見されている。

多量に検出された墨書土器には、「綱」「土万」「第成」等の文字のほか、「横見郡」や「西桑」等の地名や「後家」「南家」等の家号も確認されている。また、木製遺物には井戸枠や曲物等の多数の木製品のほかに、木簡や埴輪の祭祀に用いられた護摩札等もみられる。なかでも、文字を一生懸命に練習した様子が窺われる習書木簡は、貴重な史料である。

古墳群は、調査区北東部の微高地部分に築造されている。南北126m、東西55mの狭い範囲に、大小8基の古墳跡が発見されている。古墳群の分布は、中央部に大小5基の古墳（第2～6号墳）が近接して営まれている（中央群）。その北側にはやや距離をおいて第1号墳が単独で築かれ（北群）、南側には第7・8号墳の2基（南群）が造営されている。

調査された古墳は、墳丘径15～20mの円墳で、周溝に陸橋部を掘り残すものもある。第8号墳は、古墳時代前期末葉の円墳もしくは方墳と考えられている。いずれも墳丘部は削平されているが、第2・7号墳からは、主体部の礫層基底部と考えられる円礫の集中部分が発見されている。また、第1・2・5号墳には、埴輪の樹立が確認されている。埴輪列や馬形埴輪・人物埴輪をはじめとする多彩な埴輪群像が検出されている。

なお、南群を除く中央群・北群の古墳の築造年代は、出土した円筒埴輪や土器等の特徴から6世紀前半を中心に築造されたものと想定されている。

弥生時代中期の遺構は、堅穴住居跡・掘立柱建物跡・土壇・溝跡と堰跡・水路跡が発見されている。

堰跡は、第7地点から第9・21地点を經由して北東に向かい調査区北西端部を掠める河川跡が、南側に蛇行する部分に設けられている。この堰跡を起点として、調査区を南東に貫く水路跡が開削されている。この堰跡は、合掌形構造の骨組みに堤が築か

れた越流型で、最低2回の修築が行われている。また水路跡は、第17地点の水路跡へと繋がり、その南側に広がる水田跡の取水路として利用されていた。この堰跡と灌溉水路跡の発見は、稲作開始直後の北島遺跡では灌溉設備を設置する土木技術と労働を支える経済力が存在していたことを示す。

発見された弥生時代中期の他の遺構には、堅穴住居跡78軒・掘立柱建物跡1棟・土壇79基・溝跡6条がある。いずれも調査区中央部に集中し、水路跡を挟んだ両岸に分布する。住居跡の軒数が多く、この時期としては大規模な集落が営まれている。集落の北西端部には大型の住居跡が集中し、唯一の掘立柱建物跡も建立されている。土器館も検出され、住居内に埋められた屋内埋設と、土壇に埋められた屋蓋単独埋設がある。このような大規模集落が、水田の開墾と灌溉設備の設置という土木工事を支えた背景にある。

本報告が対象とする第19地点の遺構・遺物は、古墳時代前期のものを中心とする。これに、既報告で対象としなかった遺構も含む。その内訳は、堅穴住居跡153軒（総数423軒）・方形環溝墓27基・木棺墓1基・土壇214基（総数790基）・溝跡91条（総数537条）である。主に第二・三面目の遺構確認面から発見されている。上層の古代以降の掘立柱建物跡・井戸跡・溝跡や古墳跡等の掘削深度の深い遺構による攪乱が著しく、遺物の出土量も少ない。

堅穴住居跡には、既報告で対象としなかったカマドが付設された3軒を含む。分布は、弥生時代に掘削された調査区を南北に縦断する水路跡によって東西に二分される。さらに、溝跡や谷跡・河川跡等の立地地形によって、東側四群・西側二群の計六群に細分される。

住居跡第1群は、調査区を縦断する水路跡西側の北端に分布する一群である。方形環溝によって、周囲を囲まれている。住居跡の軒数は、77軒を数える。本報告が対象とする153軒のうち、半数以上が限定された範囲内に集中している。西側に隣接する

第12地点では、方形環濠が継続しているが、住居跡は発見されていない。

住居跡第2群は、調査区を縦断する水路跡西側の方形環濠と水路跡から西側に張り出した谷部に挟まれた区域に分布する一群である。住居跡の軒数は29軒を数え、なかには、周囲に溝を巡らせた住居跡も存在する。また、西側に隣接する第12地点にも広がる一群である。

住居跡第3群は、調査区を縦断する水路跡から西側に張り出した谷部の南側に分布する一群で、調査区南東部にあたる。住居跡の軒数は18軒を数え、平面形態と規模の相関性から、群内に二重構造的な存在が垣間見られる。

住居跡第4群は、調査区南西端部に東西に流れる河川跡の南岸に分布する一群である。住居跡の軒数は4軒と少ないが、西側に隣接する第12地点南半部の住居跡群に繋がっていく。調査区を縦断する水路跡の西側に位置する住居跡第1～3群とは、異なる「ムラ」に所属する一群と捉えられる。

住居跡第5群は、調査区を縦断する水路跡東側の北半に所在する一群である。周囲には方形周溝墓が分布し、これとの重複を避けるように住居跡が構築されている。

住居跡第6群は、調査区を縦断する水路跡東側の南半に所在する一群である。第5群と同様に、周囲には方形周溝墓が分布し、重複を避けるように住居跡が築かれている。

方形周溝墓は、調査区を縦断する水路跡の東岸域に所在する。いずれも周溝部のみの検出で、墳丘部や埋葬主体部は発見されていない。この範囲は、住居跡が少なく、また後に造営された古墳群の分布ともほぼ一致する。これらのことから、古墳時代前期の段階以降は、集落内における墓域として意識されていたことが想定される。

方形周溝墓の配置から、南北二群に分割することができる。また、両者には、それぞれ異なる特徴を窺うことができる。

北群は、住居跡第5群の分布範囲とほぼ一致し、18基の方形周溝墓が築造されている。方形周溝墓と方形周溝墓の重複は外周部が接する程度に留まり、綿密に計画された配置をみることができる。さらに、群内の配置・分布や形態の違いから、南北二つのグループに分けられる。北側のグループの10基は、唯一の溝辺中央にブリッジをもつ第6号方形周溝墓を除いて、全周タイプの方形周溝墓で占められている。南側のグループの8基は、四隅切れタイプと全周タイプの方形周溝墓がほぼ同数存在している。また、後世の古墳群との重複もみられる。

南群の9基は、分布が住居跡第6群の範囲とほぼ一致する。全周タイプもしくは一・二隅切れタイプの方形周溝墓に占められ、軸を揃えて密集している。方形周溝墓同士や住居跡・後世の古墳群との重複もみられる。

木棺墓は、調査区を縦断する水路跡西岸の住居跡第2群の北辺部に位置し、単独で所在する。方形周溝墓とは、水路跡を挟んで対峙する。墓域のなかに、直接埋設された舟形木棺の身骨が発見されている。

土壌の分布は、住居跡の分布とほぼ合致する。用途を推定できるものは少ないが、当時の生活において、有用な機能を備えた施設と捉えられる。また、2～3基もしくは5～6基前後が集中する傾向もみられるが、規則性や性格等は明らかではない。

溝跡は、分布が散漫であるが、住居跡が構築されていない調査区南西部には掘削されていない。走向方向は、調査区を縦断する水路跡に平行もしくは直交している。特筆されるのは、第464号溝跡と第423・530・531・532号溝跡である。第464号溝跡は、住居跡第1群の周囲を方形に囲繞する方形環濠である。南西部に張り出しをもち、張り出しの付け根には木製の橋が設置されていた。第423号溝跡は、調査区南西端部を東西に横断する河川跡である。この河川跡の南岸に平行して、第530・531・532号溝跡が掘削されている。第530号溝跡からは、多量の手摺土器がまとまって出土し、「水辺の祭祀」

の様相を示している。

本報告の対象としていないが、調査区北東部の住居跡が構築されていない地域には、第20地点で発見されたはたけ跡が広がっている。第20地点では、上面に浅間A火山灰層が散見され、古墳時代前期の遺構と推定される。また第17地点でも、同時期の集落跡とともに、はたけ跡・水田跡も発見されている。このように、古墳時代前期の第19地点では、集落域(住居跡)・墓域(方形周溝墓・木棺墓)とともに、畑・水田という生産域も発見されている。これらの遺構は、北島遺跡だけではなく、当時の集落構造を知る上で貴重な資料である。

遺物は、上層に構築された古墳や古代以降の遺構による攪乱のため、出土量は少ない。土器は、貯蔵形態の壺、煮沸形態の台付壺・甗、供献形態の高坏・器台・鉢類である。このなかには、東海系のパレス文様が施された壺・高坏・器台やひさご壺、北陸系の受け部側面にスカン孔が穿たれた器台、在地のギヶ谷式の系譜を引く縄文が施された壺等が注目される。また、区画溝や河川跡からは多量の本製品が出土している。農具の鋤・鍬・杵などのほかに漁撈具の鏝・機織り具・建築部材の梯子・弓・剣形木製品等、様々な種類にわたっている。なお、これらの木製品については、『北島遺跡Ⅲ(第305集)』で報告する。

このように第19地点だけをとっていても、複雑な「複合遺跡」の様相を示している。と同時に、発見された遺構のなかには、第19地点調査区のなかだけでは理解できないものも多々存在する。先述したように、北島遺跡は所謂「複合遺跡」という範疇で捉えることはできない同時期・異時期の小さな集落域・生産域・墓域が集合・複合した遺跡である。周囲には同時期の女塚遺跡・中条古墳群・田谷遺

跡・天神東遺跡・中条条里遺跡・上川上東遺跡・天神遺跡等と接しているが、これらの遺跡が埋没河川跡によって分割された北島遺跡内の個々の単位と明瞭な相違をもつことは考えがたい。そこで、北島遺跡を周辺の遺跡群総体の中に位置づけ、その総合的な理解が今後の課題といえる。

なお、第19地点の発掘調査の成果は、9冊の報告書に分割して掲載した。本書のほかの書名・集数及び掲載内容を以下に記した。

北島遺跡Ⅴ(第278集)

奈良・平安時代以降の遺構と遺物(1)

北島遺跡Ⅵ(第286集)

弥生時代の遺構と遺物

北島遺跡Ⅶ(第291集)

弥生時代の自然科学分析

弥生時代の遺物(補遺)

北島Ⅷ/田谷(第292集)

古墳群の遺構と遺物

北島遺跡Ⅸ(第293集)

奈良・平安時代以降の遺構と遺物(2)

北島遺跡Ⅺ(第303集)

古墳時代前期を中心とする水利施設と生産遺構

北島遺跡Ⅻ(第304集)

編笠

北島遺跡Ⅼ(第305集)

木製品

また、本報告で使用する遺構番号は、既報告「北島遺跡Ⅴ」・「北島遺跡Ⅸ」で変更した報告番号(新番号)に続けて改番し、第1表北島遺跡第19地点遺構番号対照表を付した。発掘番号で報告した「北島遺跡Ⅵ」が対象とした遺構番号については、遺構番号の重複を回避するため、本書ではYを付した(例:第Y306号住居跡、S J Y306)。

第1表 北島遺跡第19地点遺構番号対照表

住居跡								
報告番号	発掘番号	グリッド	報告番号	発掘番号	グリッド	報告番号	発掘番号	グリッド
SJ193	SJ409	D16	SJ244	SJ266	I17	SJ295	SJ233	P19
SJ194	SJ425	D15-E15	SJ245	SJ327	I17-I18	SJ296	SJ099	O21-P20-P21
SJ195	SJ272	D16-D17-E16	SJ246	SJ250	H18-I18	SJ297	SJ104	Q15-Q16
SJ196	SJ042	E15-F15	SJ247	SJ251	I19-I20	SJ298	SJ117	R16
SJ197	SJ296	E15-F15	SJ248	SJ366	J13	SJ299	SJ082	S21
SJ198	SJ271	E16-E17	SJ249	SJ406	J13	SJ300	SJ002	X15
SJ199	SJ332	E16-E17-F16-F17	SJ250	SJ397	K14	SJ301	SJ003	X16
SJ200	SJ260	E17-E18	SJ251	SJ399	J14	SJ302	SJ004	X16
SJ201	SJ292	F15-F16-G15	SJ252	SJ097	J16	SJ303	SJ005	X16
SJ202	SJ294	F15-F16	SJ253	SJ270	J16-J17	SJ304	SJ384	A26-A27-B26-B27
SJ203	SJ314	F16	SJ254	SJ114	I15-I17-J17	SJ305	SJ385	A27
SJ204	SJ295	F15-F16	SJ255	SJ379	K13	SJ306	SJ388	B22-C22
SJ205	SJ262	F16-F17	SJ256	SJ396	K13-K14	SJ307	SJ239	F26-F27
SJ206	SJ263	F17-G17	SJ257	SJ418	K13	SJ308	SJ238	G25-H24-H25
SJ207	SJ261	F17	SJ258	SJ395	K14	SJ309	SJ321	H22
SJ208	SJ257	F17-F18-G17-G18	SJ259	SJ279	K15	SJ310	SJ235	H25-I25
SJ209	SJ258	F18	SJ260	SJ275	J16-K16	SJ311	SJ311	I25
SJ210	SJ349	G13	SJ261	SJ282	K16	SJ312	SJ223	K27
SJ211	SJ347	G14-H14	SJ262	SJ232	K16	SJ313	SJ164	L24
SJ212	SJ290	G15-H15	SJ263	SJ378	L13	SJ314	SJ226	L26-L27
SJ213	SJ291	G15-H15	SJ264	SJ393	L14	SJ315	SJ227	L27-L28
SJ214	SJ298	G16	SJ265	SJ276	L15	SJ316	SJ224	L27-M27
SJ215	SJ255	G18	SJ266	SJ278	L15	SJ317	SJ225	M26-M27
SJ216	SJ254	G18-G19	SJ267	SJ277	L15-L16	SJ318	SJ230	M27-N27
SJ217	SJ253	G19-H19	SJ268	SJ284	K16-L16	SJ319	SJ148	N25
SJ218	SJ328	G19-H19	SJ269	SJ398	M13-M14-M15	SJ320	SJ149	N25-O26
SJ219	SJ401	H13-H14	SJ270	SJ247	L18-L19-M18-M19	SJ321	SJ220	N26-N27
SJ220	SJ402	H14	SJ271	SJ246	L20-K21	SJ322	SJ147	N26-N27
SJ221	SJ377	H14	SJ272	SJ319	L20-M20	SJ323	SJ163	N26-N27
SJ222	SJ346	G14-H14	SJ273	SJ241	L20-L21-K21	SJ324	SJ140	O26
SJ223	SJ403	H14	SJ274	SJ281	L21-L22	SJ325	SJ243	O27
SJ224	SJ026	H14	SJ275	SJ419	M13	SJ326	SJ222	O28-O29
SJ225	SJ110	H15-I15	SJ276	SJ283	M17-N17	SJ327	SJ139	O28-P28
SJ226	SJ313	H15	SJ277	SJ218	M18-N18	SJ328	SJ157	Q28-Q29
SJ227	SJ297	H16-I16	SJ278	SJ245	M20	SJ329	SJ103	Q25-R25
SJ228	SJ265	H16-H17	SJ279	SJ242	L20-L21-M21-M22-M23	SJ330	SJ102	R23-S23
SJ229	SJ315	H17	SJ280	SJ129	M22-M23	SJ331	SJ155	S24
SJ230	SJ343	G17-H17	SJ281	SJ372	N13-N14	SJ332	SJ153	R25-S25
SJ231	SJ335	H17-H18	SJ282	SJ394	L14	SJ333	SJ154	S25
SJ232	SJ249	H18-I18	SJ283	SJ410	N14	SJ334	SJ159	S26
SJ233	SJ267	H18-H19	SJ284	SJ280	N17-O17	SJ335	SJ156	T24-U24
SJ234	SJ252	H19-H20	SJ285	SJ248	N19	SJ336	SJ160	T27
SJ235	SJ404	I13	SJ286	SJ244	M20-N20	SJ337	SJ161	U27
SJ236	SJ407	I13-I14-J13-J14	SJ287	SJ130	N22	SJ338	SJ158	U28-U29
SJ237	SJ405	I14	SJ288	SJ127	N22-N23	SJ339	SJ174	V27
SJ238	SJ400	H14-I14	SJ289	SJ286	O15	SJ340	SJ162	V29-W29
SJ239	SJ376	I14	SJ290	SJ170	O20	SJ341	SJ169	W26
SJ240	SJ289	I15-J15	SJ291	SJ141	M22-O21-O22	SJ342	SJ171	V26-W26
SJ241	SJ285	I15-I16-J16	SJ292	SJ221	O23	SJ343	SJ167	V28-W29
SJ242	SJ273	H15-I16-I17-J17	SJ293	SJ391	P14-Q14	SJ344	SJ006	X23-X24
SJ243	SJ299	I17-J17	SJ294	SJ111	P15-P16	SJ345	SJ001	X25

方形開溝渠								
報告番号	発掘番号	グリッド	報告番号	発掘番号	グリッド	報告番号	発掘番号	グリッド
SR01	SR28	ZZ26-ZZ27-A26-A27	SR12	SR19	F22-F23-F24-G22	SR21	SR13	M27-M28-N27-N28
SR02	SR23	A23-A24-B23-B24			G23-G24-H22-H23	SR22	SR18	M27-M28-N27-N28
SR03	SR22	B24-B25-C24-C25	SR13	SR10	F25-F26-F27-G25	SR23	SR06	N26-N27
SR04	SR21	B25-B26-C25-C26			G26-G27	SR24	SR17	N26-N27-O26
SR05	SR24	C20-C21-D20-D21	SR14	SR11	G26-G27-H26-H27	SR25	SR01	O26-O27-P26-P27
SR06	SR16	C21-C22-D20-D21	SR15	SR15	G27-G28-H27-H28	SR26	SR02	O28-P27-P28-P29
		D22-E21-E22	SR16	SR20	H28-I28			Q27-Q28-Q29
SR07	SR25	C22-C23-D22-D23	SR17	SR08	I23-I24-J23-J24	SR27	SR03	R28-R29
SR08	SR26	C23-C24-D23-D24	SR18	SR09	I24-I25-J24			
SR09	SR27	D23	SR19	SR04	L25-L26-M25-M26	木棺墓		
SR10	SR29	D23-E23-E24	SR20	SR12	L25-L26-M25-M26	報告番号	発掘番号	グリッド
SR11	SR14	E25-E26-F25-F26			M27-N26	木棺墓	SK505	K20
土壌								
報告番号	発掘番号	グリッド	報告番号	発掘番号	グリッド	報告番号	発掘番号	グリッド
SK498	SK751	ZW21	SK536	SK174	G16	SK574	SK339	I26
SK499	SK750	ZX20	SK537	SK464	G17	SK575	SK728	J13
SK500	SK752	ZX22	SK538	SK306	G20	SK576	SK727	J14
SK501	SK755	ZZ22	SK539	SK288	G28	SK577	SK098	J15
SK502	SK754	ZZ22	SK540	SK287	G28	SK578	SK252	J16-J17
SK503	SK753	ZZ25	SK541	SK789	H13	SK579	SK260	J16-J17
SK504	SK756	A21	SK542	SK715	H13	SK580	SK496	J20-J21
SK505	SK757	A20-A21	SK543	SK716	H13	SK581	SK417	J23
SK506	SK689	B28	SK544	SK719	H13	SK582	SK270	J25-J26
SK507	SK768	C16	SK545	SK717	H13	SK583	SK411	I26-J26
SK508	SK746	C20	SK546	SK718	H13-I13	SK584	SK329	J27
SK509	SK167	D19-E19	SK547	SK574	H14	SK585	SK328	J27
SK510	SK785	D23	SK548	SK076	H15	SK586	SK615	K13
SK511	SK778	E15	SK549	SK055	H15	SK587	SK090	K15
SK512	SK132	E15	SK550	SK443	H17	SK588	SK091	K15
SK513	SK533	E15	SK551	SK462	H17	SK589	SK044	K15
SK514	SK131	E15	SK552	SK531	H17	SK590	SK518	K16
SK515	SK130	E15	SK553	SK473	H18	SK591	SK441	K19
SK516	SK129	E15	SK554	SK452	H19	SK592	SK438	K20
SK517	SK133	E15	SK555	SK522	H20	SK593	SK546	K21-K22
SK518	SK118	E15-F15	SK556	SK523	H20	SK594	SK550	K22
SK519	SK126	E15	SK557	SK537	H25	SK595	SK351	K24
SK520	SK142	E15-E16	SK558	SK571	I13	SK596	SK352	K24-L24
SK521	SK535	E15-E16	SK559	SK721	I13	SK597	SK353	K24-L24
SK522	SK536	E16	SK560	SK710	I14	SK598	SK434	K25
SK523	SK444	E16	SK561	SK085	I15	SK599	SK330	K28
SK524	SK273	E17	SK562	SK115	I15	SK600	SK763	L13
SK525	SK276	E18	SK563	SK245	I15	SK601	SK760	L13
SK526	SK84	E22	SK564	SK116	I15	SK602	SK759	L13
SK527	SK82	E22	SK565	SK529	I16	SK603	SK758	L13
SK528	SK83	E22	SK566	SK261	I17	SK604	SK761	L13-L14
SK529	SK121	E14-F14	SK567	SK262	I17	SK605	SK762	L14
SK530	SK114	F15	SK568	SK258	I17-J17	SK606	SK764	L14
SK531	SK166	F15	SK569	SK414	I18	SK607	SK765	L14
SK532	SK284	F16	SK570	SK413	I18	SK608	SK632	L14
SK533	SK507	F26	SK571	SK477	I19	SK609	SK066	L15
SK534	SK687	G13-G14	SK572	SK479	I19	SK610	SK457	L16
SK535	SK124	G15	SK573	SK552	I22-I25	SK611	SK520	K16-K17-L16-L17

報告番号	発掘番号	グリッド	報告番号	発掘番号	グリッド	報告番号	発掘番号	グリッド
SK612	SK180	L16	SK646	SK671	N14	SK680	SK679	Q14
SK613	SK179	L16	SK647	SK586	N14	SK681	SK677	Q14
SK614	SK178	L16	SK648	SK708	N15	SK682	SK012	Q15
SK615	SK187	L16	SK649	SK702	N15	SK683	SK198	Q16
SK616	SK186	L16	SK650	SK703	N15	SK684	SK199	Q17
SK617	SK539	L18	SK651	SK423	N19-O19	SK685	SK484	Q17
SK618	SK538	L18-M18	SK652	SK389	N20	SK686	SK488	Q17
SK619	SK540	L20	SK653	SK395	N26	SK687	SK176	Q22
SK620	SK541	L20	SK654	SK383	N26	SK688	SK673	R13
SK621	SK409	L20	SK655	SK382	N27	SK689	SK700	R14
SK622	SK418	L24	SK656	SK532	N27	SK690	SK218	Q17-R17
SK623	SK357	L24	SK657	SK232	O15	SK691	SK338	R28
SK624	SK354	L24	SK658	SK497	O17	SK692	SK699	R14-S14
SK625	SK356	L24	SK659	SK500	O20	SK693	SK024	S16
SK626	SK355	L24	SK660	SK331	O26	SK694	SK149	S17
SK627	SK767	M13	SK661	SK445	O28	SK695	SK194	S23
SK628	SK771	M13-M14	SK662	SK652	P14	SK696	SK332	S28
SK629	SK766	M14	SK663	SK640	P14	SK697	SK336	T18
SK630	SK023	M15	SK664	SK773	P14-P15	SK698	SK159	T18
SK631	SK169	M15	SK665	SK642	P14	SK699	SK156	T18
SK632	SK017	L15-M15	SK666	SK226	P15	SK700	SK165	T18
SK633	SK467	M16	SK667	SK490	P16	SK701	SK342	T27-U27
SK634	SK519	M17	SK668	SK491	P16	SK702	SK669	U14-V14
SK635	SK510	M18	SK669	SK493	P16	SK703	SK662	U15
SK636	SK436	M20	SK670	SK492	P16	SK704	SK663	V15
SK637	SK310	M22	SK671	SK230	P17	SK705	SK008	V15
SK638	SK419	M24	SK672	SK131	P18	SK706	SK348	V26
SK639	SK313	M25-M26	SK673	SK132	P18	SK707	SK349	V26
SK640	SK326	M26	SK674	SK133	P18	SK708	SK350	W24
SK641	SK316	M26	SK675	SK654	Q14	SK709	SK053	W27
SK642	SK648	N13	SK676	SK655	Q14	SK710	SK002	X20
SK643	SK670	N13-N14	SK677	SK656	Q14	SK711	SK019	X28
SK644	SK770	N14	SK678	SK657	Q14			
SK645	SK720	N14	SK679	SK678	Q14			

満跡

報告番号	発掘番号	グリッド	報告番号	発掘番号	グリッド	報告番号	発掘番号	グリッド
SD423	SD007	S26-S27-S28-V14-V15-V16-V17-W14-W15-W16-W17-W18-W19-W20-X15-X18-X19-X20-X21-X22	SD455	SD467	B20-B21	SD469	SD483	D18-D19
			SD456	SD468	B20-B21	SD470	SD484	D18-D19
			SD457	SD466	B21	SD471	SD194	D22-E22
			SD458		B21-C20-C21	SD472	SD65-356	D22-D23-E23-E24-H26-F24-F25-G25-H25-I26-J27-J27-J28
SD443		ZY16-ZY17	SD459	SD465	B21			
SD444		ZY16-ZY17	SD460	SD447	B21-B22-C21-C22-C23			
SD445	SD422	ZV22-ZV23-ZW22-ZW23	SD461		B22-C21	SD473	SD66-358	D23-E23-F23-F24-F25
SD446	SD420	ZW23-ZW24	SD462	SD403	B27-C27	SD474		D23
SD447	SD427	ZW23-ZX22-ZX23-ZX24-ZY23-ZY24	SD463	SD402	B27-B28-C27-C28	SD475		D23
			SD464	SD179-327	C15-C16-C17-D15-D17-D18-F19-G13-G19-G20-H12-H13-H20-I19-M13-M14-M16-N13-N15	SD476		D25-E25-F24
SD448	SD471	ZZ19-ZZ20				SD477	SD365	D26
SD449	SD470	ZZ19-ZZ20-ZZ21				SD478	SD208	E19-F19
SD450	SD474	ZZ20				SD479	SD079	F14-F15
SD451	SD472	ZZ20	SD465	SD448-482	C22-C23-D22-D23	SD480		F16
SD452	SD473	ZZ20	SD466	SD464	C27-D24-D25-D27	SD481		F27
SD453	SD470	B20	SD467	SD463	C28-C29	SD482	SD278	F27
SD454	SD469	B20-B21	SD468	SD450	D15	SD483		F27-G27

報告番号	発掘番号	グリッド	報告番号	発掘番号	グリッド	報告番号	発掘番号	グリッド
SD484		G14	SD501		L14	SD518		P28
SD485		G14	SD502		L14	SD519		P28
SD486		I23	SD503		L14-L15	SD520	SD241	P28-P29-Q28-Q29
SD487		I26	SD504		M14	SD521	SD188	Q14-Q15
SD488	SD267	J14	SD505	SD433	M13-M14-N14	SD522		Q18-R18
SD489		J14-K14	SD506		M18	SD523		Q19-Q20-R19
SD490		J14-K14	SD507		M18-N18	SD524		R27-R28
SD491		J23	SD508	SD192	M27-N27	SD525		R28
SD492		J23-J24-J25	SD509	SD371	M27-M28	SD526	SD272	T27
SD493	SD164	J23-J24	SD510	SD432	N14	SD527	SD141	T28-U28-V28-W28
SD494	SD165	L28	SD511	SD360	N26-N27	SD528	SD304	T28
SD495	SD359	L14	SD512	SR007	N26	SD529	SD300	V28-W28
SD496		L14	SD513	SR005	N26	SD530	SD011	W16-W17-X16-X17
SD497		L14	SD514		O14			X18-X19
SD498		L14	SD515	SD431	O14-O15	SD531	SD011b	W16
SD499		L14	SD516	SD370	O26-O27	SD532	SD011a	W16-X16
SD500		L14	SD517	SD369	O26-P26			

IV 遺構と遺物

1. 住居跡

北島遺跡第19地点から発見された住居跡は、総数423軒を数える。本報告が対象とするのは、古墳時代前期を中心とする153軒（第193～345号住居跡）である。このうち、カマドが付設された第221・254・281号住居跡は、『北島遺跡V』・『北島遺跡VI』において報告対象としなかった住居跡である。

古墳時代前期を中心とする住居跡の分布状況は、弥生時代から調査区中央を南北に縦断する水路跡に(1) 方形環濠と第1群の住居跡

第1群は、調査区中央を南北に貫く水路跡西側の北端に分布する一群である（第49図）。方形環濠（第464号溝跡）によって周囲を囲まれ、住居跡の軒数は、77軒を数える（第193～269号住居跡）。本報告が対象とする全153軒のうち、半数以上の住居跡が方形環濠に囲まれた限定された範囲内に集中している。にもかかわらず、住居跡の重複は一部に認められる程度に留まっている。

住居跡の平面形態は、方形と長方形に分割される。長方形のものは東西に長軸をもつものと、南北に長軸をもつものに分けられる。

住居跡の平面規模では、一辺6m以上、一辺4～6m、一辺3m前後のものに大別できる。

住居跡の南北軸の方向も、方形環濠と並行するもの、ほぼ座標北を指すもの、わずかに東側に振れるものに分類できる。このなかでは、方形環濠と並行するものが主体となり、わずかに東側に振れるものは軒数が少ない。

偶然にも、住居跡の平面形態・規模・軸方向のいずれも三分される。しかし、それぞれの相関関係に規則性を見いだすことはできない。しかし、限定された範囲に密集するにもかかわらず、重複が少ないこと、平面形態・規模・方向を3グループ程度にまとめることができる共通性の高さなどから、きわめて計画性の高い集落展開が想定される。

よって、大きく東西に二分される。さらに溝跡や谷跡・河川等の立地地形によって、東側が四群、西側が二群の計六群に細分される。

古墳時代前期を中心とする住居跡は、主に第二・三面目の遺構確認面から検出されている。そのため、上層の古墳跡や古代以降の溝跡・井戸跡・掘立柱建物跡等の掘削深度の深い遺構による攪乱が著しく、遺物の出土量も少ない。

第464号溝跡（第50～65図）

第464号溝跡は、第1群の住居跡の周囲を方形に圍繞する方形環濠である。西側に隣接する第12地点に検出されている第3号溝跡と第30号溝跡は、第464号溝跡から続く溝跡である。

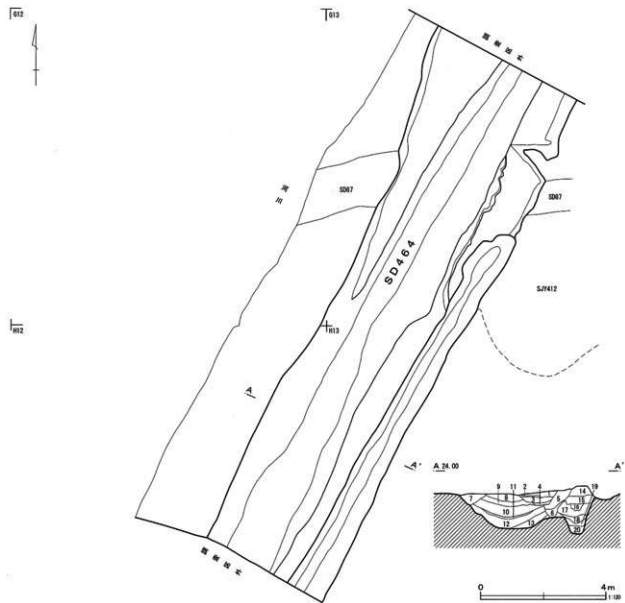
南北45.9～75.0m、東西75.6～85.2mの歪な方形に巡る。南辺の西半部には、南北約8.3～9.2m、東西約44.0～49.0mにおよぶ長方形の張出部が付設されている。北辺は、調査区北西部に検出された河川跡、東辺は、調査区中央部を南北に貫く水路跡と並走する。自然地形が反映された、方向性を窺うことができる。

第464号溝跡の軌跡を右回りに追うと、北辺は、第12地点第3号溝跡→H12・13グリッド→G12・13グリッドでは、調査区北西部（F11～13・G11～13グリッド）に検出された河川跡と並走する。調査区外を経て、E14・15グリッド→D15・16グリッド→C15・C16グリッドへと直進する。C16グリッドで、東方へほぼ直角に屈曲し、東辺に至る。

東辺は、C16グリッド→C17グリッド→D17グリッド→D18グリッド→E18グリッド→E19グリッド→F19・20グリッド→G19・20グリッド→H20グリッドへと、東側へわずかに膨らみながら直進する。H20グリッド南半部からI20グリッド北半部にかけて、弧を描きながら南方へ鋭角的に曲が



第49図 第1群の住居跡分布図

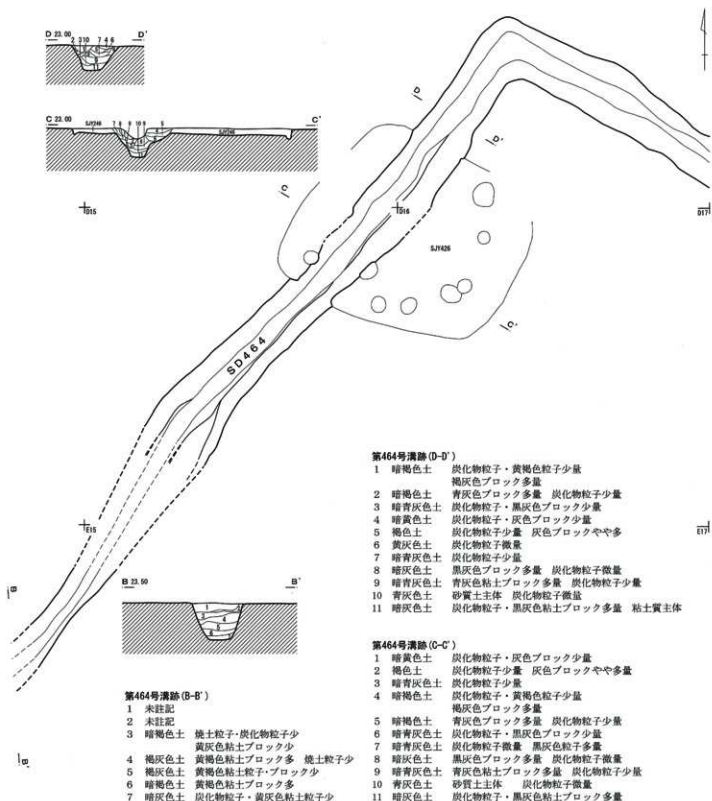


第464号溝跡(A-A')

- | | |
|---------|---------------------------------|
| 1 黒灰色土 | 灰白色粘土粒子少 炭化物粒子微量 |
| 2 暗緑灰色土 | シルト質 緑灰色粘土粒子少 |
| 3 暗灰色土 | シルト質 緑灰色粘土粒子少 炭化物粒子少 |
| 4 明黒色土 | 明青灰色地山砂粒 炭化物粒子微量
粘性・しまり強 |
| 5 灰褐色土 | 酸化鉄分多 炭化物粒子微量
黒色土ブロック微量 しまり強 |
| 6 明黒色土 | 酸化鉄分微量 粘性・しまり強 |
| 7 灰褐色土 | 灰褐色地土主体 |
| 8 明青灰色土 | 炭化物粒子微量 しまり弱 多孔質 |
| 9 青灰色土 | 炭化物粒子微量 しまり強 |
| 10 青灰色土 | 炭化物粒子微量 しまり・粘性強 |

- | | |
|----------|-----------------------|
| 11 黒色土 | 炭化物多 しまり弱 |
| 12 暗青灰色土 | 青灰色地山砂主体 黒色土多 炭化物粒子多 |
| 13 明黒色土 | 黒色土主体 青灰色地山砂ブロック多 粘性強 |
| 14 灰褐色土 | 炭化物粒子微量 灰褐色土少量 しまり強 |
| 15 暗灰褐色土 | 炭化物粒子微量 灰褐色土微量 しまり強 |
| 16 暗灰褐色土 | 青灰色砂ブロック微量 |
| 17 明黒色土 | 青灰色砂ブロック微量 |
| 18 明黒色土 | 青灰色砂ブロック多 |
| 19 明黒色土 | 青灰色少量 |
| 20 明黒色土 | 青灰色砂少 粘性強 |

第50図 第464号溝跡(1)



第464号溝跡 (D-D')

- | | | |
|----|-------|----------------------------|
| 1 | 暗褐色土 | 炭化物粒子・黄褐色粒子少量
褐灰色ブロック多量 |
| 2 | 暗褐色土 | 青灰色ブロック多量 炭化物粒子少量 |
| 3 | 暗青灰色土 | 炭化物粒子・黒灰色ブロック少量 |
| 4 | 暗黄色土 | 炭化物粒子・灰色ブロック少量 |
| 5 | 褐色土 | 炭化物粒子少量 灰色ブロックやや多 |
| 6 | 黄灰色土 | 炭化物粒子微量 |
| 7 | 暗青灰色土 | 炭化物粒子少量 |
| 8 | 暗灰色土 | 黒灰色ブロック多量 炭化物粒子微量 |
| 9 | 暗青灰色土 | 青灰色粘土ブロック多量 炭化物粒子少量 |
| 10 | 青灰色土 | 砂質土主体 炭化物粒子微量 |
| 11 | 暗灰色土 | 炭化物粒子・黒灰色粘土ブロック多量 粘土質主体 |

第464号溝跡 (G-C')

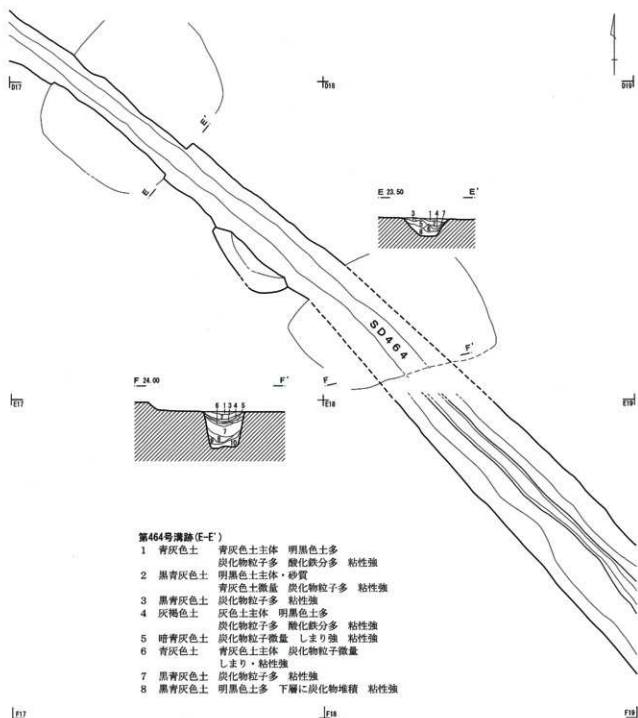
- | | | |
|----|-------|----------------------------|
| 1 | 暗黄色土 | 炭化物粒子・灰色ブロック少量 |
| 2 | 褐色土 | 炭化物粒子少量 灰色ブロックやや多量 |
| 3 | 暗青灰色土 | 炭化物粒子少量 |
| 4 | 暗褐色土 | 炭化物粒子・黄褐色粒子少量
褐灰色ブロック多量 |
| 5 | 暗褐色土 | 青灰色ブロック多量 炭化物粒子少量 |
| 6 | 暗青灰色土 | 炭化物粒子・黒灰色ブロック少量 |
| 7 | 暗青灰色土 | 炭化物粒子微量 黒灰色粒子多量 |
| 8 | 暗灰色土 | 黒灰色ブロック多量 炭化物粒子微量 |
| 9 | 暗青灰色土 | 青灰色粘土ブロック多量 炭化物粒子少量 |
| 10 | 青灰色土 | 砂質土主体 炭化物粒子微量 |
| 11 | 暗灰色土 | 炭化物粒子・黒灰色粘土ブロック多量 |

第464号溝跡 (B-B')

- | | | |
|---|------|------------------|
| 1 | 未註記 | |
| 2 | 未註記 | |
| 3 | 暗褐色土 | 焼土粒子・炭化物粒子少 |
| | | 黄灰色粘土ブロック少 |
| 4 | 褐灰色土 | 黄褐色粘土ブロック多 焼土粒子少 |
| 5 | 褐灰色土 | 黄褐色粘土粒子・ブロック少 |
| 6 | 暗褐色土 | 黄褐色粘土ブロック多 |
| 7 | 暗灰色土 | 炭化物粒子・黄灰色粘土粒子少 |



第51図 第464号溝跡 (2)



第464号溝跡 (E-E')

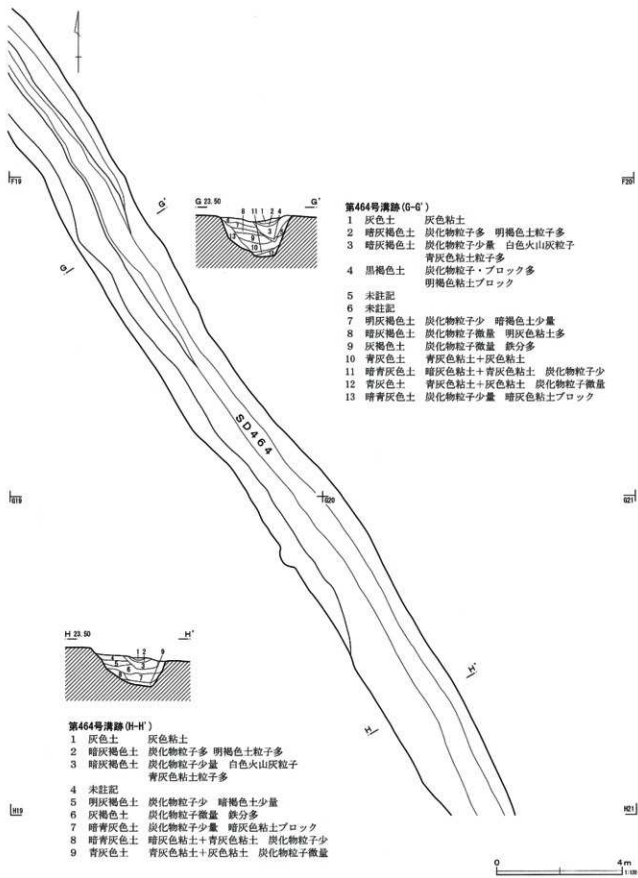
- 1 青灰色土 青灰色土主体 明黒色土多 炭化物粒子多 酸化鉄分多 粘性強
- 2 黒青灰色土 明黒色土主体・砂質 青灰色土微量 炭化物粒子多 粘性強
- 3 黒青灰色土 炭化物粒子多 粘性強
- 4 灰褐色土 灰色土主体 明黒色土多 炭化物粒子多 酸化鉄分多 粘性強
- 5 暗青灰色土 炭化物粒子微量 しまり強 粘性強
- 6 青灰色土 青灰色土主体 炭化物粒子微量 しまり・粘性強
- 7 黒青灰色土 炭化物粒子多 粘性強
- 8 黒青灰色土 明黒色土多 下層に炭化物堆積 粘性強

第464号溝跡 (F-F')

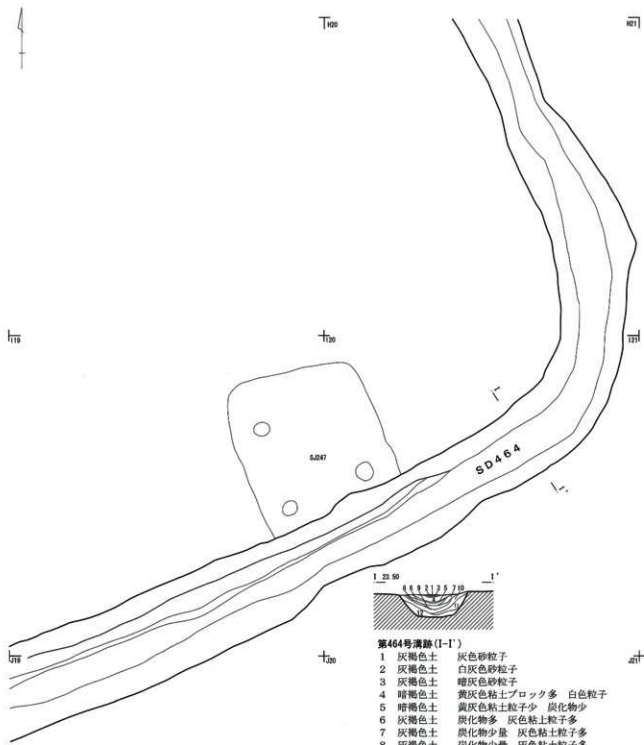
- 1 暗褐色土 炭化物少 明灰色粘土粒子多 鉄分
- 2 灰褐色土 炭化物微量 砂質土多量 暗褐色土粒子少
- 3 明灰褐色土
- 4 灰色土 灰色粘土
- 5 暗灰褐色土 炭化物粒子多 明褐色土粒子多
- 6 黒褐色土 炭化物粒子多 炭化物ブロック 明褐色粘土ブロック
- 7 暗灰褐色土 炭化物粒子少量 白色火山灰粒子 青灰色粘土粒子多
- 8 暗青灰色土 炭化物粒子少量 暗灰色粘土ブロック
- 9 暗青灰色土 暗灰色粘土+青灰色粘土 炭化物粒子少
- 10 青灰色土 青灰色粘土+灰色粘土 炭化物粒子微量

0 4m
1:100

第52図 第464号溝跡 (3)



第53図 第464号溝跡 (4)



第464号溝跡 (I-I')

- 1 灰褐色土 灰色砂粒子
- 2 灰褐色土 白灰色砂粒子
- 3 灰褐色土 暗灰色砂粒子
- 4 暗褐色土 黄灰色粘土・ブロック多 白色粒子
- 5 暗褐色土 黄灰色粘土粒子少 炭化物少
- 6 灰褐色土 炭化物多 灰色粘土粒子多
- 7 灰褐色土 炭化物少量 灰色粘土粒子多
- 8 灰褐色土 炭化物少量 灰色粘土粒子多
- 9 灰褐色土 炭化物少量 灰色粘土粒子少
- 10 灰褐色土 炭化物少量 灰色粘土粒子・ブロック多
- 11 灰褐色土 炭化物少 灰色粘土粒子・ブロック少
- 12 暗灰褐色土 炭化物少 粘性強

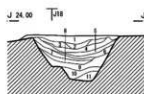


第54図 第464号溝跡 (5)

[J]

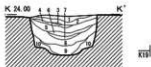
第464号溝跡 (J-J')

- 1 灰褐色土 (層間にAS-B堆積)
- 2 暗褐色土 炭化物粒子・焼土粒子少量
- 3 褐色土 黄灰色粘土・ブロック多
- 4 暗褐色土 炭化物少 焼土粒子多
明灰色粘土ブロック
- 5 黄灰色土 洪水層 暗褐色土粒子少
- 6 暗褐色土 炭化物・黄灰色粘土粒子少
- 7 褐色土 炭化物多 黄灰色粘土粒子・ブロック多
- 8 褐色土 洪水層 炭化物粒子・ブロック少 黄灰色粘土ブロック多
- 9 褐色土 炭化物粒子・ブロック少 黄灰色粘土粒子・ブロック少
- 10 暗灰色土 炭化物粒子・ブロック少 青灰色粘土ブロック少 グライ化
- 11 青灰色土 淡青灰色粘土+暗灰色土 炭化物少 シルト質 グライ化



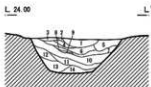
第464号溝跡 (K-K')

- 1 褐色土
- 2 褐色土 焼土・炭化物
- 3 黄褐色土
- 4 暗灰色土 焼土粒子 炭化物粒子
- 5 暗灰色土 炭化物粒子 白色灰少
- 6 黄灰色土 黄灰色粘土 白色多量
- 7 暗灰色土 炭化物粒子多
- 8 灰褐色土 炭化物粒子少量 粘性強
- 9 暗灰色土 青色粘土+灰褐色土 粘性強
- 10 青色粘土



第464号溝跡 (L-L')

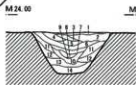
- 1 黒褐色土 灰+炭化物+明灰色粘土 黄褐色土粒子
- 2 灰褐色土 灰色砂粒子
- 3 暗褐色土 炭化物少 明灰色粘土粒子微量
- 4 暗褐色土 炭化物少 明灰色粘土粒子多 鉄分多
- 5 黒褐色土 灰+炭化物+明灰色粘土 明灰色粘土ブロック多
- 6 暗褐色土 黄灰色粘土粒子・ブロック多 白色粒子
- 7 灰褐色土 炭化物多量 灰色粘土粒子・ブロック多
- 8 灰褐色土 炭化物少量 灰色粘土粒子・ブロック多
- 9 灰褐色土 炭化物少量 灰色粘土粒子多
ブロック多 明灰色粘土粒子多
- 10 灰褐色土 炭化物少量 灰色粘土粒子・ブロック多
- 11 灰褐色土 炭化物少量 灰色粘土粒子・ブロック多
- 12 灰褐色土 炭化物少 灰色粘土粒子・ブロック少
- 13 灰色土 炭化物少
- 14 暗灰褐色土 炭化物少 粘性強



[N]

第464号溝跡 (M-M')

- 1 暗褐色土 黄褐色ブロック+暗褐色土
炭化物粒子・焼土粒子少
- 2 黒褐色土 灰+炭化物+明灰色粘土 黄褐色土粒子
- 3 黒褐色土 炭化物少量 灰色粘土粒子多
ブロック多 明灰色粘土粒子多
- 4 暗褐色土 炭化物少 明灰色粘土粒子微量
- 5 暗褐色土 炭化物少 明灰色粘土粒子多 鉄分多
- 6 灰褐色土 暗灰色砂粒子
- 7 灰褐色土 炭化物多 灰色粘土粒子・ブロック多
- 8 灰褐色土 炭化物少 灰色粘土粒子・ブロック多
- 9 明灰白色土 火山灰層
- 10 暗灰褐色土 炭化物+灰 火山灰粒子微量
- 11 灰褐色土 炭化物少量 灰色粘土粒子・ブロック多
- 12 灰褐色土 炭化物少量 灰色粘土粒子・ブロック多
- 13 灰色土 炭化物少
- 14 暗灰褐色土 炭化物少 粘性強



第55図 第464号溝跡 (6)

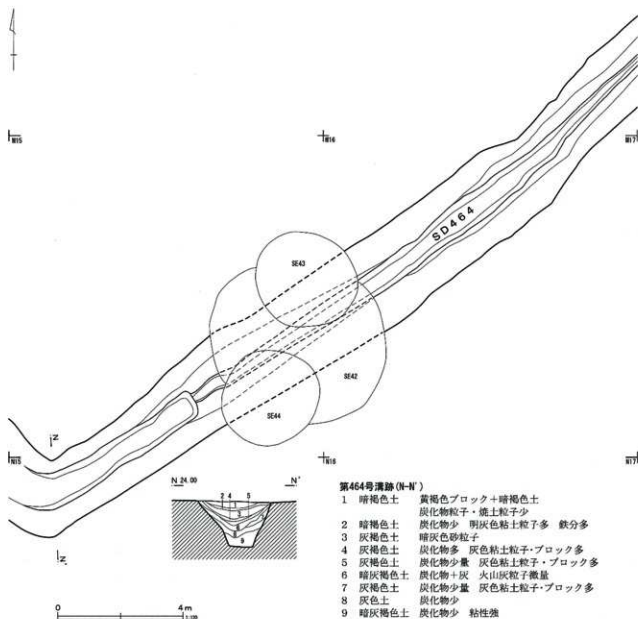
り、南辺へと続く。

南辺は、I 20グリッド→I 19・18グリッド→J 19・18グリッドを直進する。J 18グリッド南西部で、再び東方に折れ、南辺西半部の張出部を形成する。張出部は、K 18グリッドで南方に屈曲し、K 18・17グリッド→L 18・17グリッド→L 16グリッド→M 16グリッド→M 15グリッドまで直進する。N 15グリッドで西方に曲がり、N 15・14グリッド→M 15・14グリッドを経て、M 14グリッド中央付近で再度、南方に折れて張出部が終結する。その直

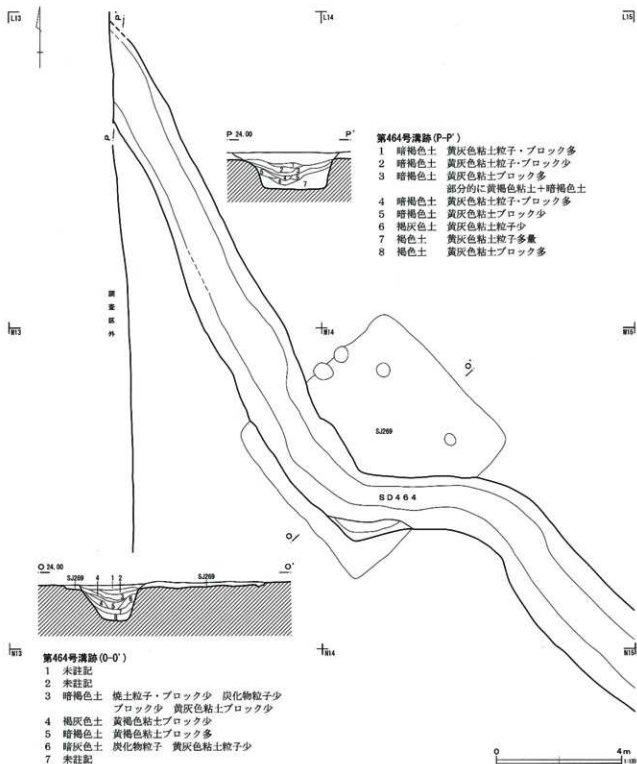
後、M 14グリッドからM 13グリッドにかけて西方へ屈曲し、西辺へと繋がる。

西辺は、M 13グリッド→L 13グリッドを通過し、調査区西辺に至り、第12地点第30号溝跡に繋がっていく。調査区外では、J 11・12グリッド～I 11・12グリッド付近で、北辺に向かって屈曲することが予想される。第12地点においても、北西コーナー部は検出されていない。

各辺の長さは、北辺が推定約75.6m、東辺が約75.0m、南辺が約85.2m、西辺が推定約45.9mを



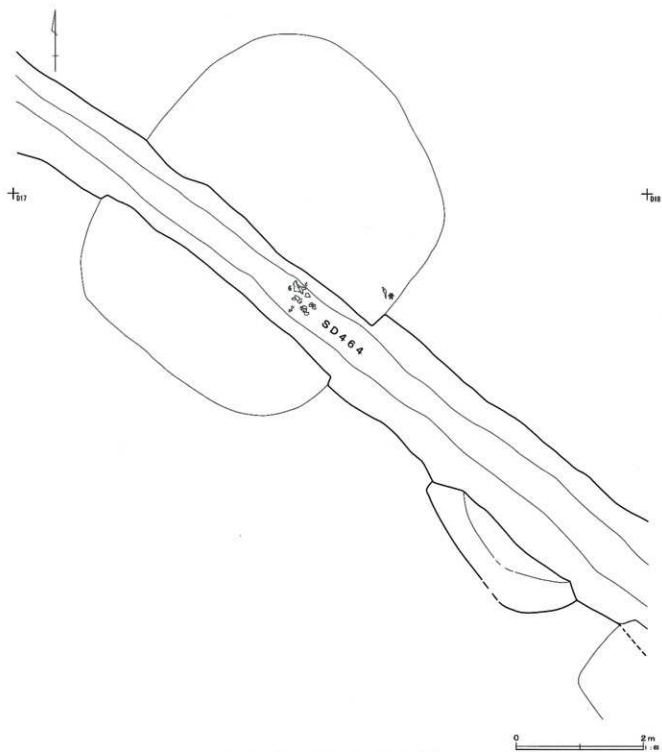
第56図 第464号溝跡 (7)



第57図 第464号溝跡 (8)

測る。幅は0.85~3.80m、断面は逆台形から「V」字形を呈し、確認面からの深さが0.39~1.44mほどである。右回り順にみた各辺の方位は、北辺が $N-34^{\circ}-E$ 、東辺が $N-128^{\circ}-E \rightarrow N-N-$

$148^{\circ}-E$ 、南辺が $N-118^{\circ}-W$ 、張出部が $N-175^{\circ}-E \rightarrow N-129^{\circ}-W \rightarrow N-42^{\circ}-W$ 、南辺西端が $N-86^{\circ}-W$ 、西辺が $N-27^{\circ}-W$ を指す。北辺の溝底標高は、H12グリッド東端付近22.21



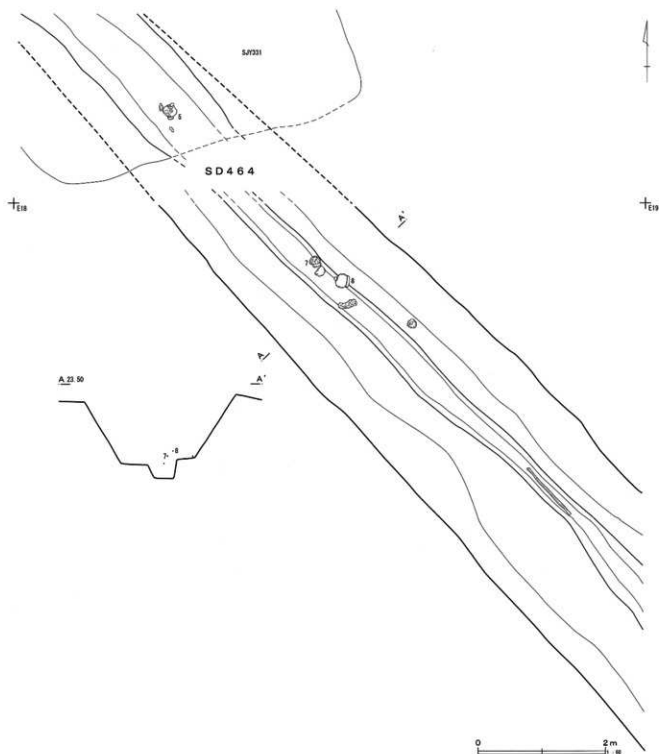
第58図 第464号溝跡遺物出土状況 (1)

m・E14グリッド付近21.95m・C16グリッド北東コーナー部付近22.06mを計測する。北辺の底面は、中央付近の標高が低い。

東辺の溝底標高は、D17グリッド中央付近22.02m・F19グリッド中央付近21.89m・H20グリッ

ド中央付近22.12mである。北辺と同様に、底面は中央付近の標高が低くなっている。

南辺の溝底標高は、I20グリッド中央付近22.02m・張出部に繋がるJ18グリッド中央付近22.13m・張出部はK18グリッド南東コーナー付近22.19



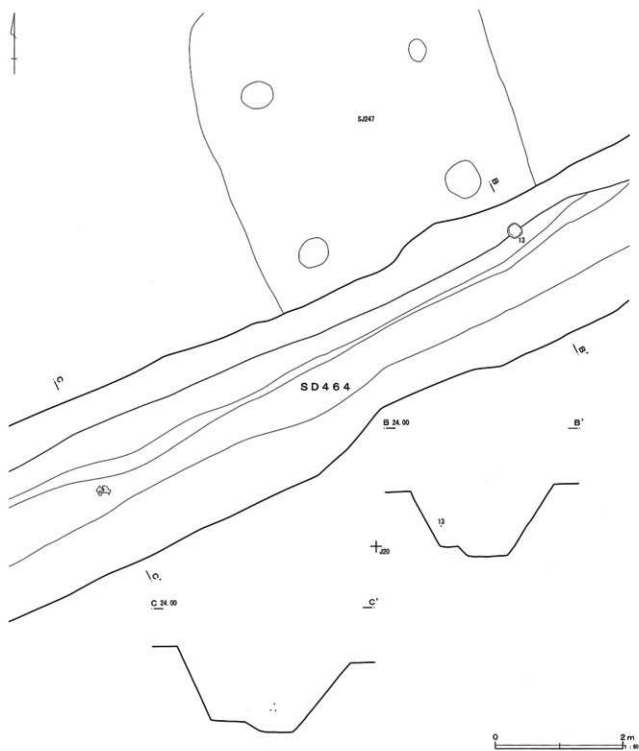
第59回 第464号溝跡遺物出土状況 (2)

m・L17グリッド中央付近22.31m・M16グリッド中央付近21.88m・N15グリッド南西コーナー付近22.06m・M14グリッド付近22.25mを計測する。底面は、東側よりも西側が高くなる傾向がみられる。さらに張出部では中央付近が高く、その西側

に深く掘り込まれた箇所もある。

西側の溝底標高は、M13グリッド付近22.32m・L13グリッド中央付近22.52mで、南端部よりも中央部の方が高くなる。

溝底標高から全体的な底面の傾斜をみると、概ね

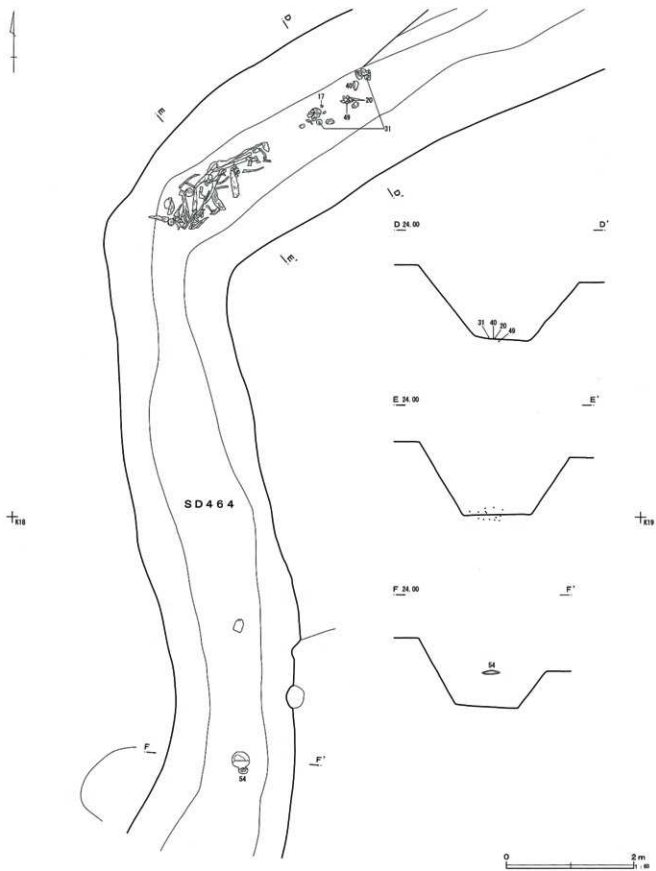


第60図 第464号溝跡遺物出土状況 (3)

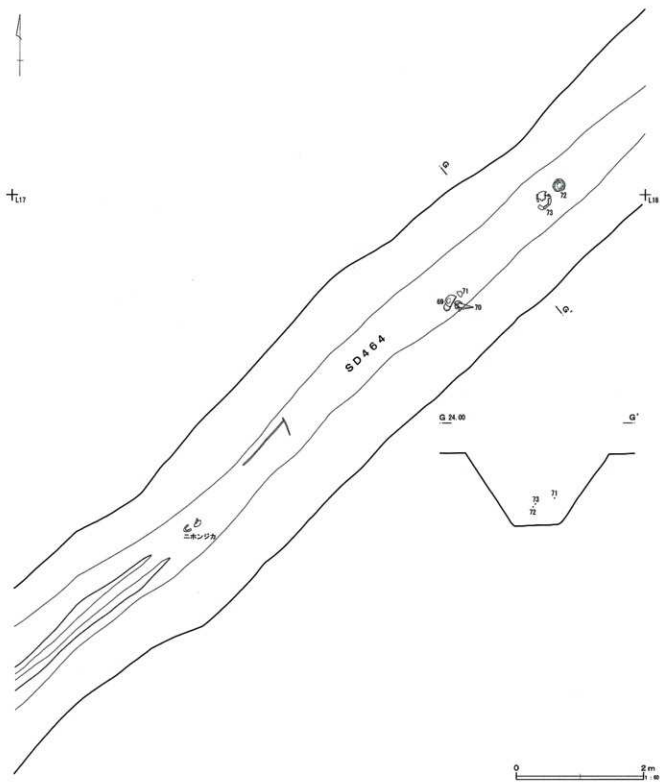
西側から東側へ傾斜している。ここにも自然地形が反映されている。

南辺 J 18 グリッドの張出部へ繋がる屈曲部付近から、0.8m×2.0mの範囲に多量の木製品や加工材が発見されている (第61図)。溝底に埋設された2

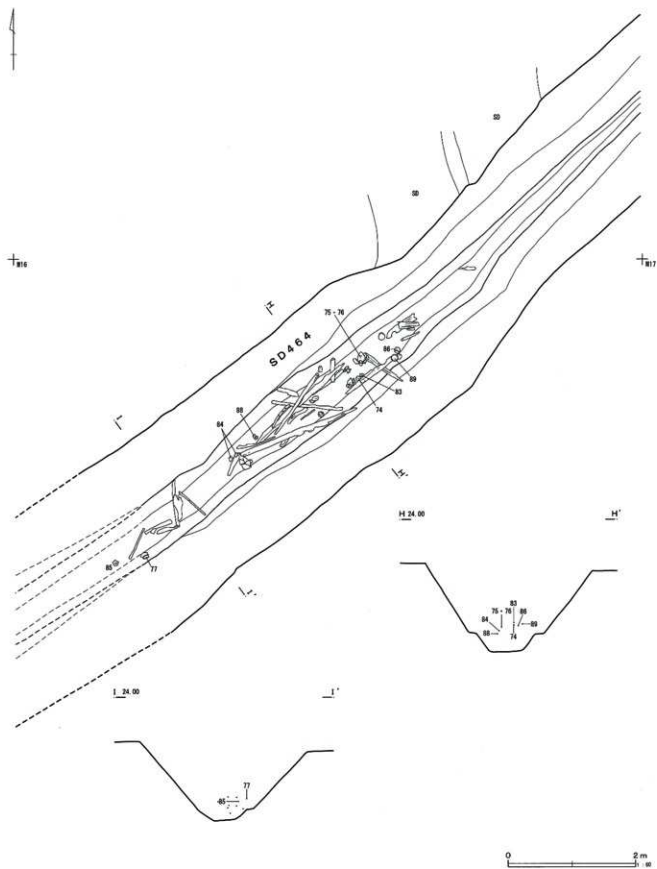
本の杭の上に、溝跡と交差する方向に幅広の木材2～3本と、さらにその上面には溝跡と平行する方向に多量の細長の木材が出土している。このような状況から、木造の「橋」が崩落したものと判断される。溝底に埋設された2本の杭を橋脚とし、溝跡と交差



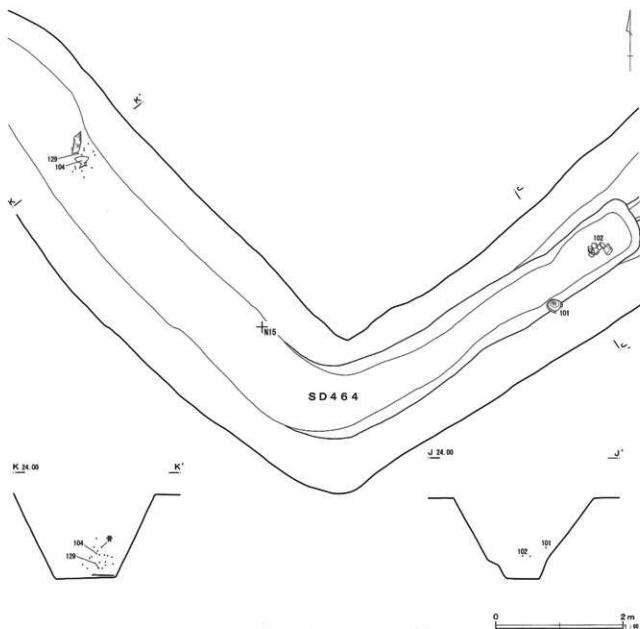
第61图 第464号满跡遺物出土状况 (4)



第62図 第464号溝跡遺物出土状況 (5)



第63图 第464号满踪遗物出土状况 (6)



第64図 第464号溝跡遺物出土状況(7)

する方向に橋桁を渡し、溝跡と平行する方向に多量の細長の木材による橋板が並べられた橋構造が想定される。

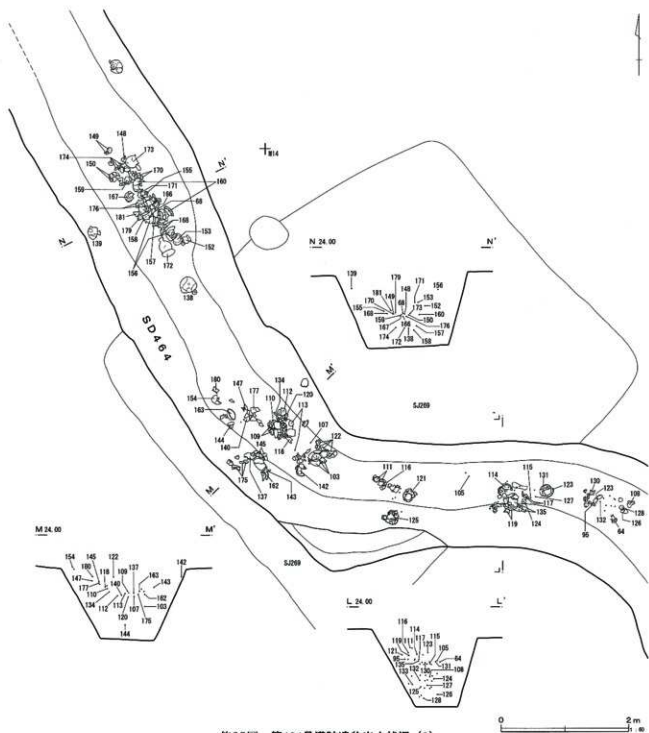
遺物は、土器・木製品・木片・骨片等、多種にわたっている。そのなかでも、D17・E18・J18・L17・M16・M14・M13グリッドに集中し(第58～65図)、特にM13～14グリッドの南西コーナー付近は著しい。また、モモの種子や、L17グリッドからニホンジカの下顎骨も発見されている。

土器は、図示したほかに壺類9013.7g、甕類

25721.7g、高坏類1498.3g、器台類26.9g、手捏・ミニチュア類22.3gの図化できない微細な破片も出土している。

第67図50は、小型の平底甕である。口縁部外面には、2本を一単位とする棒状浮文が、4単位施文されている。

第67図51は、複合口縁の壺である。口縁部外面には、棒状浮文とその両脇の円形朱文の2本一単位が施文されている。単位数は、破片資料のため不明である。



第65図 第464号溝跡遺物出土状況 (8)

第67図52は、壺胴上半の破片である。ハケ工具の刺突による斜線列文が施されている。

第68図64は、パレス壺である。垂下・拡張口縁部の外面には、擬凹線文が施文され、4本一単位の棒状浮文が4単位貼付されている。内面には、ハケ工具による刺突文が鋸歯状に3段施されている。

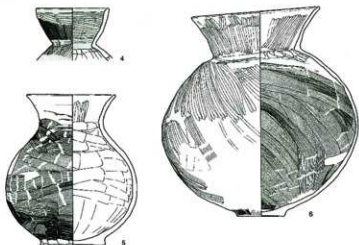
第68図68も、パレス壺である。垂下・拡張口縁部の外面には、擬凹線文が施文され、5本もしくは4本一単位の棒状浮文が4単位貼付されているものと思われる。内面には、ハケ工具による刺突文が鋸歯状に9段施されている。

第69図101も、パレス壺である。垂下・拡張口

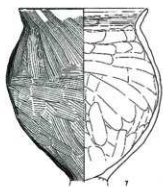
D17Grid



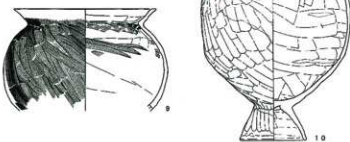
D18Grid



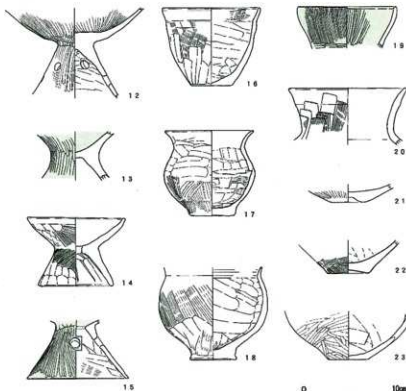
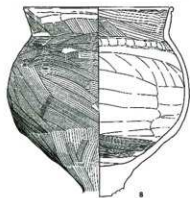
E18Grid



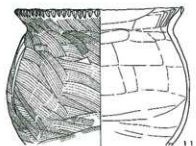
I19Grid



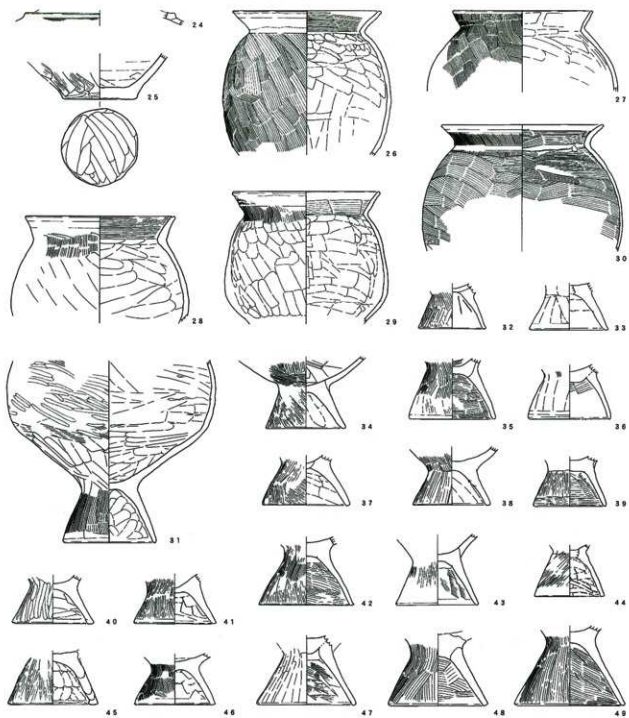
J18Grid



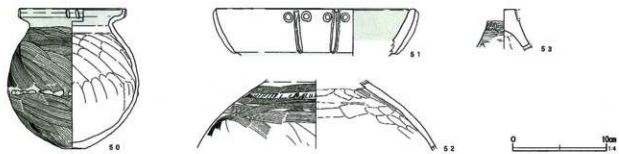
I20Grid



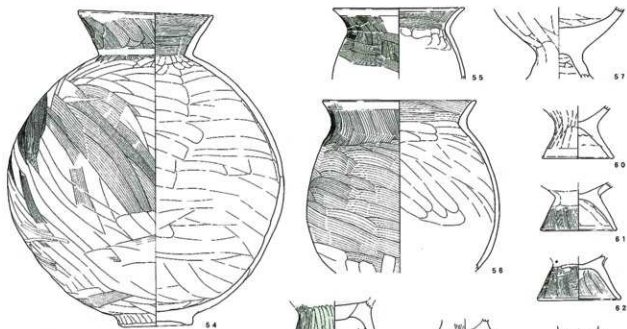
第66图 第464号满踪出土遗物 (1)



K18Grid



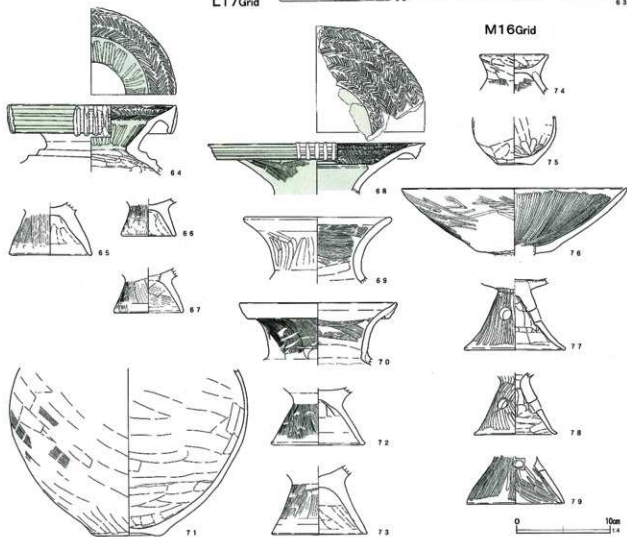
第67图 第464号满跡出土遗物(2)



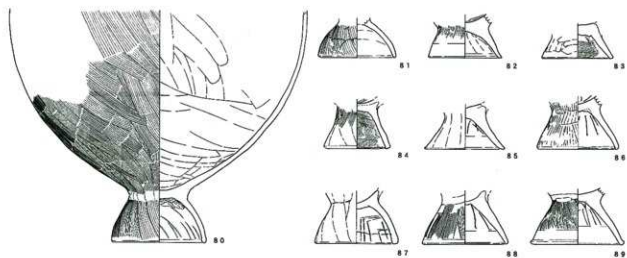
K17Grid

L17Grid

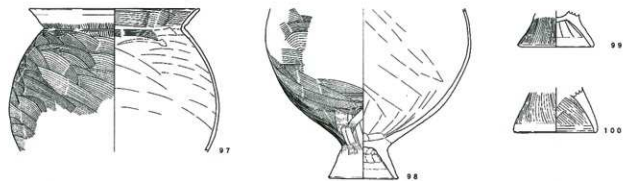
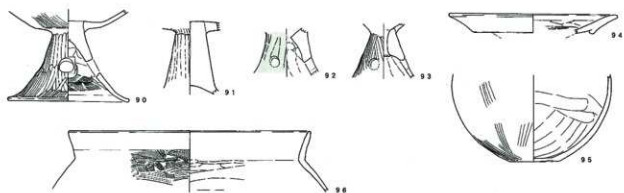
M16Grid



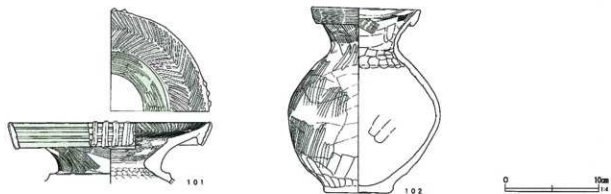
第68图 第464号清淤出土文物 (3)



N14Grid

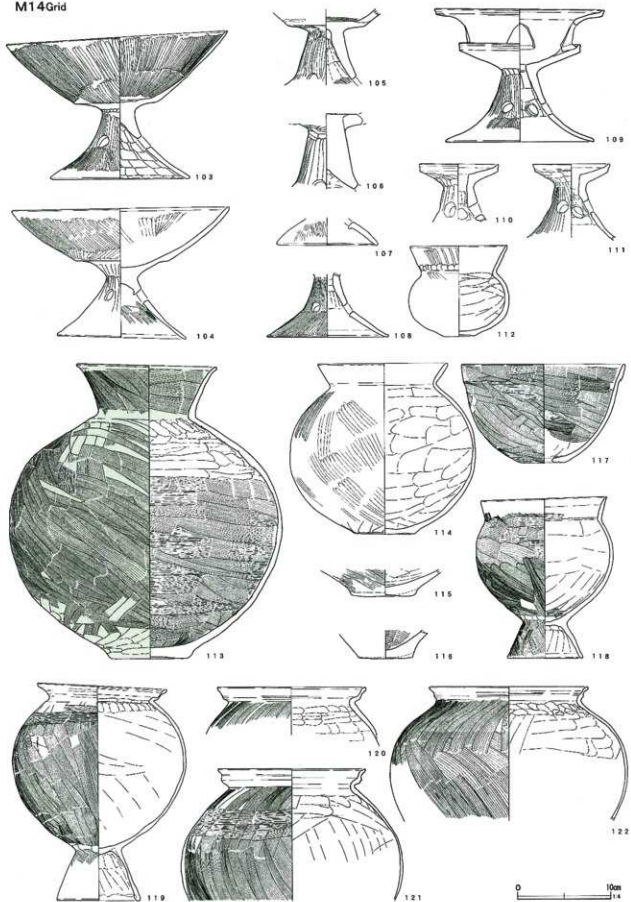


M15Grid

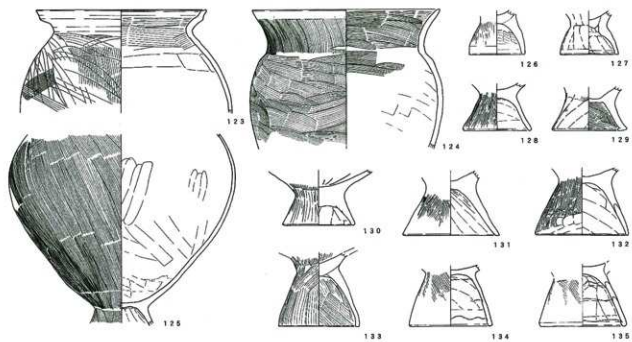


第69图 第464号满踪出土遗物(4)

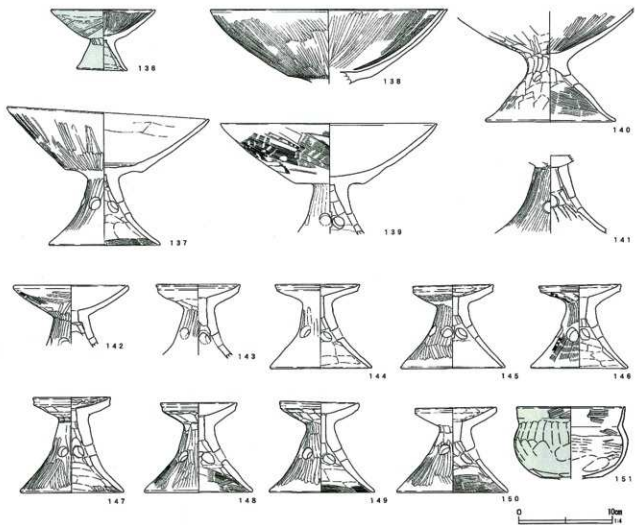
M14Grid



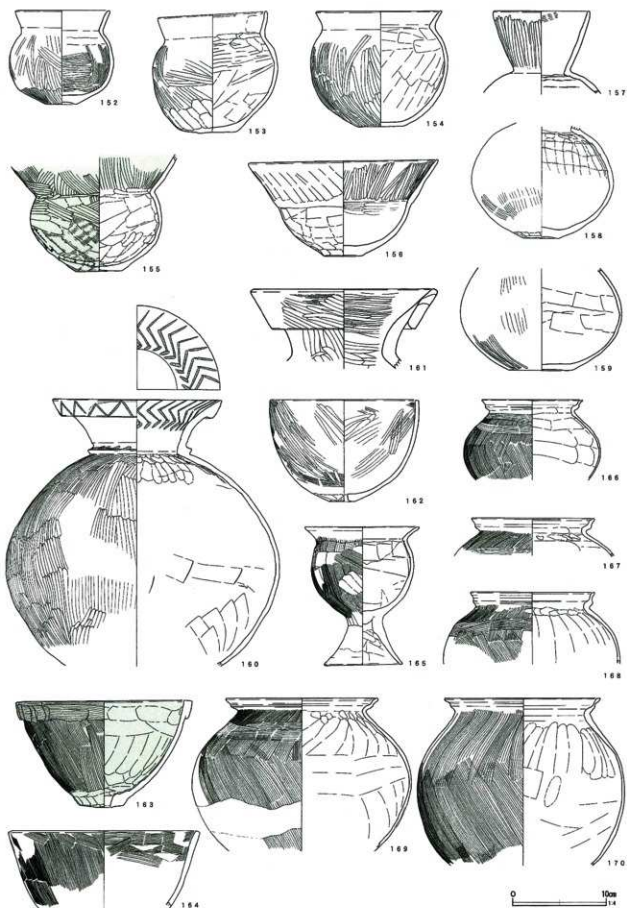
第70图 第464号满踪出土遗物 (5)



M13Grid



第71图 第464号满跡出土遗物 (6)



第72图 第464号清跡出土遺物(7)